

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ科学概論		担当教員	丸山富雄/鈴木省三/藪耕太郎			
	Sport Science(L.)						
領域水準コード	R1	単位数	2	履修方法	必修	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
スポーツ科学に関連して人文・社会・自然の分野から講義する。(1)スポーツ科学の総体と役割、そしてそこにおける人文科学領域について概説するとともに、スポーツ科学の中心的な対象であるスポーツ事象についての基本的認識を高める。(2)現代社会のスポーツ界の様々な状況や課題について、近代スポーツ、現代スポーツの対比から講述する。(3)フィットネスやトレーニングに関する最新の科学的成果について解説する。							
<b>授業の一般目標</b>							
スポーツ・健康関連分野で生起している諸問題について、人文、社会、自然の各学術分野の観点から深く理解することができる。とくに各学術分野で問題になっているテーマや動向等について客観的に理解したうえで、さらに自分の意見を付帯させながら説明することができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<b>■ 認知的領域</b>	スポーツ科学の個別具体的な各論について科学的に理解し、関連して自分の意見を深めることができる。						
<b>■ 情意的領域</b>	スポーツ科学の各論に関して強い関心を持ち、関連する事項について積極的に調べようと努力する。						
<b>■ 技能表現的領域</b>	学んだことや調べたことをわかりやすくまとめることができる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
授業を大きく3分割し、それぞれ「人文学」「社会科学」「自然科学」的な研究とする。最初の5回では、スポーツの意味と役割を人文学的な見地から講義する。次の5回は、社会背景から近代スポーツおよび現代スポーツの特徴と課題を探索する。最後の5回は、運動・スポーツが人々の健康や体力に及ぼす影響について明らかにし、現状の課題について探索することを課題とする。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1 数	<b>【テーマ】</b> スポーツと「真」 <b>【内容】</b> スポーツは我々に何をもちたのだろうか。プラトンの身体観、体育思想やアリストテレスの「よき生活」「閑暇」を手掛かりに考える。	9 丸山	<b>【テーマ】</b> 現代スポーツとその課題(2) <b>【内容】</b> 現代スポーツの特徴を、スポーツの膨張現象、近代スポーツの崩壊、多様なポストモダン・スポーツとして捉え、その背景を含め概説する。				
2 数	<b>【テーマ】</b> スポーツと「美」 <b>【内容】</b> スポーツは「美しい」のだろうか。中井正一の美的体験論と竹内敏雄の機能美論を手掛かりに考える。	10 丸山	<b>【テーマ】</b> 現代スポーツとその課題(3) <b>【内容】</b> 今日、喫緊の課題となっている「総合型地域スポーツクラブ」に関し、その特徴を解説するとともに、その登場の背景について「近代性のゆらぎ」現象から分析する。				
3 数	<b>【テーマ】</b> スポーツと「善」 <b>【内容】</b> スポーツは「善」なのだろうか。戸坂潤のスポーツ阿片論とアドルノのマップヒズム論を手掛かりに考える。	11 鈴木	<b>【テーマ】</b> 運動・休養・栄養とコンディショニング <b>【内容】</b> 超回復とコンディショニングの関係について運動・休養・栄養の側面から、最新の研究成果を基に解説する。さらに、受講者自身のコンディショニング法について運動・休養・栄養の側面から発表してもらい、それぞれの課題に対して討議する。				
4 数	<b>【テーマ】</b> スポーツと「遊」 <b>【内容】</b> スポーツが遊びの領域から遠ざかるのはなぜか。ホイジンガのプレイ論とカイヨワの聖俗論を手掛かりに考える。	12 鈴木	<b>【テーマ】</b> 持久力と健康・体力 <b>【内容】</b> 持久力が健康・体力に及ぼす影響について、最新の研究成果を基に解説する。さらに、受講者自身の持久力と健康・体力の関係について発表してもらい、それぞれの課題に対して討議する。				
5 数	<b>【テーマ】</b> スポーツと「祭」 <b>【内容】</b> 日常を生きる私たちにとってスポーツの非日常性とはなにか。バフチンのカーニバル論とヘブディジのサブカルチャー論を手掛かりに考える。	13 鈴木	<b>【テーマ】</b> 筋力・パワーと健康・体力 <b>【内容】</b> 筋力・パワーが健康・体力に及ぼす影響について、最新の研究成果を基に解説する。さらに、受講者自身の筋力・パワーと健康・体力の関係について発表してもらい、それぞれの課題に対して討議する。				
6 丸山	<b>【テーマ】</b> 近代スポーツの成立とスポーツ観(1) <b>【内容】</b> トマス・アーノルドのバプティックスクール改革を中心に、如何にして今日のグローバル化した近代スポーツが誕生したかを概説する。	14 鈴木	<b>【テーマ】</b> 神経系と健康・体力 <b>【内容】</b> 神経系が健康・体力に及ぼす影響について、最新の研究成果を基に解説する。さらに、受講者自身の神経系と健康・体力の関係について発表してもらい、それぞれの課題に対して討議する。				
7 丸山	<b>【テーマ】</b> 近代スポーツの成立とスポーツ観(2) <b>【内容】</b> 「アスレティズム」、すなわち集団スポーツを人格陶冶の有効な手段として重視する近代スポーツ規範が如何に成立したかを、19世紀イギリスの社会背景から概説する。	15 鈴木	<b>【テーマ】</b> 発育・発達と健康・体力 <b>【内容】</b> 発育・発達が健康・体力に及ぼす影響について、最新の研究成果を基に解説する。さらに、受講者自身の発育・発達と健康・体力の関係について発表してもらい、それぞれの課題に対して討議する。				
8 丸山	<b>【テーマ】</b> 現代スポーツとその課題(1) <b>【内容】</b> オリンピックをIOCによるスポーツ界の統括と捉え、その課題や、さらに政治・経済的な問題点について指摘する。	16	<b>【試験または課題】</b> <b>【方法】</b>				
<b>授業外学習の指示等</b>							
藪担当授業→授業内容に記した著者とその作品を自分なりに調べておくこと。 丸山担当授業→近代産業社会、および高度経済成長後の成熟社会とは何かを調べておくこと。 鈴木担当授業→各種体力要素と健康・体力の関係について調べておくこと。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
ポートフォリオおよび出席等を総合的に評価する。その際、人文、社会、自然の各5回の授業ごとに評価し、3回の評価の平均点を、この授業の評価とする。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>						<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合			
成績評価方法	(%)						
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
授業外のレポート							
ポートフォリオ	◎	○	◎	80			
出席					20		
その他							
関連科目	スポーツ科学特講						
教科書				参考書	朝比奈他編著『スポーツの科学的原理』大修館書店		
連絡先	丸山:E棟2階、OH月曜14:20~15:50/鈴木:A棟402、OH金曜10:30~11:50/藪:A棟305、OH火曜12:40~14:10						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	情報リテラシー		<b>担当教員</b>	栗木一博/荒井龍弥			
	Information Literacy						
<b>領域水準コード</b>	R1	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	必修	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>							
<p>先行研究・調査・実験等を通じ得られる情報は得てして大量なものとなる。これらの情報はそのままでは有効なものとはならない。必要に応じ、取捨選択・加工していくことが必要である。本講では情報リテラシーのうち、とくにデータの加工・読み取り・表現に焦点をあて、受講者の基本的スキルの向上を目指す。</p>							
<b>授業の一般目標</b>							
<p>所与のデータに対し、基本的統計情報を算出することができる。また、それらの統計情報をわかりやすく表現することができる。</p>							
<b>授業の到達目標</b>							
<input checked="" type="checkbox"/> <b>認知的領域</b>	標準偏差、検定、相関等の基本的統計情報に習熟するとともに、質問紙法等の研究で多用される多変量解析の流れを理解できる。						
<input type="checkbox"/> <b>情意的領域</b>							
<input checked="" type="checkbox"/> <b>技能表現的領域</b>	基本的統計情報を算出・表現できる。また、質問紙法調査(アンケート)の一般的な結果処理を行うことができる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
<p>全体を2分する。前半では、主に表計算アプリケーション(EXCEL)を用いたデータ処理の方法を実習する。後半では、主に統計解析用アプリケーション(SPSS)の使用法ならびにSPSSを用いた質問紙調査の一般的流れに従って実習を行う。</p>							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	<p><b>【テーマ】</b> オリエンテーション(栗木) <b>【内容】</b> 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法</p>	9	<p><b>【テーマ】</b> 統計解析ソフトSPSSの概要(荒井) <b>【内容】</b> SPSSの特徴(データ定義、基礎統計量の算出、検定、多変量解析等)について紹介する。</p>				
2	<p><b>【テーマ】</b> 表計算ソフトウェアExcelの概要(栗木) <b>【内容】</b> 表計算ソフトウェアExcelの基本的な操作方法、入力ために知っておくと便利な機能などについて解説する。</p>	10	<p><b>【テーマ】</b> SPSSによるデータ入力の方法(荒井) <b>【内容】</b> 質問紙(評定法)の試作を行う。また、それらに対し互いに回答したものを演習データとし、その入力を行う。</p>				
3	<p><b>【テーマ】</b> 関数の操作①(栗木) <b>【内容】</b> 関数についての考え方とExcelにあらかじめ組み込まれている基本的な関数の使用方法を解説する。</p>	11	<p><b>【テーマ】</b> 回答データの加工法(荒井) <b>【内容】</b> 評定法では一般的な回答の単純加算、逆転項目の処理等について実習する。</p>				
4	<p><b>【テーマ】</b> 関数の操作②(栗木) <b>【内容】</b> 条件分岐を扱う関数を利用して、効率的にデータを処理する方法を解説する。</p>	12	<p><b>【テーマ】</b> 多変量解析1(荒井) <b>【内容】</b> 因子分析の考え方、利用法をデータに即して解説、実習する。</p>				
5	<p><b>【テーマ】</b> 関数の操作③(栗木) <b>【内容】</b> データベース関数など少し高度な内容の関数の使用方法を解説する。</p>	13	<p><b>【テーマ】</b> 多変量解析2(荒井) <b>【内容】</b> 重回帰分析の考え方、利用法をデータに即して解説、実習する。</p>				
6	<p><b>【テーマ】</b> ピボットテーブルの利用(栗木) <b>【内容】</b> ピボットテーブルの使用方法について解説し、クロス集計やその分析方法について説明する。</p>	14	<p><b>【テーマ】</b> 検定のいろいろ(荒井) <b>【内容】</b> t検定、相関検定、分散分析などの検定の考え方、利用法をデータに即して解説、実習する。</p>				
7	<p><b>【テーマ】</b> 「分析ツール」の使用方法①(栗木) <b>【内容】</b> 「分析ツール」を利用して度数分布表を作成する方法を解説する。</p>	15	<p><b>【テーマ】</b> 試作質問紙の結果検討(荒井) <b>【内容】</b> 試作した質問紙の結果について、これまで分析、検討した結果を発表しよう。</p>				
8	<p><b>【テーマ】</b> 「分析ツール」の使用方法②(荒井) <b>【内容】</b> 「分析ツール」を利用して記述統計量を算出したり、主成分分析を行なう方法を解説する。</p>	16	<p><b>【試験または課題】</b> <b>【方法】</b></p>				
<b>授業外学習の指示等</b>							
<p>解説されたアプリケーション機能および統計処理について各種データを用い復習し、習熟すること。</p>							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
<p>正確かつ迅速にデータの処理が可能か、また処理結果の解釈は妥当かどうかという観点から評価する。</p>							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	積み重ね的内容が多いので、なるべく欠席しないこと。また、欠席した場合には内容を問い合わせ、自学して補うこと。		
定期試験(期末試験)	○		○	30			
小テスト・授業内レポート	○		○	40			
授業外のレポート							
ポートフォリオ	○		○	30			
出席	○		○	認定条件			
その他							
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>				<b>参考書</b>			
<b>連絡先</b>							
栗木:E棟2F(kz-awaki@sendai-u.ac.jp)／荒井:A棟3F309(tt-arai@sendai-u.ac.jp)							

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	キャリアマネジメント特講			担当教員	奥田寛司		
	Carrier Management (L.)						
領域水準コード	R2	単位数	2	履修方法	必修	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
スポーツ・健康関連分野に求められる高度な職能開発のための有効な理念・目的を明確化し、目的・目標設定の仕方、長期的および短期的な学修・生活設計の仕方、そのための実践的な理論や方法について教授研究する。							
<b>授業の一般目標</b>							
スポーツ・健康関連分野を担う高度な職能開発のための有効な施策に関する理論や方法について理解する。そのうえで、各自のキャリア目標等を設定し、生涯にわたるキャリアデザインを設計することができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<b>■ 認知的領域</b>	自らに必要な社会人基礎力と自・他に目を向けたキャリアマネジメント方法について解説することができる。						
<b>■ 情意的領域</b>	キャリアにかかわる社会動向、公の施策、自らの人生設計に関心を向け、職能開発に取り組もうとする意欲を高める。						
<b>■ 技能表現的領域</b>	社会的自己実現に向けた目的・目標を設定することができる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
キャリアにかかわる主要概念と現状を整理し、また各界で活躍している職業人を考察し、社会人基礎力についての理解を深めながら、今後の人生を設計し、それを規定のシートにまとめて提出する。さらに、社会的自己実現につながる職能開発に向けた理論と方法について、高等教育の最前線で用いられている教育手法を実際に体験することにより更なる理解を深める。それらの総括として、規定のシートに、目的を反映させた目標を設定し、その達成に向けた下位目標・取り組みをまとめて提出する。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	<b>【テーマ】</b> 導入(キャリアマネジメントに関する基礎理論) <b>【内容】</b> キャリアマネジメントに関する基礎理論について、興味・価値観、能力という観点から理解する。	9	<b>【テーマ】</b> 自己分析・適職発見② <b>【内容】</b> 自己分析・適職発見診断テストの結果を読み、自らのキャリアマネジメントに向けて考える。				
2	<b>【テーマ】</b> スポーツ健康関連分野で求められる能力とは <b>【内容】</b> スポーツ健康関連分野で働かれている人たちの仕事をケース事例として、その中で求められる能力を考察する。	10	<b>【テーマ】</b> 能力開発の振り返り <b>【内容】</b> 7で作成した行動計画の実施状況や自己の能力を振り返り、この間の能力変化を理解する。				
3	<b>【テーマ】</b> 能力の伸ばし方を考える① <b>【内容】</b> 2で把握したスポーツ健康関連分野で求められる能力(特に、社会人基礎力)の伸ばし方を理解するため、グループワークを行う。	11	<b>【テーマ】</b> 能力開発の再計画 <b>【内容】</b> 10の振り返りを踏まえ、7で作成した行動計画を修正し、再度目標設定・行動計画作成を行う。				
4	<b>【テーマ】</b> 能力の伸ばし方を考える② <b>【内容】</b> 2で把握したスポーツ健康関連分野で求められる能力(特に、社会人基礎力)の伸ばし方を理解するため、グループワークを行う。	12	<b>【テーマ】</b> 成果発表会① <b>【内容】</b> 11で作成した行動計画を踏まえ、11以来頑張ってきたことや自らの成長ぶりについて、プレゼンテーションを行う。				
5	<b>【テーマ】</b> 能力の伸ばし方を考える③ <b>【内容】</b> 3, 4で行ったグループワークの結果をまとめ、グループ毎にプレゼンテーションを行う。	13	<b>【テーマ】</b> 成果発表会② <b>【内容】</b> 11で作成した行動計画を踏まえ、11以来頑張ってきたことや自らの成長ぶりについて、プレゼンテーションを行う。				
6	<b>【テーマ】</b> 能力の育成方法を知る <b>【内容】</b> 他者の能力(社会人基礎力)を育成する方法(教育手法)を理解する。	14	<b>【テーマ】</b> 成果発表会③ <b>【内容】</b> 11で作成した行動計画を踏まえ、11以来頑張ってきたことや自らの成長ぶりについて、プレゼンテーションを行う。				
7	<b>【テーマ】</b> 能力の開発方法を知る <b>【内容】</b> 自己の能力(社会人基礎力)を開発する方法として、目標設定・行動計画作成を実践し、理解する。	15	<b>【テーマ】</b> 成果発表会④ <b>【内容】</b> 11で作成した行動計画を踏まえ、11以来頑張ってきたことや自らの成長ぶりについて、プレゼンテーションを行う。また、講師から全体講評の後、今後の自らのキャリアマネジメント計画を作成する。				
8	<b>【テーマ】</b> 自己分析・適職発見① <b>【内容】</b> 自らのキャリアマネジメントに向けて、自己分析・適職発見診断テストを受検する。						
<b>授業外学習の指示等</b>							
①集中講義形式であり、各日程終了後、日常生活における課題が出されるので、自己の成長に向けた活動を継続すること。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
個人課題(授業内及び授業外)、グループ課題、成果発表で70点、授業中の各種ワークへの参加態度で30点、合計100点満点。 ※各課題については、記述内容(質)と記述文字数(量)を評価。グループ課題については、発表内容と協働状況(質)を評価							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	注意事項 ①4回以上の欠席者には、単位を与えない。 ②全ての課題を提出していない者には、単位を与えない。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎	○	◎	50			
授業外のレポート	○	◎	○	20			
ポートフォリオ							
出席				欠格条件			
その他	○	◎	○	30			
関連科目	キャリアマネジメント演習						
教科書	自己分析・適職発見プログラム「R-CAP」			参考書	経済産業省「今日から始める 社会人基礎力の育成と評価」(角川学芸出版)		
連絡先	丸山:E棟2階、OH月曜14:20～15:50						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	スポーツ科学指導演習 Teaching Method of Sport Science (S.)	<b>担当教員</b>	久能和夫・牛 志奎		
<b>領域水準コード</b>	R3	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択
<b>授業の方法</b>					
演習					
<b>授業の概要</b>					
スポーツ科学の基本的な知識や理論を、次年度の前期に1年生に対して「スポーツ科学特論」の中で教授する。そのための指導計画書および指導上の留意事項について、この授業を通して策定することが、本演習の目的である。					
<b>授業の一般目標</b>					
スポーツの専門的指導者として求められる教授技法を獲得する。ここでは特にスポーツ科学の知識や理論を、学習者に教授するために適切な内容・水準・方法を策定することができることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>■ 認知的領域</b>	スポーツ科学を教授するために適切な内容や方法を考案し、適切な教授技法の留意点を理解する				
<b>■ 情意的領域</b>	他と共同しながら与えられた課題を積極的に解決しようと努力する				
<b>■ 技能表現的領域</b>	調べたことをわかりやすくまとめてプレゼンテーションすることができる				
<b>授業計画(全体)</b>					
一般的な学習指導計画書の立案法等についてレクチャーする。そのあとは各グループに分かれて、学習指導計画書ならびに指導上の留意事項を、所定の課題を行いながら策定する。					
<b>授業計画(詳細)</b>					
<b>授業テーマとその内容</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.一般的な学習指導計画書の立案のための基本知識や方法などについて学習する。</li> <li>2.その方法に従って「スポーツ科学特論」の学習指導計画書概要案をグループごとに立案する。</li> <li>3.立案した学習指導計画書概要案をプレゼンテーションする。</li> <li>4.各グループが立案した学習指導計画書概要案をもとに、最終的に1つの学習指導計画書概要案を策定する。</li> <li>5.同概要案が確定したら、人文、社会、自然などの分野に単元をわけて、各単元についてさらに授業時間ごとの詳細な学習指導計画書をグループごとに立案する。</li> <li>6.立案した同計画書をグループごとにプレゼンテーションする。</li> <li>7.実際の指導の際に必要な技法や注意点など、指導上の留意事項について各グループでリストアップする。</li> <li>8.同学習指導計画書の一部について各グループの代表者が実際に授業を実施する。</li> <li>9.行われた授業について相互に評価しあう。</li> <li>10.これらの作業を踏まえたで最終的な学習指導計画書ならびに指導上の留意事項について策定する。</li> </ol>					
<b>授業外学習の指示等</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教授技法の理論や要点に関する多様な資料を積極的に収集すること</li> <li>2. 本学の教員等に依頼し、許可を得られれば授業の観察等を行うこと</li> <li>3. 専門分野の学習内容についてはそれぞれの教員に相談すること</li> </ol>					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
学習指導計画書(40%) + 指導上の留意事項(10%) + プレゼンテーション(20%) + ポートフォリオ(30%)					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
	<b>到達目標</b>	<b>認知的領域</b>	<b>情意的領域</b>	<b>技能表現的領域</b>	<b>評価割合 (%)</b>
<b>成績評価方法</b>					1.4回以上欠席の場合、単位認定の欠格次項とする。
定期試験(期末試験)					
小テスト・授業内レポート			◎	60	
授業外のレポート					
ポートフォリオ		◎	◎	40	
出席		◎		欠格条件	
その他					
<b>関連科目</b>	スポーツ科学特講				
<b>教科書</b>		<b>参考書</b>	「成長するティップス先生」(名古屋大学) 「シラバスの作成」(山口大学FDハンドブック)		
<b>連絡先</b>	久能:A棟3階307/牛 志奎:A棟5階514				

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ科学特講		担当教員	久能和夫・牛 志奎			
	Special study of Sport Science (L.)						
領域水準コード	R2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
授業の概要							
1年次後期の「スポーツ科学指導演習」において学習した教授技法を1年生に対して実際に講義する内容である。内容はスポーツ科学の基本的な知識や理論であり、演習で作成した指導計画書および指導上の留意事項に基づき実践する。1年生は受講生として講義を聞くが、次年度は逆の立場であることを認識することが重要である。							
授業の一般目標							
スポーツの専門的指導者として求められる教授技法を2年生の講義実践に基づき獲得しようとする。ここでは特にスポーツ科学の知識や理論を、学習者に教授するために適切な内容・水準・方法を体験し、後期の「スポーツ科学指導演習」にうまくつなげられるようにすることを目標とする。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	スポーツ科学を教授するために適切な内容や方法を体験し、適切な教授技法の留意点を理解する						
■ 情意的領域	学習者として教授者の意図に沿えるように努力する						
■ 技能表現的領域	教授者の事前予習に備えて学習しておき、授業後のレポートやポートフォリオにも積極的に取り組む						
授業計画(全体)							
2年生による学習指導計画書に基づく講義を1年生が学習者として受講する。予習への取り組み(教授者によってはある)、授業日の学習者としての役割(質疑応答や授業評価等)、また課題(教授者によってはある)への取り組みといった流れが一般的なものである。							
授業計画(詳細)							
授業テーマとその内容							
<p>「スポーツ科学指導演習」の内容は下記の通りであり、これらを通して構築された講義を学習者として受講する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一般的な学習指導計画書の立案のための基本知識や方法などについて学習する。</li> <li>その方法に従って「スポーツ科学特論」の学習指導計画書概要案をグループごとに立案する。</li> <li>立案した学習指導計画書概要案をプレゼンテーションする。</li> <li>各グループが立案した学習指導計画書概要案をもとに、最終的に1つの学習指導計画書概要案を策定する。</li> <li>同概要案が確定したら、人文、社会、自然などの分野に単元をわけて、各単元についてさらに授業時間ごとの詳細な学習指導計画書をグループごとに立案する。</li> <li>立案した同計画書をグループごとにプレゼンテーションする。</li> <li>実際の指導の際に必要な技法や注意点など、指導上の留意事項について各グループでリストアップする。</li> <li>同学習指導計画書の一部について各グループの代表者が実際に授業を実施する。</li> <li>行われた授業について相互に評価しあう。</li> <li>これらの作業を踏まえて最終的な学習指導計画書ならびに指導上の留意事項について策定する。</li> </ol>							
授業外学習の指示等							
<ol style="list-style-type: none"> <li>教授者によっては予習の必要があるので、その場合はしっかりと準備しておくこと</li> <li>教授者によっては授業後に課題を指示することがあるので、その場合はしっかりと取り組むこと</li> <li>その他必要に応じてそれぞれの教員(担任)に相談すること</li> </ol>							
成績評価方法(方針)							
授業日の意欲的関与度+授業評価+授業外レポート+ポートフォリオにより総合的に評価する。各評価指標の割合(%)は2年生の授業内容・方法によって異なるので、それらを踏まえて配分する。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1.〇回以上欠席の場合、単位認定の欠格事項とする。		
成績評価方法							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎		◎				
授業外のレポート	◎						
ポートフォリオ		◎	◎				
出席		◎		欠格条件			
その他		◎					
関連科目	「スポーツ科学指導演習」「スポーツ科学概論」						
教科書		参考書	「成長するティップス先生」(名古屋大学) 「シラバスの作成」(山口大学FDハンドブック)				
連絡先	久能:A棟3階307/牛 志奎:A棟5階514						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	学校教育学特講			<b>担当教員</b>	山谷幸司/渡邊康男/荒井龍弥/大内悦夫/久能和夫/志賀野博/金井里弥/牛志奎		
	Special Lecture on School Education(L.)						
<b>領域水準コード</b>	A3	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>							
学校教育に関する最新事情について、①学校・教職をめぐる状況変化、②子どもの変化、③教育政策の動向、④学校の内外での連携協力の四つの観点から詳述する。							
<b>授業の一般目標</b>							
上記四つの観点から学校教育に関する最新事情を理解するとともに、それらを踏まえて学校教育の改善課題について考察できるようになる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input checked="" type="checkbox"/> <b>認知的領域</b>	学校教育に関する最新事情に関して説明できる。						
<input checked="" type="checkbox"/> <b>情意的領域</b>	学校教育の改善課題について関心を持ち、自分の意見を論理的に述べることができる。						
<input type="checkbox"/> <b>技能表現的領域</b>							
<b>授業計画(全体)</b>							
本講義では、①学校をめぐる状況変化と教育改革の動向、②専門職たる教員の役割、③子どもの発達に関する課題、④特別支援教育に関する新たな課題、⑤生活の変化を踏まえた適切な指導のあり方、⑥学習指導要領改訂等の動向、⑦学校における各種課題に対する組織的対応のあり方、⑧子どもの適切な生徒指導のあり方と学校における危機管理、に関する最新事情を講述するとともに、各テーマについて受講者相互の討議等により内容を深める。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] 学校をめぐる状況変化と教育改革の動向① [内容] 学校をめぐる状況の変化と近年の教育改革の特徴について、具体的なデータ、資料にもとづいて学ぶ。	9	[テーマ] 子どもの生活変化を踏まえた適切な指導のあり方③ [内容] 居場所作りを意識した学級経営における生徒指導の概念について、学級集団への指導の原理・方法・進め方等学級集団の指導と個の指導のあり方から考察する。				
2	[テーマ] 専門職たる教員の役割① [内容] 教師として成長するためには研修が必要である。子ども観・教師観をしっかりとらえ、専門職たる教員の役割について学ぶ。	10	[テーマ] 学習指導要領改訂等の動向① [内容] 平成20年の小学校・中学校学習指導要領改訂、平成21年の高等学校学習指導要領改訂の基本理念と特質について検討する。				
3	[テーマ] 子どもの発達に関する課題① [内容] ①学習者が示す学習内容の「型わけ」事例を学ぶとともに、②学年進行に伴う学習効果の変化状況と学習効果の定着を促進するための学習内容の「関連づけ」方略の概略を考察する。	11	[テーマ] 学習指導要領改訂等の動向② [内容] 子どもの学習意欲と意欲を喚起する学習指導について検討する。				
4	[テーマ] 子どもの発達に関する課題② [内容] 学年進行に伴う学習効果の変化状況を述べるとともに、効果の定着を促進するための学習内容の「関連づけ」方略の概略とその可能性を検討する。	12	[テーマ] 教育改革の動向 [内容] 教育再生懇談会や中央教育審議会等の国の審議会の動向、さらに教育基本法、学校教育法等の主要法令や教育職員免許法等の教師教育に関わる法令の改正の要点について概説し、近年の教育改革の特徴と今後の展望について考察する。				
5	[テーマ] 子どもの発達に関する課題③ [内容] 特別支援教育に関する新たな課題のうち、「障害の理解」について国内外の資料を基に解説する。	13	[テーマ] 各種教育課題に対する組織的対応のあり方① [内容] 「学校組織の一員としてのマネジメントマインドの形成」組織の視点から教員個々の存在の意味等について理解を図る。「保護者・地域社会との連携」連携の必要性、種類、方法等を説明する。				
6	[テーマ] 子どもの発達に関する課題④ [内容] 特別支援教育に関する新たな課題のうち、通常の学級に在籍する気になる子どもたち(学習障害、注意欠陥/多動性障害、高機能自閉症等)についての理解と教育的支援について解説する。	14	[テーマ] 各種教育課題に対する組織的対応のあり方② [内容] 「対人関係、日常的コミュニケーションの重要性」教育目標具現化のために教員間の共通理解や教員同士の信頼に満ちた触れ合いはどのようにすれば構築できるのか、その方法等を探る。				
7	[テーマ] 子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導のあり方① [内容] 児童期・思春期の心理的特徴や問題について解説しながら、子供の心に触れる見方と話の聴き方について解説、検討する。	15	[テーマ] 学校における危機管理上の課題 [内容] 危機についてその発生要因と児童生徒に関わる危機の実態から考察する。また、危機対応と危機介入について概説し危機対応の課題を考察する。				
8	[テーマ] 子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導のあり方② [内容] 主に、子供の観察の視点、話の聴き方について事例を紹介しながら、カウンセリングマインドの必要性について検討を加える。簡単な実習も予定している。	16	[試験または課題] レポートの作成 [方法] 第1回から第15回までの講義のから、2以上に関わるテーマを各自設定してレポートをまとめる(4000字以上)。				
<b>授業外学習の指示等</b>							
・新聞やテレビをとおして現在の学校教育が抱える諸課題について知るとともに、それらに関する各自の見解をまとめておくこと。 ・講義中に提示された課題を学習者が解決できるようになるための学習援助原案を作成すること(荒井担当)。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
期末レポートの結果に、ポートフォリオおよび授業への参加態度を加味して評価する。なお、レポートの提出を筆記試験に代えることがある。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	本授業は、教員免許状更新講習の「教育の最新事情に関する事項」(12時間)に該当する。授業は教員の講義を中心とするが、受講者相互の討議や事例報告なども行う場合がある。受講者の積極的な授業参加を強く望む。	
成績評価方法							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
授業外のレポート	◎				60		
ポートフォリオ	○				20		
出席	○		◎		10		
その他	○		○		10		
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>				教科書は使用しない。			
<b>参考書</b>				授業時に紹介する。			
<b>連絡先</b>							
山谷、渡邊、荒井、大内、久能、志賀野、金井:A棟3階、/牛:A棟5階							

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	学習心理学特講			担当教員	荒井龍弥/北村勝朗		
	Current psychology of learning and instruction (L.)						
領域水準コード	A2,B2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
指導者が最適な「育てかた」を模索していく際、さまざまな観点からの学習者の把握が欠かせない。このうち、学習者の「才能」「熟達」に関する把握や、学習内容に対する先入見、「学習観」などといった観点が重要である。これらについて最新の知見を紹介しつつ、学習研究の方法についても検討を加える。							
<b>授業の一般目標</b>							
学習者がもつ才能、熟達度の変化、学習観、先入見などについて一定の予想を立てることができる。また、それに基づいた効果的教育内容・方法の計画を立てられる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input checked="" type="checkbox"/> 認知的領域	学習心理学における研究動向を理解できる。						
<input type="checkbox"/> 情意的領域							
<input checked="" type="checkbox"/> 技能表現的領域	学習者内要因把握のための調査原案を立てられる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
授業はオムニバス方式(北村担当分と荒井担当分はわかる)で行う。北村担当分は集中で、荒井担当分は通常期に実施する。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	<b>【テーマ】</b> スポーツにおける学習と才能 <b>【内容】</b> 才能に関する諸理論にもとづき、スポーツの才能学習・育成について、具体例をもとに説明する。	9	<b>【テーマ】</b> 学習心理学と「概念」 <b>【内容】</b> 概念の諸側面(外延、内包、概念名辞)について、具体例をもとに説明する。				
2	<b>【テーマ】</b> 熟達化過程から捉える学習 <b>【内容】</b> エキスパート・スポーツ選手の熟達化過程を手がかりに、学習の過程としての熟達化理論を検討する。	10	<b>【テーマ】</b> 学習者のもつ「誤概念」 <b>【内容】</b> 学習者のもつ誤概念の事例について、説明するとともに、その修正の意義を検討する。				
3	<b>【テーマ】</b> 様々な領域における熟達化と学習 <b>【内容】</b> 音楽、芸術、科学領域のエキスパートの事例をもとに、熟達化に影響を及ぼす諸要因について検討する。	11	<b>【テーマ】</b> 学習者のもつ「誤概念」と法則 <b>【内容】</b> 学習者の誤りは単に「覚え間違い」「勘違い」などだけではなく、何らかの論理操作の所産であることを示す。				
4	<b>【テーマ】</b> 熟達化モデルの検証 <b>【内容】</b> 才能を開花させるための学習の方法について、具体例をもとにモデルの検証を行う。	12	<b>【テーマ】</b> スポーツ・体育における「誤法則」とは <b>【内容】</b> スポーツに関して学習者が持っている誤法則について例示し、その調査法について議論する。				
5	<b>【テーマ】</b> 才能の視点から捉える学習指導 <b>【内容】</b> 熟達化理論にもとづき、才能を最大限伸ばすための指導の在り方について検討する。	13	<b>【テーマ】</b> スポーツ・体育における「誤法則」修正の方略 <b>【内容】</b> 学習者のもつ「誤法則」を正しいものに「組み替える」方法について検討する。				
6	<b>【テーマ】</b> 熟達化を促進する学習指導実践 <b>【内容】</b> スポーツにおける学習指導の具体的な事例をもとに、学習者の熟達化に作用する指導実践を例示するとともに、その理論的裏付けについて検討する。	14	<b>【テーマ】</b> 学習者の「学習観」 <b>【内容】</b> 学習者が持ってしまっている「学習観」について説明し、履修者自身ないし自身が関わる学習者の学習観を確認する。				
7	<b>【テーマ】</b> 様々な領域における学習指導実践 <b>【内容】</b> 音楽、芸術、科学領域における学習指導の具体的な事例をもとに、学習者の熟達化に作用する指導実践を例示するとともに、その理論的裏付けについて検討する。	15	<b>【テーマ】</b> 学習者の「学習観」を修正するために <b>【内容】</b> 学習者の学習観修正のための計画を、履修者自身の選択する学習領域にもとづき検討する。				
8	<b>【テーマ】</b> 才能と熟達化から捉える学習心理学 <b>【内容】</b> 才能を開花させるための学習の方法および指導方法について、履修者自身の課題意識にもとづき検討する。	16	<b>【試験または課題】</b> レポート課題 <b>【方法】</b> 北村担当分、荒井担当分別に課題を設定する。				
<b>授業外学習の指示等</b>							
提示された話題に関し、自分なりに回答してみる。また、それらをどうすれば効果的な学習に結び付けられるか、原案を作成してみる。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
随時レポートを課すとともに、ポートフォリオも点検する。レポート提出をもって定期試験に代える。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	北村担当の集中は、全日程出席してほしい。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎			25			
授業外のレポート	◎		◎	50			
ポートフォリオ	◎			25			
出席							
その他							
関連科目							
教科書				参考書			
連絡先							
荒井龍弥、tt-arai@sendai-u.ac.jp / 北村勝朗、東北大学大学院教育情報学研究所、kats@mail.tains.tohoku.ac.jp							

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	体育科教育学特講 Special Study of Pedagogy of Physical Education		<b>担当教員</b>	池田 延行			
<b>領域水準コード</b>	A1	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>							
戦後の体育科教育の変遷を踏まえて、今後の体育科における授業づくりの考え方と進め方を講義する。							
<b>授業の一般目標</b>							
戦後の学校教育及び体育科教育の変遷を把握するとともに、今後の体育科における授業づくりの考え方と進め方を講義を通して実践的に理解できる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input checked="" type="checkbox"/> <b>認知的領域</b>	歴史的な変遷を踏まえた今後の体育科の授業づくりの考え方と進め方を理解し、実践に結びつけることができる。						
<input type="checkbox"/> <b>情意的領域</b>							
<input type="checkbox"/> <b>技能表現的領域</b>							
<b>授業計画(全体)</b>							
授業全体は講義形式で進める。毎回授業テーマに関連する資料等を提示しながら解説をしていく。なお、授業テーマに関連したDVD等の資料を提示したり、具体的に身体活動を通して授業テーマに迫ったりしていく。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法、等の説明	9	[テーマ] 新学習指導要領と授業づくり③ [内容] 個人的スポーツ領域(陸上運動・競技、器械運動、水泳など)の授業づくりのポイントについて解説する。				
2	[テーマ] 学校教育と体育科教育の変遷① [内容] 戦後の学校教育と体育科教育の変遷について解説する。	10	[テーマ] 児童・生徒の体力低下の現状と今後の取り組み① [内容] 児童・生徒の体力低下の現状について解説する。				
3	[テーマ] 学校教育と体育科教育の変遷② [内容] 「カリキュラム改革の振り子」について解説する。	11	[テーマ] 児童・生徒の体力低下の現状と今後の取り組み② [内容] 「体づくり運動領域」の授業づくりについて解説する。				
4	[テーマ] 学校教育と体育科教育の変遷③ [内容] 児童生徒の学力の状況と教育改革の道筋について解説する。	12	[テーマ] 体育授業を研究的に検討する。① [内容] 体育授業に関する代表的な著者(高田典衛、宇土正彦、他)を紹介し、内容を解説する。				
5	[テーマ] 学習指導要領の改訂について① [内容] 新体育科学学習指導要領の改訂プロセスについて解説する。	13	[テーマ] 体育授業を研究的に検討する。② [内容] 体育授業に関する実証的な研究論文を紹介し、内容を解説する。				
6	[テーマ] 学習指導要領改訂について② [内容] 新体育科学学習指導要領改訂のポイントについて解説する。	14	[テーマ] 体育授業を研究的に検討する③ [内容] 体育授業の分析方法、活用方法などについて具体例を紹介して解説する。				
7	[テーマ] 新学習指導要領と授業づくり① [内容] 指導内容の明確化と授業づくりとの関連について解説する。	15	[テーマ] 体育授業を研究的に検討する④ [内容] 体育授業の分析方法の幾つかを実際の模擬授業を通して実践する。				
8	[テーマ] 新学習指導要領と授業づくり② [内容] 「ボール運動・球技領域」の授業づくりのポイントについて解説する。	16	[テーマ] 講義内容のまとめ [内容] 講義内容全体をまとめるとともに、各人が講義内容をレポートする。				
<b>授業外学習の指示等</b>							
毎回の授業テーマに関する関連資料等を図書室で検索したり、先行文献を調べたりして、授業への理解を深めるようにする。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
講義の中でのテーマに関する質疑応答、提示資料の理解度、提出したレポート等を総合的に判断して評価をする。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>						<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	「体育は時代とともにある」ということを実践的に学ぶことができるように、授業づくりへの意欲を持って講義に臨んでほしい。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎			70			
授業外のレポート							
ポートフォリオ	○			30			
出席 その他		○		欠格条件			
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>				<b>参考書</b>			
提示する資料				新学習指導要領解説・体育編(小学校)、保健体育編(中学校)			
<b>連絡先</b>							
丸山:E棟2階、OH月曜14:20~15:50 ikedanb@kokushikan.ac.jp							



## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	体育科教育学演習			担当教員	井上雅勝		
	Seminar on the Pedagogy og Physical Education						
領域水準コード	A2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	演習
<b>授業の概要</b>							
<p>体育学習をめぐる諸問題および生涯スポーツを志向するこれからの体育学習の考え方について、様々な文献、具体的な授業実践などを手がかりに追究する。</p>							
<b>授業の一般目標</b>							
<p>主として体育学習をめぐる諸問題について検討していく中で、生涯スポーツを志向するこれからの体育学習のあり方を深く理解し、その認識を深める。</p>							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	体育学習をめぐる諸問題および生涯スポーツを志向するこれからの体育学習のあり方を説明できる						
■ 情意的領域	体育学習をめぐる諸問題および生涯スポーツを志向するこれからの体育学習のあり方について積極的に討論することができる						
□ 技能表現的領域							
<b>授業計画(全体)</b>							
<p>体育学習に関する文献を担当者がまとめ、その内容を報告し、それに基づいて討論を進める(講読会の実施)。また、実際の体育授業を見学またはビデオ視聴し、討論を適宜おこなう(授業検討会の実施)。</p>							
<b>授業計画(詳細)</b>							
<b>授業テーマとその内容</b>							
<p>&lt;講読会&gt;          ①講読する文献および報告担当者の決定          ②担当者による報告(レジュメの作成)          ③討論          ④まとめと課題          ※これを繰り返しおこなう。          ※講読する文献については、①学校体育に関するもの ②学校教育、学習に関するもの ③現代社会におけるスポーツの状況、生涯スポーツ、スポーツ指導に関するものなどが考えられる。ちなみにこれまで講読あるいは推奨した文献は、佐伯年詩雄著「これからの体育を学ぶ人のために」大修館書店、グリフィン他著「ボール運動の指導プログラム」大修館書店、友添秀則他編著「教養としての体育原理」大修館書店、雑誌「体育科教育」大修館書店などである。          ※討論の進め方については、主として担当者が討論したいテーマを提起し、そのテーマに関してフリーにディスカッションする。          ※授業終了後のまとめとしてポートフォリオを作成する。</p> <p>&lt;授業検討会&gt;          ①授業実践の見学または視聴          ②討論          ③まとめと課題          ※これを繰り返しおこなう</p>							
<b>授業外学習の指示等</b>							
<p>講読する文献の熟読および授業を通して出てきた疑問・課題等をクリアにするための追究</p>							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
<p>講読会における報告のまとめ方、討論における積極的な参加、生涯スポーツを志向するこれからの体育学習のあり方の理解の度合いを評価する。</p>							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	これからの体育学習のあり方を自分たちで創造していくというスタンスに立ち、常に問題意識を強く持ちながら積極的に討論に参加することを望む。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○		○	20			
授業外のレポート							
ポートフォリオ	◎		○	30			
出席 その他		○ ◎		欠格条件 50			
関連科目	体育科教育学特講 スポーツ倫理学特講など						
教科書	講読会で使用する文献			参考書	講義中、必要に応じて提示する。		
連絡先	井上 : LC棟2階 209号 内388 ms-inoue@sendai-u.ac.jp						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	保健科教育学特講			<b>担当教員</b>	岡崎勝博		
<b>領域水準コード</b>	A2,B2	<b>単位数</b>	2単位	<b>履修方法</b>	保健体育科教諭・養護教諭:選択必修	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>							
1)保健科教育の研究領域とそれらの課題及び解決方法について歴史的に検討する。2)保健授業の診断、処方、方策について検討する。3)すぐれた保健授業実践について検討する。							
<b>授業の一般目標</b>							
すぐれた保健授業創出のためには、何を考え、何を研究しなければならないかがわかり、当面の研究課題とその解決方法を述べることができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input type="checkbox"/> 認知的領域	保健授業づくりの方法と研究法がわかる。						
<input type="checkbox"/> 情意的領域	保健授業づくりのおもしろさを感じ、意欲が高まる。						
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域	仲間と保健授業改善について議論することができる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
次の計画・構想に則って進行するが、展開過程で順番を変更したり、追加する場合がある。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] 授業の成立を支えるもの [内容] 授業の意味と構造について	9	[テーマ] 保健授業づくりへの挑戦(2) [内容] 子どもとの対面、教材との対面				
2	[テーマ] 保健授業の存在根拠 [内容] 保健の目標をめぐる「わかる」と「できる」	10	[テーマ] 保健授業づくりへの挑戦(3) [内容] すぐれた教材づくりに学ぶ				
3	[テーマ] 保健授業を創出する教師力(1) [内容] 教師の役割と教師力	11	[テーマ] 保健授業の過程と方法(1) [内容] 学習方法をめぐって				
4	[テーマ] 保健授業を創出する教師力(2) [内容] 授業をデザインする教師力	12	[テーマ] 保健授業の過程と方法(2) [内容] 「ゆさぶり」(教授行為)をめぐって				
5	[テーマ] 保健授業を創出する教師力(3) [内容] 「支援する、ケアする」とは	13	[テーマ] 保健授業の研究(1) [内容] 保健授業検討の視点と方法				
6	[テーマ] 保健授業の構想と指導計画(1) [内容] 授業の流れをめぐって	14	[テーマ] 保健授業の研究(2) [内容] これまでの研究の検討				
7	[テーマ] 保健授業の構想と指導計画(2) [内容] 指導計画(指導案)を書く意味	15	[テーマ] 保健担当教師の研究 [内容] 授業での悩みとその解決法をめぐって				
8	[テーマ] 保健教材づくりへの挑戦(1) [内容] 授業に対する信念と問題意識	16	[試験または課題] [方法] レポート提出				
<b>授業外学習の指示等</b>							
1)小・中・高等学校の保健授業を参観及び介入する。2)すぐれた保健授業の実践記録及び研究論文を収集する。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
どれだけ自分の保健授業への信念と構想を述べることができ、また他人の授業実践及び研究に対して批判的見解を述べる能力を身につけることができたかで評価する。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業の参加者としてではなく、授業創出者の一人としての意識で受講することを望む。		
定期試験(期末試験)	◎		○	60			
小テスト・授業内レポート	○	○		10			
授業外のレポート	○	○	○	10			
ポートフォリオ		○	○	10			
出席		◎		10			
その他							
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>				<b>参考書</b>			
特になし				佐伯胖他編著『学びへの誘い』東大出版会、秋田喜代美他編著『教育研究のメソロジー』東大出版会			
<b>連絡先</b>							
小濱: A314, ak-kohama@sendai-u.ac.jp							

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	保健科教育学演習		担当教員	小濱 明/未定			
領域水準コード	A2,B2	単位数	2単位	履修方法	保健体育科教諭・養護教諭:選択必修	授業の方法	演習
<b>授業の概要</b>							
修士論文、リサーチペーパーを作成するために、保健科教育に関する基本的な文献を読み解き、まとめ、深く省察する。							
<b>授業の一般目標</b>							
保健科教育に関わる研究課題を発見し、その解決方法をまとめることができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input type="checkbox"/> 認知的領域	保健科教育の課題と研究の進め方がわかる						
<input type="checkbox"/> 情意的領域	自立的に進めることができる						
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域	事実と考えを区別して表現し伝えることができる						
<b>授業計画(全体)</b>							
課題解決型のスタイルで進めていきますので、課題を自ら発見しなければいけません。詳細は以下の授業計画を読んでください。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
<b>授業テーマとその内容</b>							
(1)保健科教育に関する基本的文献を紹介し、そこに込められた意味を解き明かす。:随時文献を紹介しますので購入してもらいます。 (2)保健科教育に関する課題を発見し、その方法を追究する。:ら自分の興味関心にひきつけて課題を発見し、その解決に向けた論文を収集・発表します。 (3)保健科教育に関する課題の解決を試みることを支援する。:課題解決のためのレポートいくつか作成し、修士論文・リサーチペーパーに繋げて行きます。							
<b>授業外学習の指示等</b>							
修士論文の基礎的作業や発表レポートの作成							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
修士論文、リサーチペーパーにつながるかどうかで判定します。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	・出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。	
成績評価方法							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎	○	◎	60			
授業外のレポート	○	○	◎	20			
ポートフォリオ	○	○	◎	20			
出席				欠格条件			
その他							
関連科目	保健科教育学特講						
教科書	特になし			参考書	木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、佐伯胖『学びを問いつづけて』小学館		
連絡先	小濱: A314, ak-kohama@sendai-u.ac.jp						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ倫理学特講		担当教員	阿部悟郎			
	Sport ethics						
領域水準コード	A-2,C-2, D-2,H-2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
授業の概要							
<p>現代の体育・スポーツの諸問題、あるいはこれまでのスポーツにみる諸々の出来事・事件等から具体的なテーマを選択し、最新の体育・スポーツ哲学・倫理学をもとに追究していくこととあわせて、それに関連する情報の収集や分析を通じて口頭発表し、それについて討論を行います。スポーツ科学領域に身を置く大学院生として、一定の責任を背負った熟考と発言・提起を期待しています。ある現象や問題に対する善悪・適否・功罪についての直接的な判断や裁定よりも、それについての多角的視点と思考の広がりや深まりを理性的に愉しめるように配慮したいと考えています。</p>							
授業の一般目標							
<p>体育やスポーツにおいて立ち起こる多様な現象や問題を、倫理という視点から眺め、その思考原理を修得していくとともに、体育・スポーツ専門職分野の職責にかかわる倫理的思考能力の中核を形成していくことを目標とする。</p>							
授業の到達目標							
<input type="checkbox"/>	認知的領域	スポーツの諸現象を倫理という思考方法から捉えることができる。					
<input type="checkbox"/>	情意的領域	体育・スポーツの諸現象を根底から問い直し、それを徹底的に思考していくことができる。					
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域	体育・スポーツについて倫理的思考を展開し、それを表現あるいはそれについて討論できる。					
授業計画(全体)							
<p>スポーツ倫理学の基礎を提示し、拠点となるスポーツ概念について触れた後に、具体的な事例(例えば、学校スポーツ、少年スポーツ、チャンピオンシップスポーツ、レジャースポーツ、プロスポーツ、オリンピック、メディア、観客、スポーツ競技団体、スポーツ指導者等)に即して講義を進め、それらを通じて、スポーツを倫理的に思考するというこの意味について模索していきたい。</p>							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] スポーツ倫理学への招待 [内容] 「スポーツ倫理学特講」の輪郭と受講者の合意形成			9	[テーマ] スポーツ倫理的接近5 [内容] オリンピックとスポーツ倫理		
2	[テーマ] スポーツ倫理学とその思考法 [内容] スポーツ倫理学と方法としての哲学的態度			10	[テーマ] スポーツ倫理的接近6 [内容] 商業主義とスポーツ倫理		
3	[テーマ] スポーツ倫理学とスポーツ倫理 [内容] スポーツ倫理? スポーツ道徳やスポーツモラルとのちがひ			11	[テーマ] スポーツ倫理的接近7 [内容] 自然環境とスポーツ倫理		
4	[テーマ] スポーツ倫理学の流れ [内容] スポーツ倫理学の国際水準と現在			12	[テーマ] スポーツ倫理的接近8 [内容] 性別とスポーツ倫理		
5	[テーマ] スポーツ倫理的接近1 [内容] 学校スポーツとスポーツ倫理			13	[テーマ] スポーツ倫理的接近9 [内容] 国籍とスポーツ倫理		
6	[テーマ] スポーツ倫理的接近2 [内容] 人格権とスポーツ倫理			14	[テーマ] スポーツ倫理的接近10 [内容] 顧客とスポーツ倫理		
7	[テーマ] スポーツ倫理的接近3 [内容] チャンピオンシップスポーツとスポーツ倫理			15	[テーマ] スポーツ倫理的接近11 [内容] 政治とスポーツ倫理		
8	[テーマ] スポーツ倫理的接近4 [内容] プロスポーツとスポーツ倫理			16	[試験または課題] スポーツを倫理的に思考するとは? 知は力か? [方法] スポーツ? 何のために? 誰のために? それではノイラートの船? あるいは、The most important thing in sport is .....あなたの専門職者としての見識は?		
授業外学習の指示等							
<p>講義と平行して、スポーツに関わる最新の出来事・事件等について情報収集してみてください。その際に、同一対象に関する異なった見解・解釈を拾い上げ、それらを対照されることをお勧めします。</p>							
成績評価方法(方針)							
口頭発表(40%)討論等(40%)出席(10%)ポートフォリオ(10%)							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>この授業では、関連知識の習得はさることながら、理性的に考え、論理的に述べることを心がけてください。 大切なことは、現状の能力で徹底的に考えることです。情緒的な思いにまかせることなく、そして表層的な正誤に惑わされることなく、より高次の認識をめざして、知的に格闘してくれることを望みます。とにかく、問題にこだわり途中であきらめることなく、徹底的に思考してください。 「こだわりは賢者の選択、あきらめは愚者の選択なり」 なお、この授業は集中講義となりますが、事情により部分的に日程があわない場合は、相談してください。お互いにとって最善の方法を探しましょう。まずは、相談。</p>	
成績評価方法							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート		○		○	20		
授業外のレポート		○		○	20		
ポートフォリオ		○			10		
出席			○		10		
その他		○	○	○	40		
関連科目							
教科書	指定しません。			参考書	川谷茂樹(2005)スポーツ倫理学講義, ナカニシヤ出版		
連絡先	荒井:A棟3F309(tt-arai@sendai-u.ac.jp)						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ史特講		担当教員	藪 耕太郎			
領域水準コード	C2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
授業の概要							
本講義の目的は、「歴史」のコンテキストにおいて、広義の意味のスポーツのありようを批判的に検討することにある。どのような役割や意味を担ってスポーツは歴史に登場したのか、各時代・場所においてスポーツという文化を成立させた土壌とはなにか、いかにスポーツを通じて歴史を読み取ることができるか、そしてスポーツの歴史は「いま・ここ」といかなる関係を切り結ぶのか、といった点を歴史社会的に考察する。							
授業の一般目標							
①スポーツ史を歴史社会的な観点から解明する上で必要な知見の獲得 ②上記の知見を通じてスポーツを歴史的に追究できる能力の獲得 ③上記①②を、スポーツを取り巻く現状や課題と関連付けて考察できる能力の獲得							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	スポーツ史を歴史的な観点から解明する上で必要な知見を理解することができる						
■ 情意的領域	スポーツを歴史的に追究できる能力をもとに、スポーツを取り巻く現状や課題と関連付けて考察することができる						
■ 技能表現的領域							
授業計画(全体)							
教員が配布したレジュメに基づいて講義を行う。レジュメは各テーマごとにまとめた量を配布するので、各自事前に予習しておくことが望ましい。その際には「市民」「国家」「労働」など、幾つかの主要テーマを設定したうえで、そのテーマに関する4回分の講義をワンセットに授業を展開する。なお、各テーマの講義の深化を目的として、適宜討論の時間を講義時間中に設ける。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	ガイダンス 授業進行その他についての相互確認、および授業全体のテーマ設定についての説明	9	テーマ:権力と暴力② 内容:フーコーの権力論、とりわけ「規律=訓練型」権力と「生=政治」の意味について				
2	テーマ:労働と余暇① 内容:古代ギリシャ社会における余暇思想とH・アーレントによる「労働」「仕事」「活動」の意味について	10	テーマ:権力と暴力③ 内容:ドゥルーズ/ガタリが論じる「環境管理型」権力の意味とスポーツ(パーソン)の関係性について				
3	テーマ:労働と余暇② 内容:K・マルクスの労働概念、特に「生きた」労働の意味とP・ラファエルが提唱した「怠ける権利」の意味について	11	テーマ:国民と国家① 内容:ウェストファリア体制以降における主権国家のありかたとB・アンダーソン『想像の共同体』の意味について				
4	テーマ:労働と余暇③ 内容:余暇への期待と失望を巡るJ・デューズデューの見解と現代社会における「自由時間」の意味について	12	テーマ:国民と国家② 内容:丸山眞男らの論にみる日本における中間団体の不在問題とスポーツによる思想善導・総動員体制構築の関係性について				
5	テーマ:市民と社会① 内容:J・ハーバーマスの見解に基づく公共圏の歴史的展開過程とアドルノ/ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』の意味について	13	テーマ:国民と国家③ 内容:前世紀転換期の「身体文化」ブームおよび帝国主義国家による植民地統治方法にみるスポーツを介した自発的同意の調達について				
6	テーマ:市民と社会② 内容:労働者階級と「労働力の再生産」としてのレクリエーションの誕生について	14	テーマ:近代と伝統① 内容:A・グットマンによるスポーツの発展段階論的アプローチの意味とその問題点について				
7	テーマ:市民と社会③ 内容:結社・アソシエーション・クラブ文化にみる市民参加・相互扶助の意味について	15	テーマ:近代と伝統② 内容:E・ホブズボウムの『創られた伝統』の理解に基づく、スポーツ=近代西洋文化、武道=伝統日本文化という通説的な二分法の批判について				
8	テーマ:権力と暴力① 内容:N・エリアス『スポーツと文明化』、E・ダニング『問題としてのスポーツ』に基づくスポーツと暴力の関係性について	16	テーマ:近代と伝統③ 内容:J・マグリアが示すスポーツのグローバリゼーションプロセスにおける文化混淆について				
授業外学習の指示等							
上記授業テーマの内容文に示した研究者(下線部参照)の著作・論文には事前に眼を通しておくことが望ましい。							
成績評価方法(方針)							
出席、発言など授業への積極的な取り組み姿勢(50%)、授業外レポート(50%)とする。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	受講に際しては、本科目が単なる「スポーツの歴史」の学習ではなく、むしろスポーツを通じて上記のテーマが持つ意味を歴史的に検討する科目であることを理解して臨むこと。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○		50%			
授業外のレポート							
ポートフォリオ							
出席	○	○		50%			
その他							
関連科目							
教科書	無し	参考書	上述の研究者の著作・論考の他、有賀郁敏編『近代ヨーロッパの探究8—スポーツ』2002、ミネルヴァ書房、および高津勝『日本近代スポーツ史』1995、創文企画を特に薦める。				
連絡先	藪:A棟305、OH火曜12:40~14:10						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	スポーツ心理学特講 Sports Psychology (L.)	<b>担当教員</b>	粟木 一博／菊地直子		
<b>領域水準コード</b>	A2,D2	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択
<b>授業の方法</b>					
講義					
<b>授業の概要</b>					
メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の中で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツにおける心理学的な諸問題の具体的な事例や研究事例を取り上げそれについて解説する。、さらに、それを競技力の向上やスポーツ指導のために応用する方法について解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握することができる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができるようになる。簡単な研究調査を行なうことができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>■ 認知的領域</b>	スポーツ心理学の基礎的に事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。				
<b>■ 情意的領域</b>	スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。				
<b>■ 技能表現的領域</b>	スポーツ心理学において用いられている研究方法を理解し、自ら調査研究を行うことができる。				
<b>授業計画(全体)</b>					
スポーツ心理学の基礎的な知識に関しての解説を行う。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように具体的な事例の提示したり、これまでどのような方法で研究が行われてきたのかを研究論文を用いて解説する。自分で計画した研究調査を実際に行い、理解度や到達度を評価する。					
<b>授業計画(詳細)</b>					
回	授業テーマとその内容				
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方	9	[テーマ] スポーツと社会心理学① [内容] リーダシップ、グループダイナミクスの研究論文について解説する。		
2	[テーマ] スポーツと動機づけ① [内容] 動機づけ理論とスポーツと動機づけとの関連性について解説する。	10	[テーマ] スポーツと社会心理学① [内容] コミュニケーションや対人関係に関する論文について解説する。		
3	[テーマ] スポーツと動機づけ② [内容] 動機づけ理論に関する研究論文をいくつか取り上げそれについて解説する。	11	[テーマ] スポーツの心理的コンディショニング① [内容] 具体的な事例を取り上げあがり・緊張、集中力などのトレーニングについて解説する。		
4	[テーマ] スポーツと動機づけ③ [内容] 動機づけ理論に関する研究論文から動機づけの研究方法について解説する。	12	[テーマ] スポーツの心理的コンディショニング① [内容] スポーツにおける心理的調整に関する論文を取り上げ、解説する。		
5	[テーマ] 運動学習の心理学① [内容] 運動学習の具体的な事例を取り上げ、理論的な背景を解説する。	13	[テーマ] スポーツの心理的コンディショニング① [内容] スポーツにおける心理的調整に関する研究方法について解説する。		
6	[テーマ] 運動学習の心理学② [内容] 運動学習に関する研究論文を取り上げ解説する。	14	[テーマ] スポーツ心理学研究法① [内容] 自分の興味のあるスポーツ心理学のテーマを取り上げ、実際の研究計画を立案する。		
7	[テーマ] 運動学習の心理学① [内容] 運動学習について研究事例をもとに研究方法を解説する。	15	[テーマ] スポーツ心理学研究法② [内容] 自分の興味のあるスポーツ心理学に関する研究を実施し、それを発表する。		
8	[テーマ] スポーツと社会心理学① [内容] リーダシップ、グループダイナミクス、コミュニケーションとスポーツの関連性について解説する。	16	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。		
<b>授業外学習の指示等</b>					
競技を行なっている場面やスポーツの指導場面において常に心理学的視点から分析する。講義には実際の研究計画立案、実施が含まれる。これは授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外での調査、分析、まとめが必要となる。					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
提出された、研究レポートを評価するとともに、最終回にはテストを実施それをもとに評価を行なう。					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	・2/3以上の出席がない場合は期末試験を欠席したと同様の扱いをする(欠格条 件)。 ・20分以上の遅刻は欠席と同等の扱いをする。 ・授業計画は授業の進度により若干前後することがある。
定期試験(期末試験)	◎			50	
小テスト・授業内レポート	◎	○	○	50	
授業外のレポート					
ポートフォリオ					
出席					
その他					
<b>関連科目</b>					
<b>到達目標</b>	特に指定しない			<b>参考書</b>	特に指定しない
<b>連絡先</b>	粟木研究室:E棟2階( tel 0224-55-5079、e.mail kz-awaki@sendai-u.ac.jp)／菊地研究室:4体1階				

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	養護教育学特講		担当教員	藤田 和也			
領域水準コード	B2	単位数	2単位	履修方法	養護教諭:選択必修	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
養護教諭の学校における存在と役割について歴史的、理論的、実践的にアプローチし、その存在意味、果たしている役割を受講者と一緒に考える。そのために、養護教諭の歴史、養護教諭実践(の考え方と進め方について)の理論、養護教諭の実践事例などについて、講義、文献読解、実践分析、ディスカッション、レポート作成とプレゼンテーションなどを通して、養護教諭の存在と役割についての認識を整理し、相互に思考を啓発し合い、学校(教育)における養護教諭の今後のあり方について考え合う授業にしたい。							
<b>授業の一般目標</b>							
日本における養護教諭の歴史、学校における役割の変遷と今日の到達水準などについて理解すると共に、今日の養護教諭の実践理論(実践の基本的考え方、その構造と枠組み、実践の進め方の原則などについて)の理論を会得し、それらを踏まえて、今日的な実践水準をもった養護教諭の実践記録を分析批評できるようになる。そしてこれらの一連の作業を通して、今後の養護教諭の発展の方向や将来像を考えられるようになる。							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	学校における養護教諭の存在と役割についての歴史的変遷と今日的到達点についての理解。 今日の養護教諭実践の全体像(考え方、枠組み、進め方)についての理解。 養護教諭の実践分析と批評の方法についての会得。						
□ 情意的領域							
□ 技能表現的領域							
<b>授業計画(全体)</b>							
次の事項について、講義、文献読解、ディスカッションなどを通して理解し、思考し、認識を整理する。 1. 学校の機能と学校保健 2. 学校における養護教諭の存在と役割 3. 養護教諭の実践の考え方 4. 養護教諭の実践の進め方 5. 養護教諭の実践記録とその分析・批評							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション(授業のねらいと進め方) [内容] ①本授業のねらいと内容の柱立て ②授業の進め方 ③受講者の問題関心の交流	9	[テーマ] 養護教諭の実践理論—その5 養護教諭実践の進め方(3) [内容] ③養護教諭の仕事—認識と行動に働きかける(保健教育)				
2	[テーマ] 学校の機能と学校保健(学校保健の存在根拠をどう考えるか) [内容] ①学校の基本的機能は何か ②学校の機能における学校保健の位置 ③学校保健の機能	10	[テーマ] 養護教諭の実践理論—その6 養護教諭実践の進め方(4) [内容] ④養護教諭の仕事—保健の自治的・文化的活動を育てる(保健委員会指導)				
3	[テーマ] 学校における養護教諭の存在と役割—その1 歴史的視点からの検討 [内容] ①学校における養護機能の変遷	11	[テーマ] 養護教諭の実践理論—その7 養護教諭実践の進め方(5) [内容] ⑤養護教諭の仕事—保健室からの発信 保健だより(通信実践)				
4	[テーマ] 学校における養護教諭の存在と役割—その2 スクールナースとの比較 [内容] ①アメリカのスクールナースと日本の養護教諭 ②日本の養護教諭の独自性	12	[テーマ] 養護教諭の実践理論—その8 養護教諭実践の進め方(6) [内容] ⑥養護教諭の仕事—養護教諭の職場づくりと渦づくり(保健活動の組織的展開)				
5	[テーマ] 養護教諭の実践理論—その1 養護教諭実践の考え方(1) [内容] ①養護教諭実践の本質 ②養護教諭実践の構造	13	[テーマ] 養護教諭の実践記録とその分析(1) [内容] ①実践力量の形成と実践記録				
6	[テーマ] 養護教諭の実践理論—その2 養護教諭実践の考え方(2) [内容] ③養護教諭実践の領域	14	[テーマ] 養護教諭の実践記録とその分析(2) [内容] ②実践記録による実践分析と批評				
7	[テーマ] 養護教諭の実践理論—その3 養護教諭実践の進め方(1) [内容] ①養護教諭の仕事—子どもの健康実態をとらえる	15	[テーマ] 養護教諭の実践記録とその分析(3) [内容] ②実践記録による実践分析と批評(つづき)				
8	[テーマ] 養護教諭の実践理論—その4 養護教諭実践の進め方(2) [内容] ②養護教諭の仕事—保健室で子どもの健康を守り育てる(保健室実践)	16	[試験または課題] 学校における養護教諭の存在と役割、そして将来像をどう考えるか [方法] 講義内容、講義を通して考えたことをもとに上記のテーマを考えるレポートを作成し、提出する。				
<b>授業外学習の指示等</b>							
集中講義期間中に文献を読み、報告レジュメを作成する。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
授業中のディスカッション内容、講義中のミニレポート、宿題レポート、最終レポートなどを総合して評価する。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>						<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート					20		
授業外のレポート					30		
ポートフォリオ					10		
出席					40		
その他							
関連科目							
教科書	『養護教諭が担う「教育」とは何か』農文協 2008		参考書	『教育としての健康診断』大修館書店 2003 『保健室登校で育つ子どもたち』農文協 2005 『保健室と養護教諭 その存在と役割』国土社 2008			
連絡先	小濱:A314, ak-kohama@sendai-u.ac.jp						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	学校ヘルスケア特講		<b>担当教員</b>	鹿野裕美／新井猛浩			
<b>領域水準コード</b>	A2,B2	<b>単位数</b>	2単位	<b>履修方法</b>	養護教諭:選択必修	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>							
<p>本授業は、養護教諭が行うヘルスケア(健康支援)に関する理論およびその実際を理解した上で、複雑化かつ多様化する児童生徒の現代的な健康問題の解決に向けた学校ヘルスケアの展開について考究する。</p>							
<b>授業の一般目標</b>							
<p>養護教諭の活動に関する理論について理解した上で、児童生徒の心身の健康課題の支援のあり方について文献抄読やフィールドレポート等を分析し、学校ヘルスケアの現状と課題について考察する能力を身につける。</p>							
<b>授業の到達目標</b>							
<input checked="" type="checkbox"/> <b>認知的領域</b>	養護教諭の活動に関する理論を理解した上で、心身の健康課題に対する、根拠に基づく学校ヘルスケアの概要について理解できる。						
<input checked="" type="checkbox"/> <b>情意的領域</b>	文献抄読やフィールドレポートをふまえ、学校の子どもたちの心身の健康課題へのケアの展開を考察できる。						
<input type="checkbox"/> <b>技能表現的領域</b>							
<b>授業計画(全体)</b>							
<p>各授業ではテーマに沿った資料等を用いての講義が中心となるが、グループワークやディスカッション等による参加型の授業も積極的に行う。さらに、課題レポート等の発表も行い、自らの問題意識を明確にしなが、その解決策を考察していく。</p>							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法について説明する。	9	[テーマ] 児童生徒の現代的な健康課題に対するケアの実際(1) [内容] フィールドレポート等により、社会の変化に伴う児童生徒の心身の健康問題の現状とその背景を理解し、その解決に向けた養護教諭の支援のあり方を考える。				
2	[テーマ] 学校ヘルスケアとは [内容] 学校で行われるヘルスケアの概要について説明する。	10	[テーマ] 児童生徒の現代的な健康課題に対するケアの実際(2) [内容] フィールドレポート等により、社会の変化に伴う児童生徒の心身の健康問題の現状とその背景を理解し、その解決に向けた養護教諭の支援のあり方を考える。				
3	[テーマ] 養護教諭の活動とヘルスケア(1) [内容] 養護教諭の専門性に関する諸理論をふまえ、健康支援活動について掌握する。	11	[テーマ] 児童生徒の現代的な健康課題に対するケアの実際(3) [内容] フィールドレポート等により、社会の変化に伴う児童生徒の心身の健康問題の現状とその背景を理解し、その解決に向けた養護教諭の支援のあり方を考える。				
4	[テーマ] 養護教諭の活動とヘルスケア(2) [内容] 養護教諭の専門性に関する諸理論をふまえ、健康支援活動について掌握する。	12	[テーマ] 児童生徒の現代的な健康課題に対するケアの実際(4) [内容] フィールドレポート等により、社会の変化に伴う児童生徒の心身の健康問題の現状とその背景を理解し、その解決に向けた養護教諭の支援のあり方を考える。				
5	[テーマ] 児童生徒の心身の健康問題とヘルスケア(1) [内容] 文献の抄読等により学校における児童生徒の心身の健康問題の現状とその背景を理解し、根拠に基づく健康支援のあり方について考える。	13	[テーマ] 児童生徒の現代的な健康問題の解決に向けて(1) [内容] ケースメソッドを通して、児童生徒の現代的な健康問題の解決方法を探究する。				
6	[テーマ] 児童生徒の心身の健康問題とヘルスケア(2) [内容] 文献の抄読等により学校における児童生徒の心身の健康問題の現状とその背景を理解し、根拠に基づく健康支援のあり方について考える。	14	[テーマ] 児童生徒の現代的な健康問題の解決に向けて(2) [内容] ケースメソッドを通して、児童生徒の現代的な健康問題の解決方法を探究する。				
7	[テーマ] 児童生徒の心身の健康問題とヘルスケア(3) [内容] 文献の抄読等により学校における児童生徒の心身の健康問題の現状とその背景を理解し、根拠に基づく健康支援のあり方について考える。	15	[テーマ] 児童生徒の現代的な健康問題の解決に向けて(3) [内容] ケースメソッドを通して、児童生徒の現代的な健康問題の解決方法を探究する。				
8	[テーマ] 児童生徒の心身の健康問題とヘルスケア(4) [内容] 文献の抄読等により学校における児童生徒の心身の健康問題の現状とその背景を理解し、根拠に基づく健康支援のあり方について考える。	16	[試験または課題] レポート試験 [方法] 授業の理解度、到達度を確認するためのテストを行う。				
<b>授業外学習の指示等</b>							
<p>1)平成20年1月、中央教育審議会スポーツ青少年部会学校健康安全部会より出された答申「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について」を精読し、学校保健安全法についても掌握する。さらに、学校保健や養護教諭の活動を理解し、さらに現代の子どもの心身の健康課題を把握するために、学校でのボランティア活動などを積極的に行い、自らの問題意識を明確にすることが望ましい。</p>							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
<p>期末試験(評価割合50%)を予定している。また、授業内のレポート(評価割合20%)、授業外のレポート(評価割合20%)、ポートフォリオ(10%)等を総合的に評価する。</p>							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業の実際にあつては若干授業計画の変更もある。		
定期試験(期末試験)	◎	○		50			
小テスト・授業内レポート	○	◎		20			
授業外のレポート	○	○		20			
ポートフォリオ	○	○		10			
出席							
その他							
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>				<b>参考書</b>			
特に指定しない				適宜紹介予定			
<b>連絡先</b>							
小濱:A314, ak-kohama@sendai-u.ac.jp							



## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	スポーツ経営論特講 Fundamentals on Sport Management(L.)	<b>担当教員</b>	柳沢和雄		
<b>領域水準コード</b>	C1	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	1年コース選択必修
<b>授業の方法</b>					
講義					
<b>授業の概要</b>					
学校、地域、公共・商業スポーツ施設、プロスポーツといった各領域におけるスポーツ経営現象について、その基礎となる考え方や望ましい在り方等について検討する。					
<b>授業の一般目標</b>					
学校体育や地域スポーツの振興策に関する基本的な理解を深めるとともに、具体的なスポーツ経営の領域の課題を把握しながら、スポーツ事業の計画や経営組織の在り方、マーケティング等の技術について理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> 認知的領域	具体的なスポーツ経営の領域の課題を把握し、スポーツ事業の計画や経営組織の在り方、マーケティングの技術について理解することができる				
<input type="checkbox"/> 情意的領域					
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域					
<b>授業計画(全体)</b>					
まずはスポーツ経営の基本的な概念・構造の概要を説明する。次にスポーツ経営の各領域課題を提示しつつ、スポーツ経営の過程や技術を概説しながら、今後の望ましい在り方について検討する。					
<b>授業計画(詳細)</b>					
回	授業テーマとその内容				
1	[テーマ]オリエンテーション [内容]担当の紹介、講義のアウトラインの説明、体育・スポーツ科学におけるスポーツ経営学の位置づけについて解説する。	9	[テーマ]スポーツ経営の過程① [内容]効率的なスポーツ経営の展開に必要なマネジメント機能とそのマネジメントサイクルについて解説する。		
2	[テーマ]スポーツの振興とスポーツ経営 [内容]スポーツ振興をめぐるスポーツ経営やスポーツマネジメントの発展について、日本と諸外国との相違や特徴について解説する。	10	[テーマ]スポーツマネジメントの過程② [内容]マネジメントとマーケティングとの関係を解説するとともに、スポーツマーケティング論の背景と課題について解説する。		
3	[テーマ]スポーツ経営の概念 [内容]スポーツ経営の意味や必要性について、スポーツマネジメントとの関連性を明確にしながら解説する。	11	[テーマ]スポーツマネジメントの領域課題① [内容]学校体育をめぐるスポーツ経営の課題について解説する。特に、運動部活動の展開方法や諸課題について解説する。		
4	[テーマ]スポーツ経営の構造① [内容]スポーツ経営の仕組み、その経営目的論や事業論、経営組織論や経営資源論などの方法論から構造的に解説する。	12	[テーマ]スポーツ経営の領域課題② [内容]地域スポーツをめぐるスポーツ経営の課題、特に総合型地域スポーツクラブ育成問題について解説する。		
5	[テーマ]スポーツ経営の構造② [内容]スポーツ経営が展開される諸領域とそこにおける組織を整理し、諸領域における経営上の特徴や経営課題について解説する。	13	[テーマ]スポーツ経営の領域課題③ [内容]民間スポーツ施設、特にフィットネスクラブの現状と経営課題について解説する。		
6	[テーマ]スポーツ経営の構造③ [内容]スポーツ経営のアウトプットとなるスポーツサービスの種類とそのプランニングについて解説する。	14	[テーマ]スポーツ経営の領域課題④ [内容]企業スポーツ、プロスポーツをめぐる領域特性や現状、経営課題について解説する。		
7	[テーマ]スポーツ経営の構造④ [内容]スポーツ経営を支える環境、とりわけ施設論、人材論、財務論といった経営資源論を中心にその課題について解説する。	15	[テーマ]スポーツ経営の過程と領域課題のまとめ [内容]スポーツ経営の過程と領域課題のまとめを行う。		
8	[テーマ]スポーツ経営の概念と構造のまとめ [内容]スポーツ経営の概念と構造のまとめを行う。	16	[試験または課題]講義終了後課題を提示する [方法]レポートを講義終了後提出する		
<b>授業外学習の指示等</b>					
スポーツ経営の、①概念、②構造、③過程、④領域課題、について参考文献等を用い事前に予習しておく必要がある。					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
講義終了後提示された課題について、資料収集及び実地調査等を含めたレポート(70%)、討議での発言等(20%)、ポートフォリオ(10%)により総合的に評価する。					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することができない。(欠格条件)
定期試験(期末試験)				なし	
小テスト・授業内レポート				なし	
授業外のレポート	◎			70	
ポートフォリオ	○			10	
出席				欠格条件	
その他(議論への関与)	○			20	
<b>関連科目</b>	地域スポーツマネジメント特講、スポーツマーケティング特講、スポーツ経営論演習				
<b>教科書</b>		<b>参考書</b>	八代勉他編著『体育・スポーツ経営学講義』大修館書店		
<b>連絡先</b>	柳沢和雄(yanagisa@taiiku.tsukuba.ac.jp)もしくは永田研究室:A棟3F hd-nagata@sendai-u.ac.jp 0224(55)4014 <直通>				

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ経営論演習		担当教員	永田秀隆			
	Seminar on Sport Management(S.)						
領域水準コード	C2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	演習
授業の概要							
学校、地域、公共・商業スポーツ施設、プロスポーツといった各領域におけるスポーツ経営やスポーツ行財政に関する文献・資料を収集し、主としてそこでの研究の方法論について検討する。							
授業の一般目標							
スポーツ経営やスポーツ行財政に関する研究における方法論について理解することができ、また各自の研究テーマに即した実践的な研究の方途について提示し議論することができる。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	スポーツ経営やスポーツ行財政に関する研究における方法論について理解することができる。						
■ 情意的領域	各自の研究テーマに即した実践的な研究の方途を提示することができる。						
□ 技能表現的領域							
授業計画(全体)							
まず、スポーツ経営やスポーツ行財政に関する内外の文献検索と講読を行い、主に方法論について検討する。次に、先の文献考証を踏まえ、各自の研究テーマに即した、より具体的かつ実践的な研究や調査の方法について考察・報告し、論議する。							
授業計画(詳細)							
授業テーマとその内容							
<p>1. スポーツ経営やスポーツ行財政に関する内外の文献を幅広く検索した上で文献講読を行い、主としてその研究上の方法論について検討する。記の各領域が参考となろう。 下</p> <p>1) 学校体育 2) 地域スポーツ 3) 公共スポーツ施設 4) 商業スポーツ施設 5) 職場スポーツ 6) プロ・競技スポーツ 7) スペクテイタースポーツ 8) 体育・スポーツ行財政 9) その他</p> <p>2. 1. での文献考証を踏まえ、各自の研究テーマに即した、より具体的かつ実践的な研究や調査の方法について考察・報告し、議論を深める。</p>							
授業外学習の指示等							
自身の修士論文・リサーチペーパーに関連のありそうな論文を、学会等の機関誌を中心にいくつか収集し、目を通しておくこと。それ以外については、必要に応じてその都度指示する。							
成績評価方法(方針)							
授業外レポート(40%)、授業内レポート(15%)、討議への関与の仕方(30%)、ポートフォリオ(15%)により総合的に評価する。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することができない。(欠格条件)		
成績評価方法							
定期試験(期末試験)				なし			
小テスト・授業内レポート	○	○		15			
授業外のレポート	○	◎		40			
ポートフォリオ	○	○		15			
出席				欠格条件			
その他		◎		30			
関連科目	スポーツ経営論特講						
教科書				参考書	「体育・スポーツ経営学研究」他機関誌等		
連絡先	永田研究室:A棟3F hd-nagata@sendai-u.ac.jp 0224(55)4014<直通>						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	地域スポーツマネジメント特講		担当教員	黒須 充			
領域水準コード	C2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
授業の概要							
本講義では、学校や企業、行政に過度に依存してきたこれまでのスポーツ振興システムから、地域住民を主体とした新たなシステムへの転換について、「総合型地域スポーツクラブ」に焦点を当てて概観する。							
授業の一般目標							
わが国のスポーツ振興における地域スポーツクラブの役割とマネジメントの基礎知識を理解し、総合型地域スポーツクラブを設立し、効果的に運営する手法を身につける。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	わが国の総合型地域スポーツクラブ施策について検証することができる。						
■ 情意的領域	クラブマネジメントに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。						
□ 技能表現的領域							
授業計画(全体)							
テキストに沿って、その内容および関連事項について解説する。また、各巻が終わった時点で、内容の理解のために小テストを行う。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] 学校とクラブとの協働 [内容] 学校という地域の共有財産と住民が主体的に運営する総合型クラブとの連携・融合の可能性について、理論的な観点から解説する。	9	[テーマ] 企業とクラブとの協働 [内容] 企業とクラブとの協働を通して、双方がどのような社会的責任を果たすことができるのかについて、あらゆる角度から探っていく。				
2	[テーマ] 総合型地域スポーツクラブの基礎知識 [内容] 総合型クラブの基礎知識を整理し、自立した組織が横につながることによってはじめて地域が変わること、その社会的装置として総合型クラブへの期待が高まっていることについて論じる。	10	[テーマ] 企業の社会的責任(CSR)とスポーツクラブ [内容] 「企業の社会的責任」と「企業によるスポーツクラブ支援」がどのように結びつくかを考察する。				
3	[テーマ] 学校と地域をつなぐ組織としての総合型地域スポーツクラブ [内容] 学校と地域の双方向的な関係を構築するためには、学校と地域のあいだをつなぐ組織が必要であり、その組織として総合型クラブが期待されていることについて論述する。	11	[テーマ] 総合型クラブのマネジメントと企業経営の共通点 [内容] 総合型クラブのマネジメントについて、スポーツプロダクト、サービスの特性、マーケティング、ホスピタリティ・マネジメント、コミュニティ・ビジネスの観点から論及する。				
4	[テーマ] 実践事例に学ぶ学校と地域のコラボレーション [内容] 5つの実践事例を取り上げるとともに、学校現場の声を中心に、Q&A方式で部活動と総合型クラブの連携・融合の具体策について紹介する。	12	[テーマ] 実践事例に学ぶ企業とクラブのコラボレーション [内容] 実践事例として、4つのクラブを取り上げる。また、Q&A方式で企業とクラブとの協働に関する具体例について述べていく。				
5	[テーマ] 行政とクラブとの協働 [内容] 総合型クラブと行政との公共的な領域における協働の可能性について、論述する。	13	[テーマ] ドイツのスポーツクラブ① [内容] ドイツにおける地域スポーツクラブ発展の意義や歴史、クラブ運営のノウハウ、クラブ育成システム等について理論的な観点から論じる。				
6	[テーマ] ソーシャル・キャピタルとしての総合型クラブ [内容] 人的なネットワークとその社会的な連携力を豊かにするソーシャル・キャピタルを醸成・蓄積する組織として総合型クラブが期待されていることについて論じる。	14	[テーマ] ドイツのスポーツクラブ② [内容] ケルン市やノイス郡など、自治体におけるスポーツ政策とスポーツクラブの関連について考察する。				
7	[テーマ] 総合型クラブの持続的な発展と組織基盤の強化 [内容] 総合型クラブの持続的な発展と組織基盤の強化のためには、NPO法人化、指定管理者制度、リスクマネジメントの導入が不可欠であることについて考える。	15	[テーマ] オセアニアのスポーツクラブ [内容] ニュージーランドやオーストラリアにおける地域スポーツクラブ運営のノウハウ、ボランティア育成システムについて紹介する。				
8	[テーマ] 実践事例に学ぶ行政とクラブのコラボレーション [内容] 実践事例として、4つのクラブと一つの自治体を取り上げる。また、Q&A方式で総合型クラブと行政との協働に関する具体例について述べていく。	16	[試験または課題] テスト [方法] 授業の理解度・到達度を確認するためのテストを行う。				
授業外学習の指示等							
総合型地域スポーツクラブの基礎について理解しておく。授業以外で積極的に文献検索、講読を行うこと。また、地域密着型のスポーツクラブのマネジメントについて調べておくこと。さらに、出身の都道府県または市町村のスポーツ振興策(スポーツ振興計画の有無など)について調べておくこと。							
成績評価方法(方針)							
授業出席状況、授業中の発表、レポート等を総合的に評価する。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストに沿って授業を行うので、必ず下記のテキストを準備し、予習しておくこと。</li> <li>・2/3の出席のない学生は、単位を修得することができない。</li> </ul>		
定期試験(期末試験)	◎			50			
小テスト・授業内レポート	◎			20			
授業外のレポート							
ポートフォリオ	◎	◎		20			
出席		○		10			
その他							
関連科目							
教科書	クリストフ・ブロイアー・黒須 充編著「ドイツに学ぶ 地方自治体のスポーツ政策とクラブ」、創文企画 黒須 充編著「総合型地域スポーツクラブの時代」全3巻、創文企画			参考書			
連絡先	丸山:E棟2階、OH月曜14:20~15:50						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	スポーツマーケティング特講 Sport Marketing	<b>担当教員</b>	松岡 宏高		
<b>領域水準コード</b>	C3	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択
<b>授業の方法</b>					
講義					
<b>授業の概要</b>					
<p>スポーツビジネスに関するマーケティングには、スポーツサービス(するスポーツと見るスポーツ)を効率よくプロデュース、提供する「スポーツのマーケティング (marketing of sport)」と、企業がスポーツを利用してプロモーション活動を行う「スポーツによるマーケティング (marketing through sport)」の2種類がある。前者については、スポーツを実施したり、見たりする、スポーツ消費者のニーズを理解し、そのニーズを満たすスポーツサービスを効率よく提供するための戦略が講義内容の中心となる。後者については、企業がスポーツチーム・クラブやスポーツイベントのスポンサーとなり、スポーツを利用したマーケティング活動を行うというスポーツスポンサーシップについての知識を習得する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>「スポーツのマーケティング (marketing of sport)」ではマーケティング戦略、スポーツ消費者行動のメカニズム、消費者の特性やニーズを把握するためのマーケティングリサーチなどについて、そして「スポーツによるマーケティング (marketing through sport)」ではスポーツスポンサーシップについて理解し、スポーツビジネス現場への応用することができる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>■ 認知的領域</b>	スポーツ市場におけるマーケティング志向の重要性とマーケティング活動の必要性、そしてスポーツ消費者の特性やニーズを把握する方法を				
<b>■ 情意的領域</b>	スポーツビジネスの様々な事象に興味、関心を持ち、課題やグループでの活動に積極的に取り組むことができる。				
<b>■ 技能表現的領域</b>	スポーツ組織を事例としたマーケティングプランが作成できる。				
<b>授業計画(全体)</b>					
前半は、スポーツプロダクトとスポーツサービス、スポーツ消費者の特性、マーケティングプランとマーケティングミックスなど、スポーツマーケティングに関する基礎的知識を習得する。後半は、知識の習得の確認をした後に、その知識を応用できるような課題とグループプロジェクトに取り組み、実践的な応用力を身につける。					
<b>授業計画(詳細)</b>					
回	授業テーマとその内容				
1	<p><b>【テーマ】</b> オリエンテーション・スポーツマーケティングとは <b>【内容】</b> 授業の進め方について説明を受け、本特講のテーマである「スポーツマーケティング」の定義について考え、この学問の位置づけを理解する。</p>	9	<p><b>【テーマ】</b> スポーツスポンサーシップの効果 <b>【内容】</b> スポンサーシップの様々な効果を理解し、その測定方法に関して考える。</p>		
2	<p><b>【テーマ】</b> スポーツプロダクトとスポーツサービス <b>【内容】</b> プロダクトおよびサービスという概念を理解し、スポーツマーケティングで取り扱うプロダクトが無形のサービスであることを確認する。</p>	10	<p><b>【テーマ】</b> スポーツマーケティングリサーチ <b>【内容】</b> 消費者の心理や行動の理解を中心にスポーツマーケティングリサーチの必要性とい方法について、事例を確認しながら理解する。</p>		
3	<p><b>【テーマ】</b> スポーツ消費者の特性 <b>【内容】</b> スポーツの消費者が一般的な物財・サービス財の消費者と異なるユニークな特性について理解する。</p>	11	<p><b>【テーマ】</b> スポーツマーケティングに関する基礎的知識のまとめ <b>【内容】</b> 1回～10回において学んだスポーツマーケティングに関する基礎的な知識について、テストを通して再確認し、その知識を改めて整理する。</p>		
4	<p><b>【テーマ】</b> スポーツ消費者の意思決定 <b>【内容】</b> スポーツ消費者が「スポーツをする」、「スポーツを見る」という消費行動に至るプロセスについて理解する。</p>	12	<p><b>【テーマ】</b> スポーツマーケティングプランに必要な情報の収集 <b>【内容】</b> この授業でここまで学んだ知識を活用し、実際のスポーツビジネス現場の事例を用いてスポーツマーケティングプランの作成に取り組むための情報収集の方法を理解し、実際に情報収集に取り組む。</p>		
5	<p><b>【テーマ】</b> マーケティングプランとマーケティングミックス <b>【内容】</b> 実際にマーケティング活動を遂行するために必要な市場細分化、ターゲティング、マーケティングミックスの4Pを理解し、マーケティングプランの作成について学ぶ。</p>	13	<p><b>【テーマ】</b> スポーツマーケティングプランの作成 <b>【内容】</b> 実際のスポーツビジネス現場の事例を対象に、グループでマーケティングプランの作成に取り組む。</p>		
6	<p><b>【テーマ】</b> マーケティングミックス:プロモーション戦略 <b>【内容】</b> マーケティングミックスの4Pの中のプロモーションに関して、スポーツビジネス現場におけるその有効な戦略を考える。</p>	14	<p><b>【テーマ】</b> スポーツマーケティングプランの発表 <b>【内容】</b> グループごとに作成したスポーツマーケティングプランを発表する。</p>		
7	<p><b>【テーマ】</b> CRMとマーケティング <b>【内容】</b> 関係性マーケティングなどの顧客との関係を強化することの重要性とその方法を理解する。</p>	15	<p><b>【テーマ】</b> スポーツマーケティングプランの評価とまとめ <b>【内容】</b> 各グループのスポーツマーケティングプランの発表内容について相互に評価を行い、質疑応答、議論も展開し、スポーツマーケティングの実践に関する理解を深める。</p>		
8	<p><b>【テーマ】</b> スポーツスポンサーシップと権利ビジネス <b>【内容】</b> スポンサーシップをはじめとするスポーツビジネスにおける権利ビジネスの仕組みや事例について理解する。</p>	16	<p><b>【試験または課題】</b> <b>【方法】</b> 11回目に行うスポーツマーケティングに関する知識を問うテストを実施し、さらに12回目以降の取り組みの中でレポート作成とプレゼンテーションに取り組む。</p>		
<b>授業外学習の指示等</b>					
講義の前、および前半と後半の間にレポート課題を設定するので、それらに取り組むこと。					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
授業の出席を前提とし、知識習得の確認テスト、レポート課題、グループでのプレゼンテーションによって総合的に評価を行う。					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	授業内での議論、および各課題には積極的に取り組むこと。また、レポート課題やグループプロジェクトには、講義で学ぶ知識だけでなく受講生自身の自由な発想、アイデアが必要であるので、履修前からスポーツビジネスの様々な実践事例に関する情報に目を向けておくこと。
定期試験(期末試験)					
小テスト・授業内レポート	○			50	
授業外のレポート	○	○	○	25	
ポートフォリオ					
出席					
その他	○	○	○	25	
<b>関連科目</b>					
<b>教科書</b>	原田宗彦, 藤本淳也, 松岡宏高「スポーツマーケティング」大修館書店, 2008年		<b>参考書</b>	山下秋二・原田宗彦編著「図解スポーツマネジメント」大修館書店, 2005年 原田宗彦編著「スポーツ産業論第5版」杏林書院, 2011年	
<b>連絡先</b>	仲野研究室:A508 matsuka-hiro@waseda.jp				

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	野外・レクリエーション論特講		担当教員	仲野 隆士/岡田 成弘/飯田 稔			
	outdoor leisure&recreation						
領域水準コード	C2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義・演習
授業の概要							
この分野における基礎的な解説の後、関連する先行研究や文献などを検討する。野外教育や野外スポーツについて理解を深める。また、一部実技を行い、野外スポーツや野外教育を体験的に学習する							
授業の一般目標							
野外・レジャー&レクリエーション領域における今日的な問題や課題、取り組みや楽しみ方などについて、深く理解することができる。野外教育に関連する用語を理解し、野外教育が現代社会においてどのように活用されているかを学ぶ。野外スポーツの魅力や取り組み方を体験的に学習する。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	野外・レジャー&レクリエーション領域の理論的背景を学び、この分野における研究動向や取り組みなどが理解できる						
■ 情意的領域	実際のアウトドアのフィールドでの実践や交流を通して、自分のエモーショナルな感性を再確認・発見する						
■ 技能表現的領域	アウトドアプログラムのPDCAサイクルを実施することで、野外における技術や技能を磨く						
授業計画(全体)							
前半の授業は、講義と受講生によるプレゼンとディスカッションによって進行する。これによって、野外・レジャー&レクリエーション領域の理論的背景を把握する。後半はの授業では、野外教育の理論と実際を演習形式で理解する。また、野外スポーツを体験的に理解するため、学内での技能習得を行い、学外での実技を行う。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] 野外・レジャー&レクリエーションを学ぶ意味 [内容] 授業概要として授業の進め方と基本的な方針について説明する	9	[テーマ] 野外教育の理論と実際① [内容] 野外教育の理論と、実際に行われている教育活動について学習する				
2	[テーマ] レジャー&レクリエーションの諸理論を学ぶ [内容] 野外教育の理論と実際、レクリエーションの基礎理論について解説する	10	[テーマ] 野外教育の理論と実際② [内容] 野外教育の理論と、実際に行われている教育活動について学習する				
3	[テーマ] レジャー&レクリエーション関連の研究の動向1 [内容] レジャー・レクリエーション研究所(財 日本レクリエーション協会)における研究論文について検討する	11	[テーマ] 野外スポーツの実際① [内容] 野外スポーツの基本的な技能を身につける				
4	[テーマ] レジャー&レクリエーション関連の研究の動向2 [内容] レジャー・レクリエーション研究(日本レジャー・レクリエーション学会)における研究について検討する	12	[テーマ] 野外スポーツの実際② [内容] 野外スポーツの基本的な技能を身につける				
5	[テーマ] レクリエーションの行動科学から学ぶ1 [内容] レクリエーション関連の学位論文のまとめかたについて解説する	13	[テーマ] 野外スポーツの実際③ [内容] 身につけた技能を実際の野外のフィールドで発揮し、野外スポーツを体験的に学習する。				
6	[テーマ] レクリエーションの行動科学から学ぶ2 [内容] 先行研究のレビューについて解説する	14	[テーマ] 野外スポーツの実際④ [内容] 身につけた技能を実際の野外のフィールドで発揮し、野外スポーツを体験的に学習する。				
7	[テーマ] レクリエーションの行動科学から学ぶ3 [内容] 結果と考察、結論の導き方について解説する	15	[テーマ] 野外スポーツの実際⑤ [内容] 身につけた技能を実際の野外のフィールドで発揮し、野外スポーツを体験的に学習する。				
8	[テーマ] 授業内プレゼン [内容] 受講生が野外・レジャー&レクリエーションに関するテーマを選んでプレゼンとディスカッションを行う	16	[試験または課題] 授業内プレゼン [方法] 野外教育及び野外スポーツについて、授業で学んだことをまとめ、発表し、ディスカッションを行う。				
授業外学習の指示等							
『レクリエーションの行動科学』を第1回目の授業で配布するので、第5週目までに読んでおくこと							
成績評価方法(方針)							
授業の出席を前提とし、プレゼンの内容と資料作成内容、ディスカッションへの貢献度、PDCAサイクルへの貢献度と取り組む姿勢によって総合的に評価を行う							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	野外・レジャー&レクリエーション領域は実践的な学問である。そこで、理論的な基礎知識はもとより、現場への応用という実践事例について学習することが重要となる。そこで、授業では前半は講義と演習、後半は演習と実習という形式で展開することを了承の上、積極的に受講してほしい。特に実習では、大いにアイデアと個性を出し、を受講生を中心に有意義なプログラムを企画してほしい。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○			30			
授業外のレポート	○	○	○	40			
ポートフォリオ							
出席							
その他	○	○	○	30			
関連科目							
教科書			参考書	池田勝・永吉宏英・西野仁・原田宗彦共著「レクリエーションの基礎理論」杏林書院、1989 二宮浩彰筆「レクリエーションの行動科学」不昧堂出版、2007 他			
連絡先							
仲野研究室:A508/岡田研究室:A509							

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツビジネス論特講		担当教員	マーティ・キーナート/笹生心太			
	Sport Buisness (L.)						
領域水準コード	C3	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
<p>まず、我が国のスポーツ産業界全体の「見取り図」を提示し、その各領域の有する特徴を解説する。その後、特にスポーツ施設産業、スポーツイベント産業、プロスポーツ産業の各領域について具体的に解説する。また、我が国の状況を多面的に捉えるため、比較対象として諸外国のスポーツビジネス界の事情も適宜解説する。受講者は、講義内容を踏まえてこれらの産業に関する具体的な分析を行い、それを最終レポートの形で提出する。</p>							
<b>授業の一般目標</b>							
我が国のスポーツ産業界全体の「見取り図」を、自分なりに描くことができるようになる。そしてその「見取り図」の中で、自分が特に関心のある具体的事例を選択し、それを分析できるようになる。							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	スポーツ産業界の「見取り図」を描くことができ、「見取り図」の中の各領域の特徴を説明できる。						
■ 情意的領域	スポーツの、「体育」ではなく「産業」としての側面に関心を向ける。						
□ 技能表現的領域							
<b>授業計画(全体)</b>							
本講義は、教員が日本のスポーツビジネスの概況について解説したのちに、教員と学生で交互に文献の輪読を行う。受講者が強く関心を持っている領域について教員と討論することで、当該領域に関してより深い知識を得ることが目的となる。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
<b>授業テーマとその内容</b>							
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容		
1	[テーマ]オリエンテーション(笹生) [内容]授業の目標と進め方、成績評価方法、最終レポート課題の提示			9	[テーマ]文献の輪読③(笹生) [内容]受講者の問題関心に沿った文献の輪読・討論を行う。		
2	[テーマ]スポーツビジネスの「見取り図」(笹生) [内容]我が国におけるスポーツビジネスの全体像について解説する			10	[テーマ]プロスポーツの現実①(キーナート) [内容]日本のプロスポーツの現実を解説する		
3	[テーマ]非日常における「見るスポーツ」(笹生) [内容]メガスportイベントなどの、非日常における「見るスポーツ」の現状について解説する。			11	[テーマ]プロスポーツの現実②(キーナート) [内容]日本のプロスポーツの現実を解説する		
4	[テーマ]日常における「見るスポーツ」(笹生) [内容]プロスポーツなどの、日常における「見るスポーツ」の現状について解説する。			12	[テーマ]プロスポーツの現実③(キーナート) [内容]諸外国のプロスポーツの現実を解説する		
5	[テーマ]日常における「するスポーツ」(笹生) [内容]商業スポーツ施設などの、日常における「するスポーツ」の現状について解説する。			13	[テーマ]プロスポーツの現実④(キーナート) [内容]諸外国のプロスポーツの現実を解説する		
6	[テーマ]非日常における「するスポーツ」(笹生) [内容]スポーツツーリズムなどの、非日常における「するスポーツ」の現状について解説する。			14	[テーマ]プロスポーツの現実⑤(キーナート) [内容]プロスポーツの全体を解説する		
7	[テーマ]文献の輪読①(笹生) [内容]受講者の問題関心に沿った文献の輪読・討論を行う。			15	[テーマ]総括(キーナート) [内容]これまでの講義を総括する		
8	[テーマ]文献の輪読②(笹生) [内容]受講者の問題関心に沿った文献の輪読・討論を行う。			16	[試験または課題]レポートの提出 [方法]講義内容の理解度を問う記述式のレポートを課す		
<b>授業外学習の指示等</b>							
上述のように、授業外にこの分野に関する文献を読み、それをまとめ、発表することが求められます。具体的な文献については後日指示しますが、いずれにせよ「教科書」のようなものではなく「専門書」を読んでもらいます。よって、この分野に関する関心があることはもちろん、それ以上になじみのない文献を読み通す力も問われますので、あらかじめ了承してください。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
出席状況、受講態度、期末レポート							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1. スポーツビジネスに関わる文献の輪読が求められます。それはもちろん、外国籍学生にとっても同様です。付属図書館を活用して入手するようにしてください。 2. 学会への参加情報を積極的に提示します。アカデミックな世界と一般社会とのちがいを肌で感じてください。その経験は、将来、どちらの世界に進んでもきつと役に立つはずですよ。 3. 質問は大歓迎です。分からないことを分からないという分別が大学院生には求められます。下記のオフィスアワーに研究室を訪ねてください。 4. この分野になじみのない院生には膨大な復習が要求されます。なじみのない学問領域の考え方を「おもしろい」と感じられる力が求められます。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○		40%			
授業外のレポート	○			30%			
ポートフォリオ							
出席	○	○		30%			
その他							
関連科目							
教科書	適宜指示する			参考書	適宜指示する		
連絡先	永田研究室:A棟3F hd-nagata@sendai-u.ac.jp 0224(55)4014 <直通>						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ運動学特講			担当教員	川口鉄二		
	領域水準コード	A2, D2	単位数		2	履修方法	選択必修
授業の概要							
<p>体育教師やスポーツ指導者に必須の専門領域とは。人間の運動の見方の両極である、モルフォロギー的な認識と自然科学的な認識が、具体的にどのような実践上の問題を引き起こしてしまうのか、いくつかの例証をもとに解説する(川口)。能動的に身体知の形成を育むための指導がどのようにして可能なのか、ドイツのマイネル理論を引き継いだ最新の現象学的・人間学的理論を、「促発コーチング論原論」として解説していく(金子)。</p>							
授業の一般目標							
スポーツ運動学の基本認識が理解でき、コーチング領域の具体的問題圏に対して動感発生論的な考察ができるようになる。							
授業の到達目標							
<input type="checkbox"/> 認知的領域	スポーツ運動学領域の諸概念を理解できる。						
<input type="checkbox"/> 情意的領域	学習者の動く感覚を読み取ることができる。						
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域	発生を促す具体的な促発処方が理解できる。						
授業計画(全体)							
今日の日本の運動学が成立するまでの経緯と、実践理論としての成果を学校体育及び競技スポーツの現場における例から解説する(6月中旬～予定)。その後、最新のスポーツ運動学理論を、コロキウム形式により具体的な例証を取り上げながら解説していく(集中:9月5-7日予定)。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業概要及び評価方法等の説明。運動経験、指導経験及び問題意識の確認	9	[テーマ] 動感対話の交信能力を問う [内容] 動感対話の現象に注目し、身体移入交信法則の存在を確認する。動感地平志向化現象の不可欠性に問いかける。最後に観察・交信領野の分析手順を確認する。				
2	[テーマ] スポーツ指導現場で何が起きているのか [内容] マネジメント教師、自得頼りのコーチ、サポート指導者などの問題性について解説。	10	[テーマ] 処方化現象とは何か [内容] 促発処方化現象の概念を検討し、その共動感化原理を確認する。処方化領野の全体系を図式によって展望する。				
3	[テーマ] 実践問題を解決するための理論とは [内容] 運動理論の歴史、スポーツ科学の発展と実践問題。教える一覚える関係系から見るために必要な分析能力について解説する。	11	[テーマ] 動感模倣能力とは何か [内容] 促発呈示化領野の体系を展望し、その中核をなす模倣呈示化法則の存在を例証分析によって確認する。動感模倣能力の実習の不可欠性を問い直す。				
4	[テーマ] 運動分析法の歴史と発展 [内容] 運動の分析法の歴史的概観とその背景にある運動認識を解説する。コロキウム形式授業の目的と事前準備について説明する。	12	[テーマ] 促発起点化現象とは何か [内容] ① 促発呈示化の現象領野 促発起点化現象の存在論を問う。即座構成化法則と待機構成化法則の存在を確認し、それぞれの例証分析によってこの法則性の不可欠さとその能力養成の方法論に問いかける。				
5	[テーマ] スポーツ運動学とは何か [内容] スポーツ運動学の概念規定と運動学の基本概念の混乱を考察する。さらに、スポーツ学習と運動学習の違いを明らかにし、運動学のねらいを確認する。	13	[テーマ] スポーツ運動学の独自性 [内容] 身体知発生論としてのスポーツ運動学の独自の役割を確認する。反復化現象の本原的充実性と脱目的性を基底に据えた純粋身体知の今日的意義を問い直す。				
6	[テーマ] 体育指導者の専門能力を問い直す [内容] 身体教育の意味構造を明らかにし、他の指導者に代替できない固有な専門能力に注目する。身体知発生論の基盤領野と形態発生現象と伝承発生現象の全体系を身体知分析体系図によって展望する。	14	[テーマ] スポーツ指導者に課せられた役割 [内容] 体育・スポーツ指導者の専門能力の独自性に問いかけ、その能力養成の方法論とその検定論の課題を展望する。				
7	[テーマ] 処方素材化現象を問う [内容] 運動学習の前提となる動感素材の構成化に注目し、身体移入原理の意味構造を明らかにする。そのための身体移入能力の実習を問い直す	15	[テーマ] [内容] 運動発生論の基本的な考え方及び、教える一覚える関係系から見るために必要な観察能力について解説する。				
8	[テーマ] 移入観察力とは何か [内容] 観察能力と交信能力の相補的統一法則の前提条件を確認してから、観察の意味構造とその観察能力の例証分析を取り上げる	16	[試験または課題] 試験 [方法] 筆記試験				
授業外学習の指示等							
教科書、参考書などを事前に読んでおくことが望ましい。また、毎時間前には前回の講義における疑問点等をディスカッションの材料とするので、まとめておくこと。							
成績評価方法(方針)							
授業の出欠及び内容の理解を確認するためのレポートによる。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	体育教師や運動指導者が発生指導を行う際に不可欠となる基礎理論ですので、自らの運動学習経験、指導経験に際しての具体的な内容、問題点などを事前によく思い出しておいてください。	
成績評価方法							
定期試験(期末試験)		◎			70		
小テスト・授業内レポート		○			10		
授業外のレポート		○			10		
ポートフォリオ				○	10		
出席			○		減点対象		
その他		○			減点・欠格条件		
関連科目	スポーツ運動分析法演習(川口)						
教科書	「身体知の形成(上・下)」 「スポーツ運動学」 明和出版			参考書	1. 運動学講義(大修館) 2. 技の伝承(明和出版)		
連絡先	A403川口研究室(0224-55-4074)						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	運動方法学特講		担当教員	森本吉謙／斎藤浩二			
	Sport Methodology(L.)						
領域水準コード	D2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
競技スポーツでは種目によって体力や技術、そして戦術などが大きく異なってくる。本授業では、各競技種目の特性や最終課題、そしてトレーニング方法について講義する。							
<b>授業の一般目標</b>							
競技スポーツを分類すれば、時間や距離を測定してその優劣を競う測定競技、非日常的運動を展開して技を評価する採点競技、ボールを媒介として得点を獲得する集団競技、そして武道などがあり、これらの特性を理解する。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input type="checkbox"/> 認知的領域	競技別の特性を理解する						
<input type="checkbox"/> 情意的領域							
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域							
<b>授業計画(全体)</b>							
各授業のテーマに沿った資料を用いた講義や課題に対する発表を中心に行う。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、評価の方法	9	[テーマ] チーム競技の特性Ⅲ [内容] その他の競技について				
2	[テーマ] 測定競技の特性Ⅰ [内容] 陸上競技トラック種目について	10	[テーマ] スポーツ競技のトレーニングⅠ [内容] 走、跳、投の基礎的トレーニング				
3	[テーマ] 測定競技の特性Ⅱ [内容] 陸上競技跳躍種目について	11	[テーマ] スポーツ競技のトレーニングⅡ [内容] 競技別の体カトレーニングⅠ				
4	[テーマ] 測定競技の特性Ⅲ [内容] 投擲種目について	12	[テーマ] スポーツ競技のトレーニング [内容] 競技別の体カトレーニングⅡ				
5	[テーマ] 測定競技の特性Ⅳ [内容] 水泳、スケート、スキー等について	13	[テーマ] 武道の特性Ⅰ [内容] スポーツと武道について				
6	[テーマ] 採点競技の特性 [内容] 器械体操、フィギュアスケート等について	14	[テーマ] 武道の特性Ⅱ [内容] わざの特性について				
7	[テーマ] チーム競技の特性Ⅰ [内容] ゴール型競技について	15	[テーマ] 武道の特性Ⅲ [内容] 技術と技能について				
8	[テーマ] チーム競技の特性Ⅱ [内容] ネット型競技について	16	[試験または課題] [方法]				
<b>授業外学習の指示等</b>							
各テーマに沿った内容を関連図書等参考として事前に理解しておくこと。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
課題の提出および発表							
<b>成績評価方法(詳細)</b>						<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)			
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
授業外のレポート	◎			60			
ポートフォリオ	◎			40			
出席							
その他				欠格条件			
関連科目							
教科書	特に指定しない			参考書			
連絡先	森本吉謙:A棟4階(内線405)／斎藤浩二:第3体育館(内線616)						



## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	コーチング論特講 Coaching Theory (L.)	<b>担当教員</b>	森本 吉謙		
<b>領域水準コード</b>	D2	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択
<b>授業の方法</b>					
講義					
<b>授業の概要</b>					
<p>スポーツ指導者の実際的な機能と役割は、選手の競技力向上を目的とした助言や介助的な行為といった直接的なコーチングに留まらず、スポーツ組織のマネジメントやトレーニング計画の立案、管理など多様性を持つものとなる。本講義では、そうした全体構造を踏まえて、コーチングの実践的理論について講述する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>コーチングの一般体系と全体構造を知り、そこで求められる指導者の能力を理解する。そして、実際に指導をしていく上での様々な具体的な方法論を理論に基づき学ぶ。そこには、組織運営上のマネジメント側面およびトレーニング計画を立案、管理する選手育成の内容も含まれる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> 認知的領域	指導者の役割と実務を理解し、指導上の具体的な方法論について理論に基づき説明できる。				
<input checked="" type="checkbox"/> 情意的領域	コーチングにおいて、適切且つ段階的な配慮が出来る。				
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域					
<b>授業計画(全体)</b>					
<p>本講義では、前半には競技組織(集団)の構造や、そこでの指導者の機能および役割から、指導者に求められるコーチングのマネジメント側面について解説する。後半は選手育成の側面から、スポーツトレーニングの構造的特徴およびトレーニング計画立案に際しての基本構成原理と方法論について、競技理論に基づいて講述する。</p>					
<b>授業計画(詳細)</b>					
回	授業テーマとその内容				
1	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介, 授業の進め方, シラバス説明, 成績評価の方法	9	[テーマ] トレーニング課題と手段, 方法の関係 [内容] トレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する。		
2	[テーマ] 指導者(コーチ)とは何か? [内容] 指導者の存在形態の多様性について説明する	10	[テーマ] トレーニング構成の原理 [内容] トレーニング構成上の一般原理を説明する		
3	[テーマ] 指導者・選手関係の段階的变化 [内容] 選手の発達や競技力の変化に伴う指導者と選手の関係の在り方を説明する	11	[テーマ] 競技的状态の周期特性と期分け [内容] 競技的状态の周期特性(形成, 維持, 消失)について期分けと共に説明する		
4	[テーマ] 指導者の実際的な機能と役割 [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する	12	[テーマ] トレーニング構成の基本単位 [内容] トレーニングを構成する, 課業, ミクロ, メゾ, マクロの基本単位を説明する		
5	[テーマ] 競技組織における基本構造ブロック [内容] 競技組織(集団)における基本的な構造について説明する	13	[テーマ] トレーニング構成の実際①(ミクロ周期) [内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する		
6	[テーマ] 競技組織の基本類型 [内容] 様々なタイプの競技組織の基本的な構造を説明する	14	[テーマ] トレーニング構成の実際②(メゾ周期) [内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する		
7	[テーマ] 競技組織のライフサイクル・モデル [内容] 組織構造が諸引力(目標, 理念)に導かれどのように変化していくか説明する	15	[テーマ] トレーニング構成の実際③(マクロ周期) [内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する		
8	[テーマ] スポーツトレーニングの多面性と多義性 [内容] スポーツトレーニングに内在する多面性と多義性について説明する	16	[試験または課題] [方法] 授業の理解度・到達度を確かめるためにレポート課題を課す		
<b>授業外学習の指示等</b>					
<p>毎回の授業について資料を基に復習しておくこと。</p>					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
<p>期末に課すレポートにより評価を行う(評価割合80%)。また、授業内レポートを課す(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。</p>					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	私語, 遅刻等の授業進行の妨げになり, 他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は, 試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。
定期試験(期末試験)	◎			80	
小テスト・授業内レポート		◎		20	
授業外のレポート					
ポートフォリオ	◎	◎			
出席					
その他					
<b>関連科目</b>					
<b>教科書</b>				<b>参考書</b>	Mintzberg on Management (Mintzberg), スポーツ・トレーニング理論(村木征人), スポーツマンと体力(ザチオルスキー)
<b>連絡先</b>					
研究室: A棟4階405 オフィスアワー: 火曜日 12:40~14:10					

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ運動分析法演習		担当教員	川口鉄二			
領域水準コード	AD-2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	演習
授業の概要							
「スポーツ運動学」の理解を踏まえ、「技術」や「戦術」的技能を発生させるための具体的方法論を実際の学習(実習)体験を通して理解していく。その際に動感を伝えるための補助となる効果的な呈示方法論について解説する。							
授業の一般目標							
実践現場の教師やコーチに要求される「専門的指導力」を学習体験とともに理解し、その際に効果的な動感呈示法となる方法論的基礎技能を身に付ける。科学的分析・説明でない「できる(運動発生)」指導に結びつく(動感としての)「わかり易い」呈示能力の獲得を目指す。							
授業の到達目標							
<input type="checkbox"/> 認知的領域	「コツ」や「カン」が表裏一体の関係にあることを理解する						
<input type="checkbox"/> 情意的領域	代行分析の方法論について理解する						
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域	動感呈示に有効な映像資料を自由に創作できる						
授業計画(全体)							
測定系種目、判定系種目、評定系種目における技能学習の特性を把握し、「コツ」や「カン」の動感に共鳴しうる示範方法・呈示素材の作成能力をPCやビデオを用いながら身につけていく。							
授業計画(詳細)							
授業テーマとその内容							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 動感能力の発生についての理解</li> <li>2. 動きの課題分析法と指導方法論の理解</li> <li>3-6 発生指導と学習の実際(実習):測定競技、判定競技、評定競技</li> <li>7. 代行模倣化の試み-できないことを模倣できるためには</li> <li>8. 動感分析法の歴史と今日的課題</li> <li>9. トレーニング現場における運動分析法の実際</li> <li>10..分析課題の検討と客観・主観映像の撮影法について</li> <li>11-13.ビデオ映像を用いたキネグラムの作成法及びノンリニア画像編集による動感呈示教材の作成(実習)</li> <li>14.まとめ</li> <li>15.テスト</li> </ol>							
授業外学習の指示等							
参考文献(身体知の形成(上・下)、身体知の構造、技の伝承などの関連箇所を事前に読んでおくことが望ましい。PC、マルチメディア機器についての予備知識を準備すること。							
成績評価方法(方針)							
授業の出欠及び内容の理解を確認するための課題作成による。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	処方分析に際しての具体的呈示方法論を実習を踏まえて理解していく。実習を伴う場合には、一部、集中ないし、時間延長して授業を行うことがある。		
成績評価方法							
定期試験(期末試験)	◎			70			
小テスト・授業内レポート	○			10			
授業外のレポート	○			10			
ポートフォリオ			○	10			
出席		○		減点対象			
その他	○			減点・欠格条件			
関連科目	スポーツ運動学特講						
教科書	「身体知の形成(上・下)」明和出版			参考書	1. 運動学講義(大修館) 2. 技の伝承(明和出版)		
連絡先	川口研究室:A403、(0224-55-4074)						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ運動分析法演習		担当教員	宮西 智久			
	Human Motion Analysis in Biomechanics (S.)						
領域水準コード	A2,D2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	演習
授業の概要							
スポーツバイオメカニクスの各種研究方法について概観した後、特に画像解析法を中心にその測定原理及びデータ収集・解析・処理法について学ぶ。データ解析・処理法ではプログラミング言語の初歩を学ぶ。							
授業の一般目標							
スポーツバイオメカニクスの各種研究方法について理解し、データ収集・解析・処理法の基礎的事項を学習する。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	スポーツバイオメカニクス研究方法に関する専門的基礎知識を理解することができる。						
□ 情意的領域							
■ 技能表現的領域	スポーツバイオメカニクスの各種データ測定および処理解析法の基礎を修得することができる。						
授業計画(全体)							
本演習は、スポーツバイオメカニクス研究方法の「理論編」と「実践編」から構成される。理論編では各種研究手法の測定原理やデータ解析法について説明する。実践編では具体的に画像解析法を用いて簡単な実験を行い、データ収集・解析・処理作業を行う。							
授業計画(詳細)							
授業テーマとその内容							
第1回 オリエンテーション 第2回 研究方法① 第3回 研究方法② 第4回 研究方法③ 第5回 研究方法④ 第6回 実験 I 第7回 データ解析・処理① 第8回 データ解析・処理② 第9回 データ解析・処理③ 第10回 データ解析・処理④ 第11回 実験 II 第12回 データ解析・処理① 第13回 データ解析・処理② 第14回 データ解析・処理③ 第15回 データ解析・処理④ 第16回 課題提出 ※理論編(第2～5回), 実践編(第6～15回)							
授業外学習の指示等							
教科書を予習・復習すること。その他、学術図書・文献指定。							
成績評価方法(方針)							
課題レポート、出席状況、授業態度等から総合的に判断する。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	・スポーツバイオメカニクス特講の履修者。 ・理数系分野、コンピュータ(プログラミング)等に興味のある者。 ・筆記用具・ノート持参すること。 ・私語をしない。 ・携帯電話の電源を切る。 ・積極的な学習態度を期待したい。		
成績評価方法							
定期試験(期末試験)				—			
小テスト・授業内レポート				—			
授業外のレポート			○	40			
ポートフォリオ				—			
出席	○			30			
その他	○		○	30			
関連科目	スポーツバイオメカニクス特講						
教科書	Robertson, DGEほか著(阿江・宮西ほか訳)「身体運動のバイオメカニクス研究法」大修館書店 宮西編「スポーツバイオメカニクス」化学同人			参考書	Winter, DA 著「Biomechanics and Motor Control of Human Movement」Wiley-Interscience Robertson, DGE 著「Introduction to Biomechanics for Human Motion Analysis」Waterloo Biomechanics ペアー・ジョンストン著「工学のための力学<上・下>」ブレイン図書		
連絡先	管理研究棟4F404号室 [オフィスアワー:木曜日16:00~17:30]						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツバイオメカニクス特講		担当教員	宮西 智久			
	Sport Biomechanics (L.)						
領域水準コード	D2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
授業の概要							
スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力(外力と内力)が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講では、学部で学習したスポーツバイオメカニクスの基礎事項を復習すると同時に、力学的な力がわれわれのスポーツや身体運動に及ぼす影響を発展的に検証する。コラム的にスポーツバイオメカニクスの最新情報を紹介する。受講生の理解度に応じて授業を進める。							
授業の一般目標							
スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング場面で直面する問題を解決するにあたってスポーツバイオメカニクスの知識や知見を高度に活用・応用することができる。すなわち、身近な体育・スポーツ運動について、合理的(効果的・効率的)な運動や安全な運動とは何かをスポーツバイオメカニクスの観点から科学的に捉え直し、活用・応用することができるようになる。							
授業の到達目標							
<input checked="" type="checkbox"/> 認知的領域	スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、体育・スポーツ運動現象について論理的に説明することができる						
<input type="checkbox"/> 情意的領域							
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域							
授業計画(全体)							
本講義は大きく6つのパートから構成されている。すなわち、パートⅠ:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートⅡ:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートⅢ:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートⅣ:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートⅤ:流体力学(1回)、パートⅥ:筋収縮の力学(2回)。本講義は、これらのパートについて順に系統だてて進められる。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] スポーツバイオメカニクス序説 [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。	9	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅠ [内容] 力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力のモーメント計算、SI単位				
2	[テーマ] 力学と数学の基礎 / 並進運動のキネマティクスⅠ [内容] 力学モデル、運動の形態(並進・回転・一般運動)と種類(等速・等加速度・加速度運動)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分	10	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅡ [内容] つり合い、てこの原理、重心とその測定法、重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理、SI単位				
3	[テーマ] 並進運動のキネマティクスⅡ [内容] 位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動、SI単位	11	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅢ [内容] ニュートンの運動の三法則の回転版、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則、SI単位				
4	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅠ [内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係、SI単位	12	[テーマ] 仕事・エネルギー・パワー [内容] 仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギーの変換、力学的効率、SI単位				
5	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅡ [内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動、SI単位	13	[テーマ] 流体力学: 空気や水による力 [内容] 物質の三態、アルキメデスの原理、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果、SI単位				
6	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅠ [内容] 力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則の並進版、ダランベールの原理、いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、SI単位	14	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅰ [内容] 筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(カー長と関係、カー速度関係、カーパワー関係)、筋収縮モデル				
7	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅡ [内容] 運動量と力積、運動量保存の法則、フリーボディダイアグラム、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係、SI単位	15	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅱ [内容] 身体外部の物体へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力発揮増大に関わる要因				
8	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅢ [内容] 運動量と力積、運動量保存の法則、SI単位	16	[試験または課題] [方法] 期末試験/レポート				
授業外学習の指示等							
学部のスポーツバイオメカニクス、機能解剖学の教科書・ノート類について予習・復習すること。							
成績評価方法(方針)							
期末試験や課題レポート、出席状況、授業態度等から総合的に判断する。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部においてスポーツバイオメカニクスを修得済の者。</li> <li>・理数系分野に興味のある者。</li> <li>・筆記用具・ノート持参すること。</li> <li>・私語をしない。</li> <li>・携帯電話の電源を切る。</li> <li>・積極的な学習態度を期待したい。</li> </ul>	
成績評価方法							
定期試験(期末試験)		◎			30		
小テスト・授業内レポート					—		
授業外のレポート		◎			30		
ポートフォリオ		○			10		
出席		◎			30		
その他					—		
関連科目	スポーツ運動分析法演習(宮西)						
教科書	宮西編「スポーツバイオメカニクス」化学同人		参考書	Hay, JG著「スポーツ技術のバイオメカニクス」Prentice Hall 阿江・藤井著「スポーツバイオメカニクス20講」朝倉書店 金子・福永編「バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎—」杏林書院 阿江・宮西他訳「身体運動のバイオメカニクス研究法」大修館書店			
連絡先	管理研究棟4F404号室 [オフィスアワー:木曜日16:00~17:30]						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	トップスポーツコーチング演習		担当教員	南條充寿／阿部 肇			
領域水準コード	D3	単位数	2	履修方法	選択必修	授業の方法	演習
授業の概要							
①指定されたトップレベルのコーチング現場へ指導者として体験的参加する機会を提供し、(受講者が)競技者側のニーズや課題などについて学んだことをテーマに、コーチングの本質や最新の情報を論述する。②専門分野と異なった競技のコーチング体験機会を提供し、(受講者が)自らのコーチング能力向上に必要な考え方や情報、方法等を分析的に解説する。(学習者同士のディスカッションの中から自ら発見することを重要視する)							
授業の一般目標							
トップレベルのコーチングは高度化し、複雑化している。ここでは、社会のニーズや公共性、公益性を求められるトップコーチングのあり方やその方法等を、実際のトップコーチおよびスタッフから体験的に学び取る。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	現場コーチングを行なうにあたっての自己の課題を知り、併せてトップコーチングに不可欠な指導者の考え方や心構え、専門性などを理解する						
■ 情意的領域	トップコーチングのあり方や現場の課題など、体験をとおしてその本質と対峙する						
■ 技能表現的領域	競技者やチームの目的達成のために不可欠なトップコーチングの基礎スキルを体験し、その方法やトレーニング法について知る						
授業計画(全体)							
授業は、トップコーチの活動現場において実施することを主体とする。具体的には、講師(トップコーチ)から自らのコーチング哲学や方針や指導上の留意点、課題などのプレゼンテーション、講師とのディスカッションの後に、観察視点や体験学習のポイントを明らかにして現場学習に臨む。現場学習の後は、講師への質疑応答(振り返り)などを行なう。							
授業計画(詳細)							
授業テーマとその内容							
<p>1.オリエンテーション/ガイダンス ……………【授業回数1回】</p> <p>2.解説:トップコーチング現場の観察視点 ……………【授業回数1回】</p> <p>3.チーム競技トップコーチング(ボート競技現場から学ぶ) ……【授業回数6回】</p> <p>4.武道系トップコーチング(柔道競技現場から学ぶ) ……………【授業回数6回】</p> <p>5.評価:プレゼンテーション/ディスカッション/口頭試問 ……………【授業回数2回】</p> <p>①コーチの指導理念、行われるトレーニングのポイント、コーチングのポイント</p> <p>②観察 ポイント:コーチ、チーム、個人、施設、サポート、取材メディアなどを観察 ・コーチ(指導方針、理念 など) ・チーム(目標、運営方法 など) ・トレーニング(年間計画、現在の目標、観察日に行われている内容と位置づけ</p> <p>③振り返り:コーチを囲んでディスカッション、Q&amp;A</p> <p>④レポート</p> <p style="text-align: center;">担当: 3コマ/人</p>							
授業外学習の指示等							
現場学習にあたり、それぞれの講師の活動に関する情報収集などを十分に行ない、観察視点や学習のポイントを明確にしておく。							
成績評価方法(方針)							
成績評価方法(詳細)							
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	履修上の注意(受講に当たって院生に望むこと)		
成績評価方法					以下の視点を念頭において授業に参加すること。 ・物事すべて解く鍵は「みる(観察)」することから始まる。 ・学ぶことを忘れてたら指導することも忘れなければならない。 ・教育の価値は事実をすることではなく、価値を知ることである。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	40			
授業外のレポート							
ポートフォリオ	○	○	○	50			
出席				10			
その他							
関連科目	トップスポーツマネジメント特講						
教科書	「知的コーチングのすすめ」. 勝田隆著. 大修館書店			参考書			
連絡先	阿部 肇研究室: A406、td-abe@sendai-u.ac.jp						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	トップスポーツマネジメント特講		<b>担当教員</b>	浅川 伸／井上 規之			
<b>領域水準コード</b>	D3	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択必修	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>							
<p>トップスポーツに求められる価値・意義について様々な国際情報や研究地検に手掛かりについて解説をする。                  トップスポーツの公益性や社会性を考える視点として、アンチドーピングの立場および地域における政策とトップスポーツとの関連性の視点から解説を行い、その内容についてそれぞれディスカッションの機会を設定する。</p>							
<b>授業の一般目標</b>							
<p>トップスポーツ(競技力向上を含む)の価値やあり方について、公益性や社会性の視点から深く理解することができ、合わせて国際社会におけるスポーツの位置づけについて考える力をつける。これらの視点を通じてトップスポーツのマネジメントについて理解する。</p>							
<b>授業の到達目標</b>							
<b>■ 認知的領域</b>	トップスポーツ(競技力向上を含む)の価値やあり方について公益性、社会性の観点から理解することができる。						
<b>■ 情意的領域</b>	「スポーツ」の未来について、多面的な視点から意欲的に探究することができる。						
<b>■ 技能表現的領域</b>	国際大会等における競技力向上に資するトップマネジメント能力を培う。						
<b>授業計画(全体)</b>							
<p>大きく2つのパートから成立しており、その一つはアンチドーピングをキーワードにスポーツの公平性について学ぶ部分であり、もう一つは地域をキーワードとしてスポーツと地域行政について学ぶ部分である。それぞれ、のパートのまとめの部分では「マネジメント」をキーワードとしてディスカッションやレポートを行う。</p>							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	オリエンテーション 授業の進め方や目的、概要について説明する。	9	スポーツと地域① 地域におけるスポーツ行政に関して事例に基づき多様な視点から解説を行う				
2	スポーツの公平性① スポーツの価値に深く関連するその公平性についてアンチドーピング機構のアウトリーチ事業の事例から解説する	10	スポーツと地域② 地域スポーツのマネジメントについて解説するとともに、現代社会の問題点や解決すべき課題について論じる				
3	スポーツの公平性② スポーツの価値と公平性の関連性について多様な事例を参考に解説する	11	スポーツと学校現場① 学校教育におけるスポーツ行政について解説を行う				
4	スポーツ医科学サポート① 国際競技力向上のための医科学サポートの事例に関する解説を行い、トップスポーツのマネジメントについて論じる	12	スポーツと学校現場② 学校教育におけるスポーツのマネジメントとについて論じるとともに、現代の教育およびスポーツの重なる部分の問題点や課題について論じる				
5	スポーツ医科学サポート② 国際競技力向上のための医科学サポートの在り方や今後の方向性について論じる	13	地域スポーツとトップスポーツ① 地域スポーツの視点からトップスポーツについて論じる				
6	スポーツの公益性と高潔性① スポーツの価値という側面から国際社会の中でスポーツの果たす役割を論じるとともにアンチドーピングの意義について解説する	14	地域スポーツとトップスポーツ② トップスポーツと地域のスポーツとの関連性について具体的な事例を通じて解説を行い、今後の課題や方向性について論じる				
7	スポーツの公益性と高潔性② スポーツの価値という側面からアンチドーピング機構の取り組みについて事例を基に解説を行う	15	ディスカッション② スポーツの視点から地域行政と国際社会との関連性を学習者自ら論点を構築し、ディスカッションを行う				
8	ディスカッション① スポーツの公平性、社会性、公益性、高潔性の視点から学習者自ら論点を構築し、ディスカッションを行う	16	まとめ これまでの授業を振り返りレポートを作成する				
<b>授業外学習の指示等</b>							
<p>学習に当たり、担当講師の活動等に関する情報収集を十分に行い、受講のポイントを明確にしておくことを推奨する。また、質の高いディスカッションが行えるように、スポーツの情報について日常から収集を怠らないように努力する。</p>							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
ディスカッションおよびレポートに関して総合的に成績を評価する。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>						<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)			
<b>成績評価方法</b>							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	40			
授業外のレポート	○	○	○	40			
ポートフォリオ	○	○	○	20			
出席							
その他							
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>				<b>参考書</b>			
<b>連絡先</b>							
粟木研究室:E棟2階							

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	キャリアマネジメント演習		担当教員	相馬浩隆			
領域水準コード	D3	単位数	2	履修方法	選択必修	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
高い水準で競技に携わることは、スポーツへの長期にわたる深い自己投入を強いられるということである。そのためには自分が行ってきた競技に対する振り返りや、これからの競技生活を含む人生への展望を行い、統一的な安定した自己像を作り上げることが重要となる。本演習では、これらの活動をどのように実践するかを詳説するとともに、キャリアという観点から競技活動を支えるための方法を学ぶことを目的としている。							
<b>授業の一般目標</b>							
トップアスリートのキャリア問題全般について、人文、社会の各分野の観点から、基礎的な理解をすることができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input type="checkbox"/> 認知的領域	トップアスリートのキャリアトランジション(現役から引退前後までのキャリアを取り巻く課題・問題)について概要の説明ができる						
<input type="checkbox"/> 情意的領域	トップアスリートのキャリアトランジションに主体的に興味を持ち、現実的な問題解決方法を考えられる						
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域	トップアスリートのキャリアトランジションの支援分野における、具体的手法の基礎を習得する						
<b>授業計画(全体)</b>							
本演習では、トップアスリートのキャリアトランジションの現状や課題、支援策について国内外の現状を踏まえ講述する。なお本演習ではレクチャーだけでなく、ワークショップを通して学生の積極的な参加を求める。年間の後半の授業では、キャリアという観点から競技活動を支えることを演習するために、ナショナルトレーニングセンター(東京都北区)での実践も予定している。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方	9	[テーマ] トップアスリートに対するキャリア支援プログラムの計画① [内容] トップアスリートへのキャリア支援プログラムの設計手法を解説する				
2	[テーマ] トップアスリートのキャリアトランジション(キャリア問題)概説① [内容] 近年、トップアスリートのキャリア問題が顕在化してきた背景について解説する。	10	[テーマ] トップアスリートに対するキャリア支援プログラムの計画② [内容] トップアスリートへのキャリア支援プログラム設計を演習する(1)				
3	[テーマ] トップアスリートのキャリアトランジション(キャリア問題)概説② [内容] トップアスリートのキャリア問題とは何か、その解決課題は何かを、具体例を挙げながら解説する(1)。	11	[テーマ] トップアスリートに対するキャリア支援プログラムの計画② [内容] トップアスリートへのキャリア支援プログラム設計を演習する(2)				
4	[テーマ] トップアスリートのキャリアトランジション(キャリア問題)概説③ [内容] トップアスリートのキャリア問題とは何か、その解決課題は何かを、具体例を挙げながら解説する(2)。	12	[テーマ] トップアスリートに対するキャリア支援の実践① [内容] 計画したプログラムの実習(受講生同士での模擬的実習)(1)				
5	[テーマ] トップアスリートへのキャリア支援手法概説① [内容] 解決課題に対し、現在おこなわれている国内の支援手法を概説する。	13	[テーマ] トップアスリートに対するキャリア支援の演習② [内容] 計画したプログラムの実習(受講生同士での模擬的実習)(2)				
6	[テーマ] トップアスリートへのキャリア支援手法概説② [内容] 解決課題に対し、現在おこなわれている国外の支援手法を概説する(1)。	14	[テーマ] トップアスリートに対するキャリア支援の演習③ [内容] 計画したプログラムの実習(アスリートに対する実施への参加)(1)				
7	[テーマ] トップアスリートへのキャリア支援手法概説③ [内容] 解決課題に対し、現在おこなわれている国外の支援手法を概説する(2)。	15	[テーマ] トップアスリートに対するキャリア支援の演習④ [内容] 計画したプログラムの実習(アスリートに対する実施への参加)(2)				
8	[テーマ] トップアスリートへのキャリア支援手法概説④ [内容] 現在おこなわれている国内外の支援手法の成果と課題を概説する。	16	[試験または課題] 授業の理解度を測定するための試験の実施、または課題を与える。 [方法]				
<b>授業外学習の指示等</b>							
講義には実際の支援プログラムの計画立案、実施が含まれる。これは授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外での調査、分析、まとめが必要となる。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
提出されたレポートを評価するとともに、立案された支援プログラム及び実践の内容も評価する。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・20分以上の遅刻は欠席と同等の扱いをする。 ・授業計画は授業の進捗により若干前後することがある。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎	○	○	70%			
授業外のレポート	◎		○	30%			
ポートフォリオ							
出席							
その他							
関連科目							
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない		
連絡先	栗木研究室:E棟2階 0224-55-5079 相馬:ナショナルトレーニングセンターtel.(03)5963-0355 email:h-soma@joc.or.jp						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	フィットネスプロモーション特講 Fitness Promotion	<b>担当教員</b>	阿部良仁		
<b>領域水準コード</b>	C3,E3,G3	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択必修
<b>授業の方法</b>					
講義					
<b>授業の概要</b>					
本授業は、スポーツや健康に関わる様々な体力要素を選手や一般の人々に広めることについて、日米の実際例を紹介し、これに関する情報交換を行います。得られた情報を通じてフィットネスプロモーション活動を分析し、各自のフィールドにおけるより有効な方法をまとめプレゼンテーションを行います					
<b>授業の一般目標</b>					
フィットネスプロモーションについて、その実際例に関する知見を深め、フィットネスを一般の人々やアスリートに広める方法について、様々な視点から考え、組み立て、第三者に伝えることができるようになる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>■ 認知的領域</b>	フィットネスプロモーションの日米における実際例を知り、これに関わる様々な要素を理解できるようになる				
<b>■ 情意的領域</b>	フィットネスプロモーションを多角的に捉えることができるようになる				
<b>■ 技能表現的領域</b>	自分自身の考えを第三者に伝えることができるようになる				
<b>授業計画(全体)</b>					
授業のテーマとしては、フィットネスプロモーションに関する①情報を得る、②情報を提供する、③情報を分析する、④情報を組み立てる、⑤組み立てた情報を発表する形で進めます					
<b>授業計画(詳細)</b>					
回	授業テーマとその内容				
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法	9	[テーマ] フィットネスプロモーション事例の分析① [内容] 競技スポーツへのフィットネスプロモーション分析		
2	[テーマ] フィットネスプロモーションの定義 [内容] フィットネスとは何か? プロモーションとは何か?	10	[テーマ] フィットネスプロモーション事例の分析② [内容] 一般の人々へのフィットネスプロモーション分析		
3	[テーマ] 米国のフィットネスプロモーション① [内容] 米国におけるフィットネスの普及	11	[テーマ] フィットネスプロモーション計画の作成 ケーススタディ① [内容] 競技スポーツへのフィットネスプロモーション		
4	[テーマ] 米国のフィットネスプロモーション② [内容] 米国におけるストレングス&コンディショニングの普及	12	[テーマ] フィットネスプロモーション計画の作成 ケーススタディ② [内容] 一般の人々へのフィットネスプロモーション計画		
5	[テーマ] 日本のフィットネスプロモーション① [内容] 日本におけるフィットネスの普及	13	[テーマ] フィットネスプロモーション プレゼンテーション① [内容] 自分自身のフィットネスプロモーション		
6	[テーマ] 日本のフィットネスプロモーション② [内容] 日本におけるストレングス&コンディショニングの普及	14	[テーマ] フィットネスプロモーション プレゼンテーション② [内容] 自分自身のフィットネスプロモーション		
7	[テーマ] 皆さんが行ってきたフィットネスプロモーション① [内容] 自分自身が今までに行ってきたフィットネスプロモーションをまとめて発表する	15	[テーマ] フィットネスプロモーション プレゼンテーション③ [内容] 自分自身のフィットネスプロモーション		
8	[テーマ] 皆さんが行ってきたフィットネスプロモーション② [内容] 自分自身が今までに行ってきたフィットネスプロモーションをまとめて発表する	16	[試験または課題] [方法] 各自のフィットネスプロモーションに対する個別評価面談		
<b>授業外学習の指示等</b>					
各自が実践しているフィットネスプロモーション活動を、学習した視点から分析し、各自の特徴を理解して、改善する方法を考える					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
評価は、出席状況、ポートフォリオ、課題に対するプレゼンテーションに基づき行う。各項目の評価割合は、出席状況が15%、ポートフォリオが35%、プレゼンテーションが50%とする。					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	本授業は、情報を得るだけの形式ではありません。自分自身の情報をまとめて発表することや、組み立てた計画を実際にプレゼンテーションすることも含まれています。
定期試験(期末試験)				評価対象外	
小テスト・授業内レポート				評価対象外	
授業外のレポート				評価対象外	
ポートフォリオ	◎			35	
出席		◎		15	
その他(プレゼンテーション)	◎		◎	50	
<b>関連科目</b>					
<b>教科書</b>					
			<b>参考書</b>		
<b>連絡先</b>					
鈴木省研究室: A棟4階402号室、阿部良仁: ry2abe@jcom.home.ne.jp					



平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	トレーニング科学特講		担当教員	鈴木省三			
	Training Science(L)						
領域水準コード	E3,F2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
適切なトレーニングプログラムは、トレーニングの原理・原則の応用に基づいて、プログラムデザインと呼ばれる手順を踏んで構築される。本講義では、トレーニングの原理を解説するとともに、どのようにトレーニングプログラムを構築していくかについて、最近の研究結果や具体例を基に解説する。							
<b>授業の一般目標</b>							
エネルギー・筋系体力、技術等の分析を通して、各自が実施してきたスポーツ種目のパフォーマンスの特異性を理解し、適切なトレーニングプログラムをデザインするための能力を身につける。また、応用として、各自が実施しているスポーツ種目を中心に、競技種目の特異性に関する分析方法や年間トレーニングプログラムの構築および評価方法を身につける。							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	プログラムデザインを実施するための基礎的事項について説明できる。						
■ 情意的領域	科学的手法を用いたトレーニングプログラムの構築に取り組むことができるようになる。						
■ 技能表現的領域	基本的なトレーニングプログラムについて、選手やクライアントのニーズに応じて構築することができる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業前半は主に基本的な理論を取りあげ、後半では各自の実施している競技種目の特異性分析や年間トレーニングプログラムの作成を行う。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
<b>授業テーマとその内容</b>							
回							
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明			9	[テーマ] 各種スポーツ種目の特異性分析(3) [内容] 各自スポーツ種目の特異性分析のまとめ		
2	[テーマ] 運動、休養、栄養とコンディショニング [内容] 超回復とコンディショニングの関係について説明する。			10	[テーマ] 年間トレーニングプログラムの立案(ピリオダイゼーション)(1) [内容] トレーニング期分け(ピリオダイゼーション)に関する基本的事項について説明する		
3	[テーマ] 持久力とスポーツパフォーマンス [内容] 持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する			11	[テーマ] 年間トレーニングプログラムの立案(ピリオダイゼーション)(2) [内容] トレーニング期分けを行うための方法について説明し、実際に年間トレーニングプログラムを作成する		
4	[テーマ] 筋力・パワーとスポーツパフォーマンス [内容] 筋力・パワーがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する			12	[テーマ] トレーニングプログラムの評価(1) [内容] 年間トレーニングにおける生理・心理的パラメータを用いたコンディションチェックや総トレーニング量を評価するための方法について説明する		
5	[テーマ] 神経系とスポーツパフォーマンス [内容] 神経系がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する			13	[テーマ] トレーニングプログラムの評価(2) [内容] 各種トレーニングの負荷設定や生理的適応を評価するための方法について説明する		
6	[テーマ] 発育・発達とスポーツパフォーマンス [内容] 発育・発達がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について、最新の研究成果を基に説明する			14	[テーマ] プログラムデザインの応用(1) [内容] 計画・実践・分析・評価に基づいたプログラムデザインの実例について紹介する		
7	[テーマ] 各種スポーツ種目の特異性分析(1) [内容] スポーツ種目の特異性を分析するための基礎的理論について説明し、実際に分析を行う			15	[テーマ] プログラムデザインの応用(2) [内容] 計画・実践・分析・評価に基づいたプログラムデザインの実例について紹介する		
8	[テーマ] 各種スポーツ種目の特異性分析(2) [内容] スポーツ種目の特異性を分析するための専門的理論について説明し、実際に分析を行う			16	[試験または課題] 各自の作成した種目特異性と年間トレーニングプログラムの作成 [方法] パワーポイントで発表		
<b>授業外学習の指示等</b>							
授業で分析・作成したものは、授業外学習として必ずパソコンを用いて図表を作成すること。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
評価は、出席状況、授業内外のレポート、ポートフォリオにより行う。各項目の評価割合は、出席状況が10%、授業内外のレポートが70%、ポートフォリオが20%とする。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。</li> <li>・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。</li> <li>・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。</li> <li>・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。</li> </ul>		
成績評価方法							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎			60			
授業外のレポート			◎	10			
ポートフォリオ		◎		20			
出席				10			
その他							
関連科目	フィットネス・プロモーション特講、ストレングス&コンディショニング演習、運動・スポーツ生理学特講、体力増進科学特講、運動環境科学特講						
教科書	特に指定しない。			参考書	特に指定しない。		
連絡先	研究室：鈴木 A棟4階402号室						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	ストレngth&コンディショニング演習 Seminar of Strength & Conditioning	<b>担当教員</b>	金崎泰英
<b>領域水準コード</b>	E3,F3	<b>単位数</b>	2
		<b>履修方法</b>	選択必修
		<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>			
スポーツの現場においては、ストレngth&コンディショニングにおけるトレーニングそのものが目的ではなく、その先にあるパフォーマンスへの有効的な結びつきが必要となる。また、プロのコーチとして活動する場合、チームスポーツであれば、「選手」「チーム」「雇い主」などといった各立場を念頭に置く必要がある。これら全ての立場の中でバランスよく業務を遂行するには、単にストレngth&コンディショニングに関する知識を備えているだけでは対応できない。この授業では、これまで蓄積した知識や経験を発展させ、現場にてより有効的に活かすべく能力の育成を主たる目的とする。			
<b>授業の一般目標</b>			
授業進行に当たっての題材は「プロ野球」である。そして、自分自身がプロ野球のコーチとして雇用されたとの仮定に基づき、契約からシーズン終了、オフシーズンまでの1年の流れをシュミレーションにて追いかける。このなかで、実際の業務を知り、また都度起こり得る問題点に対し、適切に対処すべ方法を探る。あわせて、実際の業務でも必要となる各種報告資料も実際に作成し、それらの有効的な作成方法についても学ぶ。			
<b>授業の到達目標</b>			
<b>■ 認知的領域</b>	ストレngth&コーチとしての基礎的・基本的事項を現場に即した形で適切に説明することができる。		
<b>■ 情意的領域</b>	知識や能力を将来にわたって育み、ストレngth&コーチとして建設的な方向性を備えて業務を実践することができるようになる。		
<b>■ 技能表現的領域</b>	実際に現場で用いることのできる有用な資料及び、業務報告書を作成することができる。		
<b>授業計画(全体)</b>			
4日間の集中授業の中で、1日目は「知る」、2日目・3日目は「シュミレーション」、最終日に「まとめる」の段階を踏む。どの段階においても積極的な意見の発言を必要とする。現場シュミレーションにおいては、実際にコンディショニングに関する資料や、最終課題としての業務報告書を授業内にて作成する(ノート型パソコンが必要)。			
<b>授業計画(詳細)</b>			
回	授業テーマとその内容		
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 自己紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法等を確認する。	9	[テーマ] 現場シュミレーション V [内容] 題材・・・プロ野球「シーズン終盤」
2	[テーマ] ストレngth&コンディショニングコーチの役割について [内容] どういった立場で、またどのように業務を遂行すべきか。基本的かつ専門的な知識を踏まえた上で、ストレngth&コンディショニングコーチの存在意義や業務内容を確認する。	10	[テーマ] 現場シュミレーション VI [内容] 題材・・・プロ野球「プレーオフ」
3	[テーマ] ストレngth&コンディショニングコーチの抱える問題 [内容] 知識を蓄え、資格を取得したストレngth&コンディショニングコーチが、現実に直面する問題を知り、またその現実的な解決方法をディスカッションする。	11	[テーマ] 現場シュミレーション VII [内容] 題材・・・プロ野球「秋季キャンプ」
4	[テーマ] 現場シュミレーションに関する各種準備 [内容] 翌日より行うシュミレーションに関する知識的準備や想定する状況、進行方法などを確認する。	12	[テーマ] 現場シュミレーション VIII [内容] 題材・・・プロ野球「オフシーズン」
5	[テーマ] 現場シュミレーション I [内容] 題材・・・プロ野球「春季キャンプ」	13	[テーマ] 現場シュミレーションの復習 I [内容] 現場シュミレーション I～VIIIにおける1年を再度振り返る。
6	[テーマ] 現場シュミレーション II [内容] 題材・・・プロ野球「プレシーズンゲーム期間」	14	[テーマ] 現場シュミレーションの復習 II [内容] シュミレーション実施前後におけるストレngth&コンディショニングコーチとしての認識の差異や今後への活用方法などを再確認する。
7	[テーマ] 現場シュミレーション III [内容] 題材・・・プロ野球「シーズン前半」	15	[テーマ] 最終課題の作成 [内容] シュミレーションにおける1シーズンを振り返り、シーズン終了に伴う球団向け業務報告資料を作成する。
8	[テーマ] 現場シュミレーション IV [内容] 題材・・・プロ野球「シーズン中盤」	16	[試験または課題] 球団向け業務報告資料に関するディスカッション [方法] 作成した業務報告資料において発表、意見の交換を行い、状況に応じて資料の最終修正を行う。
<b>授業外学習の指示等</b>			
どのようなプロのストレngth&コンディショニングコーチになりたいか、その理想像をしっかりと描いておくこと。			
<b>成績評価方法(方針)</b>			
① 授業参加における積極性。出欠席だけでなく、自分自身の意見を述べる、他の意見を批評する、疑問点に対して質問するなど、授業への取り組み方を評価する。 ② 作成した資料(コンディショニング関連及び業務報告など)を評価する。			
<b>成績評価方法(詳細)</b>			
	<b>到達目標</b>	<b>認知的領域</b>	<b>情意的領域</b>
	<b>技能表現的領域</b>	<b>評価割合 (%)</b>	
<b>成績評価方法</b>			
定期試験(期末試験)			評価対象外
小テスト・授業内レポート	◎	○	◎
授業外のレポート			評価対象外
ポートフォリオ			20
出席		◎	減点あり
授業態度		◎	40
<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>			
・基本的には、プロのストレngth&コンディショニングコーチを目指す学生向けの授業である。 ・積極的な意見を述べられるよう、常に自分なりの考え方を準備すること。 ・プロ野球を題材にすることから、プロ野球に関する最小限の予備的知識を準備することが望ましい。 ・授業では実際に資料等をパソコンで作成する為、ノート型パソコンを準備すること(エクセル、ワードを使用)。 ・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。			
<b>関連科目</b>			
<b>教科書</b>	特に指定しない		<b>参考書</b>
	特に指定しない		
<b>連絡先</b>	鈴木省研究室:A棟4階402号室、金崎:kan_yasuhide@yahoo.co.jp		

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	運動・スポーツ生理学特講		担当教員	内丸 仁			
	Advanced Exercise & Sports Physiology(L.)						
領域水準コード	R-2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
授業の概要							
スポーツの特異性等もふまえて、運動・スポーツ時の身体の機能や運動やトレーニングの効果、運動・スポーツによって身体の組織や器官系に生じる一時的あるいは永続的適応などについて、対話と討論を通して双方向の講義を行う。							
授業の一般目標							
運動・スポーツ時における人体の生理学的機能、さらには運動・スポーツにおけるトレーニング効果について理解する。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	運動・スポーツ時の生理学的な応答・適応について理解する。						
■ 情意的領域	生理学的な機能や効果さらには意義を理解した上で、実際の活動(運動およびスポーツ)に取り組むことができるようになる。						
■ 技能表現的領域	運動・スポーツ生理学に関連する知識あるいは情報をもとに、対象者に適切な表現を持って説明・指導できるようになる。						
授業計画(全体)							
各回の授業テーマについて、関連する英語テキストあるいは資料を用いた講義とディベートが中心となる。また、各授業毎に課題を行うことで理解度・到達度を確認する。なお、実際の生理学的応答について確認するために演習形式での各種生理学的測定も実施する。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション/運動・スポーツ生理学とは [内容] 本授業の進め方について、および運動・スポーツ生理学について説明する。	9	[テーマ] 呼吸循環～運動に対する酸-塩基平衡～ [内容] 運動・スポーツ時の酸-塩基平衡の調節について説明する。				
2	[テーマ] 運動時における生体内のホメオスタシス～生体内環境と生体内エネルギー～ [内容] 運動・スポーツ時における生体内環境の調節とエネルギーについて説明する。	10	[テーマ] 異なる環境における運動・スポーツ [内容] 暑熱と寒冷、低酸素と高酸素などの異なる環境における運動時の生理学的応答について説明する。				
3	[テーマ] 運動時における生体内のホメオスタシス～エネルギー代謝～ [内容] 運動・スポーツ時におけるエネルギー代謝について説明する。	11	[テーマ] 健康および体力の生理学 [内容] 健康と疾病、体力の測定方法などについて説明する。				
4	[テーマ] 運動時における生体内のホメオスタシス～ホルモン応答と神経系～ [内容] 運動・スポーツ時におけるホルモン応答および神経系作用について説明する。	12	[テーマ] パフォーマンスの生理学1 [内容] 運動パフォーマンスに及ぼす生理学的要因について説明する。				
5	[テーマ] 骨格筋～構造と機能1～ [内容] 筋の構造、筋線維組成および筋収縮について説明する。	13	[テーマ] パフォーマンスの生理学2 [内容] 持久的能力および競技能力の測定方法と評価について説明する。				
6	[テーマ] 骨格筋～構造と機能2～ [内容] 運動トレーニングによる筋線維の変化、加齢に伴う筋機能の変化について説明する。	14	[テーマ] パフォーマンスの生理学3 [内容] 瞬発的、無酸素的能力および競技能力の測定方法と評価について説明する。				
7	[テーマ] 呼吸循環～運動に対する循環系の応答～ [内容] 循環系器官のシステム、運動・スポーツ時の心臓、血液、酸素運搬について説明する。	15	[テーマ] 運動・スポーツと免疫およびエルゴジェニックエイド [内容] 運動と免疫能、エルゴジェニックエイドについて説明する。				
8	[テーマ] 呼吸循環～運動に対する呼吸系の応答～ [内容] 呼吸系器官のシステム、呼吸のメカニズム、運動・スポーツ時の換気、ガス交換について説明する。	16	[試験または課題] 特定課題による討議およびレポート提出 [方法] 授業時に別途指定する特定課題についてプレゼンテーションやディベートを行い、その後レポートを提出する。				
授業外学習の指示等							
予習および復習をすること。							
成績評価方法(方針)							
授業内で行うディベートあるいは課題(評価割合40%)、授業外のレポート(評価割合40%)、ポートフォリオ(評価割合10%)および出席状況(評価割合10%)を含めた成績評価を行う。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	予習復習を行うこと。 運動時の生理応答について各種測定を演習形式で行うことがある。 授業には英語のテキスト等を使用するので、必要があれば和英・英和辞書を用意すること。 授業計画は授業の進行状況により多少前後および変更することがある。 欠席をする場合にはあらかじめ連絡をすること。 連絡のない場合には放棄したものとして評価する。 講義形式の授業形態であるが、討論も含めた授業展開をするために、授業進行上、欠席の場合にはあらかじめ連絡をすること。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎		○	35			
授業外のレポート	◎		○	35			
ポートフォリオ	○		○	10			
出席		△		10			
その他	○	△	○	10			
関連科目	体力増進科学特講						
教科書	別途指示	参考書	石河利寛、杉浦正輝共著:運動生理学、建帛社 Powers SK and Howley ET : Exercise Physiology 8th, McGraw-Hill Companies. McArdle WD, Katch FI and Katch VL : Exercise Physiology 5th, Lippincott Williams & Wilkins 他 (別途指示)				
連絡先	研究室:C棟2F						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	体力増進科学特講 Science of Physical Fitness Promotion (L.)	<b>担当教員</b>	竹村 英和		
<b>領域水準コード</b>	E-1, F-1	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択
<b>授業の方法</b>					
講義					
<b>授業の概要</b>					
体力の定義や健康との関わりなど、体力増進に関わる基本的事項について解説する。また、子供から高齢者の体力に関する現状と課題および競技選手に必要とされる専門的な体力について、先行研究や資料を基に講述する。					
<b>授業の一般目標</b>					
一般人の健康増進やスポーツ選手の競技力向上に関わる体力の諸問題と課題、さらにはその具体的方策について理解することができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> <b>認知的領域</b>	子どもから高齢者および競技選手の体力特性や体力増進のための具体的手法について説明できる。				
<input checked="" type="checkbox"/> <b>情意的領域</b>	性別や年齢など対象者の状況に応じた体力特性について認識し、科学的根拠に基づいた体力増進に取り組むことができるようになる。				
<input type="checkbox"/> <b>技能表現的領域</b>					
<b>授業計画(全体)</b>					
授業は、テーマに沿った資料と先行研究を用いての講義を中心として、受講生との討論を交えて行う。授業内容は、主に健康の保持・増進に関わる体力増進であるが、一部、スポーツ選手の体力に関する内容について解説する。					
<b>授業計画(詳細)</b>					
回	授業テーマとその内容				
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明	9	[テーマ] 体力増進のための運動処方(1) [内容] 体力増進を目的としたトレーニングの原理・原則および身体活動量の評価や定期的な運動に対する効果について説明する。		
2	[テーマ] 体力の概念と定義および生涯にわたる体力増進の必要性 [内容] 防衛体力と行動体力など体力に関わる基礎的事項と健康の保持・増進のための体力増進の必要性について説明する。	10	[テーマ] 体力増進のための運動処方(2) [内容] 体力増進を目的とした運動処方を行うための要因(種目・時間・強度・頻度)について説明する。		
3	[テーマ] 身体運動と防衛体力 [内容] 身体運動に伴う免疫能や代謝機能の変化など、防衛体力の増進について説明する。	11	[テーマ] スポーツ選手における競技種目別の体力特性 [内容] 各種スポーツ種目における形態・体力特性について説明する。		
4	[テーマ] 身体運動と行動体力(1) [内容] 行動体力のうち、特に筋系体力の増進について身体運動および健康づくりの観点から説明する。	12	[テーマ] スポーツ選手を対象とした体力測定と評価 [内容] スポーツ選手が行う専門的な体力測定法と評価法について説明する。		
5	[テーマ] 身体運動と行動体力(2) [内容] 行動体力のうち、特にエネルギー系体力の増進について身体運動および健康づくりの観点から説明する。	13	[テーマ] 体力増進の現状と課題(1) [内容] 体力増進に関わる先行研究を調べ、その内容について討論する。		
6	[テーマ] 青少年期における体力特性と体力増進 [内容] 現代社会における青少年期の体力について、特に子どもの体力の現状と問題点を中心に説明する。	14	[テーマ] 体力増進の現状と課題(2) [内容] 体力増進に関わる先行研究を調べ、その内容について討論する。		
7	[テーマ] 加齢に伴う体力・運動能力の変化と性差 [内容] 加齢に伴う身体活動の減少と体力・運動能力の低下や性差について説明する。	15	[テーマ] 体力増進の現状と課題(3) [内容] 体力増進に関わる先行研究を調べ、その内容について討論する。		
8	[テーマ] 一般人を対象とした体力測定と評価 [内容] 一般人を対象とした体力測定法と評価法について説明する。	16	[試験または課題] レポート課題の実施 [方法] 先行研究や各種資料を基に、体力増進のための背景や具体的取り組み、評価法および将来的な展望についてまとめる。		
<b>授業外学習の指示等</b>					
授業内容の復習を行うとともに、体力増進に関わる先行研究や資料を積極的に調べる。					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
評価は、出席状況、授業内レポート、授業外レポート、ポートフォリオにより行う。各項目の評価割合は、出席状況が15%、授業内レポートが20%、授業外レポートが50%、ポートフォリオが15%とする。					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	・本科目は、「学部との接続を考慮した基礎的な水準」に位置づけられているため、基礎的な内容が中心となります。そのため、健康・体力増進関連の有資格者や現場での実践経験を有する院生、学部において本科目に関係する領域を専攻していた院生にとっては既知の内容となる可能性があります。 ・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがあります。
定期試験(期末試験)				評価対象外	
小テスト・授業内レポート	◎			20	
授業外のレポート	◎			50	
ポートフォリオ	◎	◎		15	
出席		◎		15	
その他				評価対象外	
<b>関連科目</b>	運動・スポーツ生理学特講, トレーニング科学特講				
<b>教科書</b>			<b>参考書</b>		
<b>連絡先</b>	竹村研究室:C棟3階				

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	アスレティックトレーニング演習		<b>担当教員</b>	村上 憲治			
<b>領域水準コード</b>	E-3	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	必修	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>							
スポーツ現場で競技者の健康管理に必要な傷害および疾病の基礎情報を講義する。さらに、疫学研究および文献を通してスポーツ現場に必要な健康管理に関する情報を把握・検証し、実験・実践を通して必要な改善および解決、また予防方法に対する知識を深める。							
<b>授業の一般目標</b>							
スポーツ現場で競技者の健康管理のために必要な傷害(発症メカニズムも含め)・疾病に対する基礎知識、技術、対応、方法・方策等について深く理解する。							
<b>授業の到達目標</b>							
<b>■ 認知的領域</b>	様々なトレーニングに関する信頼性や問題点を考えることができる。						
<b>■ 情意的領域</b>	リハビリテーションや予防トレーニングにおける科学的根拠の重要性と選手への心理的配慮も重要であることを認識できるようになる。						
<b>■ 技能表現的領域</b>	各々の症状に応じたトレーニングプログラム作成能力やリハビリテーションスキルを構築する。						
<b>授業計画(全体)</b>							
代表的なスポーツ傷害とそのアスレティックトレーニングについて検証・討議する。また、授業の内容をもとに各自でリハビリテーションや予防プログラムを考え、その内容について検証・討議する。これらの作業は個人もしくはグループで行う。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション、アイスブレイク [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習の指示等] シラバスを熟読しておくこと	9	[テーマ] 外傷・障害要因とその改善方法① [内容] ある症例(課題)をもとに外傷・障害要因とその改善方法について検討する [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること				
2	[テーマ] アスレティックトレーニングの意義 [内容] 現代の傷害像と運動環境などとも絡めながら、アスレティックトレーニングの意義について説明する [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること	10	[テーマ] 外傷・障害要因とその改善方法② [内容] ある症例(課題)をもとに外傷・障害要因とその改善方法について検討する [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること				
3	[テーマ] アスレティックトレーニングのプロセス [内容] アスレティックトレーニングの進め方に関する基礎的事項や考え方を概略する [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること	11	[テーマ] 競技復帰に必要なアスレティックトレーニングの実践 [内容] 競技特性や傷害特性を考慮した、最終段階のリハビリテーションの実践。 [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること				
4	[テーマ] アスレティックトレーニングに関する測定・評価 [内容] まずは自分の体をチェックし、傷害との関連性について検討する [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること	12	[テーマ] 傷害予防に必要なアスレティックトレーニングの実践 [内容] 競技特性や傷害特性を考慮した、傷害予防、再発予防トレーニングの実践。 [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること				
5	[テーマ] アスレティックトレーニングの実践① [内容] 具体的なトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること	13	[テーマ] アスレティックトレーニングのプログラム作成 [内容] 傷害発生から競技復帰(再発予防含む)までのトレーニングプログラムを作成し検討する。 [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習しておくこと				
6	[テーマ] アスレティックトレーニングの実践② [内容] 具体的なトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること	14	[テーマ] アスレティックトレーニングプログラムに対する評価① [内容] アスレティックトレーニングに関する実技試験形式の評価を行い、その内容を検証・討議する。 [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習しておくこと				
7	[テーマ] アスレティックトレーニングの実践③ [内容] 競技特性に応じたトレーニング方法について説明、実践し、その効果について検討する。 [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習すること	15	[テーマ] アスレティックトレーニングプログラムに対する評価② [内容] アスレティックトレーニングに関する実技試験形式の評価を行い、その内容を検証・討議する。 [授業外学習の指示等] 授業資料を基に復習しておくこと				
8	[テーマ] 外傷・障害要因の分析 [内容] 患部だけでなく全体像の把握の仕方について説明・検討する [授業外学習の指示等] 期日までに課題を行うこと	16	[テーマ] まとめ [内容] 実技試験形式評価に対する、フィードバックを行う [授業外学習の指示等] 実技試験形式の評価の内容を再度整理すること				
<b>授業外学習の指示等</b>							
授業資料を基に復習をすること、また次回授業に関する予習をしておくこと。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
評価は、授業内課題・実技(50%)と授業外レポート(50%)に基づいて行う。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。 ・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。		
定期試験(期末試験)				評価対象外			
小テスト・授業内レポート				評価対象外			
授業外のレポート	◎			50			
ポートフォリオ	◎	◎	◎	50			
出席				欠格条件			
その他				減点			
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>							
特に指定しない				<b>参考書</b>	特に指定しない		
<b>連絡先</b>							
村上研究室: 35記念館2階、kn-murakami@sendai-u.ac.jp							

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	運動環境科学特講		担当教員	高橋 弘彦			
領域水準コード	E2	単位数	2単位	履修方法	選択必修	授業の方法	演習
<b>授業の概要</b>							
物理的環境要因が運動時の生理的反応に及ぼす影響について講述するとともに、熱中症などの事故事例とその要因について解説する。また、人工気象室にて各種温熱条件を体験することにより、その生理的反応について理解し、物理的環境要因の影響に関する知識を深める。							
<b>授業の一般目標</b>							
気温、湿度、気流、輻射熱などの物理的環境要因が運動時の生理的反応に及ぼす影響、さらに暑熱・寒冷環境下運動時の注意点について理解することができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input checked="" type="checkbox"/> 認知的領域		物理的環境因子の人体影響について理解し、各種環境下における運動時の事故を予防する知識を身につける。					
<input type="checkbox"/> 情意的領域							
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域							
<b>授業計画(全体)</b>							
学術論文や準備資料に基づいた講義および討論が中心となる。論文および資料については、教員とともに学生も準備する。また論文や資料に記載されていた物理的環境条件を人工気象室にて再現し、そこでの運動時の生理的反応データを採取し、物理的環境要因の影響について検討する。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容		
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、資料準備の指示 [授業外学習の指示等] シラバスを熟読すること			9	[テーマ] 論文講読② [内容] 熱中症に関する論文講読と解説 [授業外学習の指示等] 講読した論文の参考文献を検索しておくこと		
2	[テーマ] 温熱環境因子 [内容] 自然環境と人工環境、温熱要素 [授業外学習の指示等] 温熱環境の評価について調べておくこと			10	[テーマ] 論文講読③ [内容] 熱中症に関する論文講読と解説 [授業外学習の指示等] 講読した論文の参考文献を検索しておくこと		
3	[テーマ] 環境と体温調節 [内容] 産熱機構と放熱機構 [授業外学習の指示等] 生育環境と能動汗腺の関係について調べておくこと			11	[テーマ] 論文講読④ [内容] 熱中症に関する論文講読と解説 [授業外学習の指示等] 講読した論文の参考文献を検索しておくこと		
4	[テーマ] 適応現象 [内容] 暑さ、寒さへの適応 [授業外学習の指示等] 適応の生態学的法則について調べておくこと			12	[テーマ] 論文講読⑤ [内容] 熱中症に関する論文講読と解説 [授業外学習の指示等] 講読した論文の参考文献を検索しておくこと		
5	[テーマ] 人間への障害 [内容] 暑さ、寒さの障害 [授業外学習の指示等] 熱中症の分類について調べておくこと			13	[テーマ] 高温環境と生理的反応 [内容] 高温環境下における運動時の生理的反応データ採取 [授業外学習の指示等] 採取したデータをまとめておくこと		
6	[テーマ] 人間側の対応 [内容] 衣服、空調 [授業外学習の指示等] 衣服素材と放熱、蓄熱について調べておくこと			14	[テーマ] 常温環境と生理的反応 [内容] 常温環境下における運動時の生理的反応データ採取 [授業外学習の指示等] 採取したデータをまとめておくこと		
7	[テーマ] 人の変異による反応差 [内容] 人種、男女、年齢 [授業外学習の指示等] 加齢と生理的反応の変化について調べておくこと			15	[テーマ] 低温環境と生理的反応 [内容] 低温環境下における運動時の生理的反応データ採取 [授業外学習の指示等] 採取したデータをまとめておくこと		
8	[テーマ] 論文講読① [内容] 熱中症に関する論文講読と解説 [授業外学習の指示等] 講読した論文の参考文献を検索しておくこと			16	[テーマ] まとめ [内容] 13～15までのデータを用いた比較検討 [授業外学習の指示等] レポートの作成、提出		
<b>成績評価方法(方針)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
出席状況、資料準備、レポート内容を総合して評価する。					・履修人数によっては、13～15回の授業は、通常時間帯以外になることがある。		
<b>成績評価方法(詳細)</b>							
	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)		
<b>成績評価方法</b>							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート					50		
演習・実技					50		
授業態度					減点あり		
出席					欠格条件		
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>				<b>参考書</b>			
<b>連絡先</b>							
研究室:C棟3階 0224-55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp							

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	運動・スポーツ医科学特講		担当教員	橋本 実			
	Theories of exercise and sports medical science (L.)						
領域水準コード	E2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
健康を維持増進には、運動・スポーツは欠くことができない。生活習慣病には、運動の効果が高いことが知られており、メタボリック・シンドロームにも有効なことで特定検診も始まった。高齢者に多い整形外科領域の疾患にも運動は効果が高い。これらのことを踏まえ健康づくり、福祉、介護、教育の各分野で活用できる先行研究や基礎概念等について解説する。また、この分野における状況や課題について最新事例や調査を基に講義する。							
<b>授業の一般目標</b>							
どのような運動・スポーツが疾病予防や健康増進に重要なのかを理解することができる							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	運動・スポーツが有効な疾病や実施方法について理解する。						
■ 情意的領域	健康づくりに関わる運動・スポーツへの関心が高まる。						
■ 技能表現的領域	健康づくりに関わる運動・スポーツについて根拠を持ってディスカッションできる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
授業の前半はテーマについて講義を行い。後半は講義をもとに課題についてディスカッションする。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
授業テーマとその内容							
回							
1	[テーマ]オリエンテーション [内容]各々健康福祉支援に関する概要の説明。授業のキーワードの説明。			9	[テーマ]健康と運動・スポーツ① [内容]熱中症と運動・スポーツについて考察する。		
2	[テーマ]健康と運動・スポーツ [内容]運動・スポーツと健康の関係について考察する。			10	[テーマ]健康と運動・スポーツ② [内容]熱中症と運動・スポーツについて考察する。		
3	[テーマ]変形性疾患と運動・スポーツ① [内容]整形疾患と運動・スポーツについて考察する。			11	[テーマ]健康と運動・スポーツ③ [内容]免疫と運動・スポーツについて考察する。		
4	[テーマ]変形性疾患と運動・スポーツ② [内容]整形疾患と運動・スポーツについて考察する。			12	[テーマ]健康と運動・スポーツ④ [内容]骨粗鬆症と運動・スポーツについて考察する。		
5	[テーマ]生活習慣病と運動・スポーツ① [内容]糖尿病と運動・スポーツについて考察する。			13	[テーマ]健康と運動・スポーツ⑤ [内容]ストレスと運動・スポーツについて考察する。		
6	[テーマ]生活習慣病と運動・スポーツ② [内容]高血圧と運動・スポーツについて考察する。			14	[テーマ]健康と運動・スポーツ① [内容]健康管理からみた運動・スポーツについて考察する。		
7	[テーマ]生活習慣病と運動・スポーツ③ [内容]脂質代謝異常症と運動・スポーツについて考察する。			15	[テーマ]健康と運動・スポーツ② [内容]健康管理からみた運動・スポーツについて考察する。		
8	[テーマ]生活習慣病と運動・スポーツ④ [内容]高尿酸血症と運動・スポーツについて考察する。			16	[試験または課題] [方法]レポート課題		
<b>授業外学習の指示等</b>							
授業に関するキーワードを示すので、事前にリサーチしておく。今日的課題について、新聞、雑誌、学術誌などから自分の関心のある事柄についてリサーチする。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
課題及びレポートと総合レポート、ポートフォリオの内容等を総合的に評価する。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	授業を欠席する場合は事前に担当教員へ連絡すること。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○		40%			
授業外のレポート	○	○		40%			
ポートフォリオ	○	○		20%			
出席				欠格条件			
その他							
関連科目							
教科書	特になし。適宜プリントを配布する。			参考書	特になし。適宜プリントを配布する。		
連絡先	橋本研究室:F棟2階						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	リハビリテーション論 Rehabilitation	担当教員	笠原 岳人				
領域水準コード		単位数	2	履修方法	選択必修	授業の方法	講義
授業の概要							
リハビリテーションの知識や技術をテーマに基づいて解説し、実際の関わりについて事例等を交えながら解説する。							
授業の一般目標							
リハビリテーションに関する基礎的な知識や技術を通して、自立した生活を支援していく上で必要な知識や技術を習得する。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	リハビリテーションの基本的な知識や技術について説明できる。						
■ 情意的領域	疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わることができる。						
□ 技能表現的領域							
授業計画(全体)							
各授業、テーマに沿った資料を配布し進めていく。講義の一部では実技を交えた学習も取り入れる。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業テーマとその内容の解説を行う。	9	[テーマ] 疾患別のリハビリテーション(3) 精神疾患とリハビリテーション [内容] 代表的な精神疾患とリハビリテーションの関わりについて説明する				
2	[テーマ] リハビリテーションの歴史と発展 [内容] リハビリテーションの確立について説明する。	10	[テーマ] 疾患別のリハビリテーション(4) 内部疾患のリハビリテーション [内容] 代表的な内部疾患障害に対するリハビリテーションの関わりについて説明する。				
3	[テーマ] リハビリテーションの課程 [内容] 発症から退院までのリハビリテーションの関わりについて説明する。	11	[テーマ] リハビリテーションの実際(1) 病院 [内容] 病院におけるリハビリテーションの事例を紹介する。				
4	[テーマ] リハビリテーション専門職との連携 [内容] リハビリテーションに関わる様々な職種について説明する。	12	[テーマ] リハビリテーションの実際(2) 施設 [内容] 身体機能の維持を目的としたリハビリテーションの事例を紹介する。				
5	[テーマ] 運動障害(1) 肢体不自由 [内容] 身体機能の障害について説明する。	13	[テーマ] リハビリテーションの実際(3) 在宅 [内容] 在宅におけるリハビリテーションの介入事例を紹介する。				
6	[テーマ] 運動障害(2) 廃用症候群 [内容] 生活機能が不利用・不活発な状態になった場合、身体の影響について説明する。	14	[テーマ] リハビリテーションの実際(4) 介護予防 [内容] 介護予防を主目的としたリハビリテーションの介入事例を紹介する。				
7	[テーマ] 疾患別のリハビリテーション(1) 骨・関節疾患 [内容] 代表的な骨・関節疾患と、リハビリテーションの関わりについて説明する。	15	[テーマ] 試験または課題 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために課題レポートの作成を行う。				
8	[テーマ] 疾患別のリハビリテーション(2) 脳血管障害のリハビリテーション [内容] 代表的な脳血管障害とリハビリテーションの関わりについて説明する。	16	[テーマ] まとめ [内容] レポート発表と学習内容のまとめ。				
授業外学習の指示等							
各授業、テーマに沿った資料を配布し進めていく。各講義の後半に小テストを行い、理解度・到達度を確認する。(配布された資料等をまとめるファイルを各自で用意すること)							
成績評価方法(方針)							
試験は期末試験を1回実施する(総合評価60%)。また、授業外レポート(20%)と、出席状況(20%)を課す。これらを総合的に判断して成績評価を行う。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない。</li> <li>・授業態度の悪い学生は退出させ、それ以降の講義への出席は認めない。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業中は携帯電話を鞆のなかに入れておくこと。</li> <li>・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。</li> <li>・毎週の授業参加だけでは、単位を取得できないことを理解しておくこと。</li> <li>・授業計画は、授業の進み具合によって、多少変更が生じる場合がある。</li> </ul>		
成績評価方法							
定期試験(期末試験)	◎			60%			
小テスト・授業内レポート							
授業外のレポート		◎		20%			
ポートフォリオ	◎						
出席			◎	20%			
その他							
関連科目							
教科書	配布資料にて解説			参考書	講義の中で随時紹介する		
連絡先	笠原研究室:F棟2階						



平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	運動・スポーツ栄養学特講		担当教員	藤井久雄／早川公康／田中茂穂			
	Nutrition of Exercise & Sports (L.)						
領域水準コード	F2	単位数	2	履修方法	選択必修	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
最近の運動栄養学、運動生理学等の研究成果に基づき、健康増進、また競技力向上の現場における栄養指導に役立つように栄養(食事)と運動の関わりについての知識について論述する。							
<b>授業の一般目標</b>							
健康増進、また競技力向上の現場において、基礎体力を高めるには、運動・栄養・休養のバランスを良く考えた生活を送ることが大切である。そのために、食事からの栄養効果を最大限引き出すためにはどのような点に配慮すべきか、特に栄養(食事)と運動の関わりについての知識を習得することができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	最新の運動・スポーツと栄養についての知識を習得することができる。						
■ 情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした健康増進や競技力向上のプログラムの運営に役立つことを意識して取り組むことができる。						
□ 技能表現的領域							
<b>授業計画(全体)</b>							
前半は、運動・スポーツと栄養についての基礎的な知識を学ぶ。一方、後半は実践力を身に付けられるように健康増進や競技力向上のための栄養管理の実践について学ぶ。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明	9	[テーマ] 生活習慣病予防のための食事指導 [内容] 日本人の食事摂取基準(2005年版)①				
2	[テーマ] 健康増進や競技力向上のために大切となる栄養素の役割 [内容] スポーツ・運動時の栄養学とは何かを理解する	10	[テーマ] 生活習慣病予防のための食事指導 [内容] 日本人の食事摂取基準(2005年版)②				
3	[テーマ] 運動・スポーツと糖質代謝 [内容] スポーツ・運動時の糖代謝について理解する	11	[テーマ] 生活習慣病予防のための食事指導 [内容] 日本人の食事摂取基準(2005年版)③				
4	[テーマ] 運動・スポーツと脂質代謝 [内容] スポーツ・運動時の脂質代謝について理解する	12	[テーマ] 生活習慣病予防のための運動・身体活動について [内容] 健康づくりのための運動基準2006～身体活動・運動・体力①				
5	[テーマ] 運動・スポーツとたんぱく質代謝 [内容] スポーツ・運動時のたんぱく質代謝について理解する	13	[テーマ] 生活習慣病予防のための運動・身体活動について [内容] 健康づくりのための運動基準2006～身体活動・運動・体力②				
6	[テーマ] 運動・スポーツとビタミン・無機質の代謝 [内容] スポーツ・運動時のビタミン・無機質の代謝について理解する	14	[テーマ] 生活習慣病予防のための運動・身体活動について [内容] 健康づくりのための運動指針2006(エクササイズガイド2006)①				
7	[テーマ] 健康増進や競技力向上のための栄養管理の基礎知識 [内容] 健康増進や競技力向上のための栄養管理について基礎的なポイントを理解する	15	[テーマ] 生活習慣病予防のための運動・身体活動について [内容] 健康づくりのための運動指針2006(エクササイズガイド2006)②				
8	[テーマ] 「健康増進や競技力向上のための栄養管理の実践」についての講義を行うにあたって [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方等	16	[試験または課題] 運動・スポーツと栄養に関する課題を課す [方法]				
<b>授業外学習の指示等</b>							
日ごろから、最新のスポーツ、健康、食事・栄養に関する話題を収集するように努めること。それらに関する意見を述べる機会を授業内に設ける予定である。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
出席、受講態度およびレポートによる総合評価							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。		
成績評価方法							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎	◎		25			
授業外のレポート							
ポートフォリオ							
出席		◎		50			
その他(授業態度)		◎		25			
関連科目	栄養生化学特講						
教科書	特に指定しない。			参考書	特に指定しない。		
連絡先	研究室:藤井久雄(25記念館1階)／早川公康(F棟2階)／田中茂穂(連絡を取りたいときは藤井まで)						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	栄養生化学特講		担当教員	藤井久雄			
	Nutritional Biochemistry						
領域水準コード	F1	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
健康維持の前提としての栄養成分を食物として摂取し、それが生体成分としてどうかされる過程、および生体成分とその主要な物質群を理解する。次いで三大栄養素であるタンパク質、炭水化物および脂質について、構造を理解させ、その上でエネルギー変換と代謝を学ぶ。生体内で起こる水を介した中性、温和という化学反応によって極めて厳しい条件下で起こる化学反応とそれに付随する副反応についても学ぶ。							
<b>授業の一般目標</b>							
本教科は、選択科目であり、化学をまったく学んでこなかった学生が大半である。従って、講義の初めは化学式を極力使用しないことが求められる。しかし、栄養および生化学は化学の知識を必須のものとして理解しなければならない。化学の言葉で講義する内容の理解を得ることは最も困難な点であることを考慮しながら、栄養素の成分とその生化学反応を理解させることを、目標とする。							
<input type="checkbox"/> 認知的領域 <input type="checkbox"/> 情意的領域 <input type="checkbox"/> 技能表現的領域							
<b>授業計画(全体)</b>							
生化学とは生体反応と考えることができる。そのため、化学を教科として学んでこなかった大学院生に対して、化学の基本を説明しながら、栄養の意味と生体内反応を学んでいけるように計画している。運動とエネルギー、疲労物質や活性酸素によるダメージなども加えて、興味を持たせることを計画している。最新の関連した総説文などを利用してその紹介も行ってゆく計画をしている。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] 生命の誕生 [内容] 地球上に生命が誕生したことについて、いろいろな節を紹介しながら対話も交えて講義する	9	[テーマ] 炭水化物 2 [内容] グルコースのエネルギー源としての意味を考えることを学ぶ。				
2	[テーマ] 生命体と化学反応 [内容] 生命を維持するために必要な化学反応は、水中、中性領域、温和な温度で起こっている。これは、化学反応にとって極めて厳しい条件であることを理解する。	10	[テーマ] 脂質 [内容] 脂質について、その意味と構造、とくに中性脂質と極性脂質の違いを理解する。				
3	[テーマ] 嫌気性と好気性 [内容] 生体のエネルギー獲得における、嫌気的な方法と好気的な方法について進化の過程を含めながら学ぶ。ATPの意味も含める。	11	[テーマ] ビタミン 1 [内容] ビタミンの種類と機能および栄養生化学的な意味を学ぶ。				
4	[テーマ] 酸素の害 [内容] 後期的にエネルギー獲得に成功した生命は、同時に酸素の害とむきあうこととなった。ここでは参加ストレスという活性酸素について学ぶ。	12	[テーマ] ビタミン 2 [内容] ビタミンの生体維持に寄与する生化学を学ぶ。糖代謝、運動との関わりを加えた内容とする。				
5	[テーマ] 栄養成分 [内容] 化学の言葉で栄養成分について、その基礎知識を学ぶ	13	[テーマ] ミネラル [内容] 必須元素および有害元素について講義し、引き続きミネラルの持つ電子伝達系の機能および金属酵素としての作用、ヘモグロビンの生化学を学ぶ。				
6	[テーマ] タンパク質 1 [内容] タンパク質を構成するアミノ酸について、学ぶ。分岐アミノ酸も含む	14	[テーマ] 文献講読 1 [内容] 最新の栄養生化学に関する運動と関係する内容の文献を選び、講読してその内容を基に講義する				
7	[テーマ] タンパク質 2 [内容] タンパク質の基本構造、フォールディングと立体構造および機能発現について学ぶ。	15	[テーマ] 文献講読 2 [内容] 最新の栄養生化学に関する運動と関係する内容の文献を選び、講読してその内容を基に講義する				
8	[テーマ] 炭水化物 1 [内容] 炭水化物の期言構造を学び、生体にとって最も普遍的な単糖類であるグルコースの構造を理解する。その上で、多頭について学ぶ。	16	[試験または課題] まとめ [方法] 大学院生1人1人栄養生化学に関わって興味を持った内容を提案させ、その問題を取り上げて議論する。				
<b>授業外学習の指示等</b>							
毎日の食事内容と栄養成分および生化学的意味を関連づけて考える習慣をつけるよう努力すること。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
出席と受講態度							
<b>成績評価方法(詳細)</b>						<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	化学を履修していない学生が大半であるが、化学の言葉で講義することが避けられないので、分からないことを積極的に質問することが望ましい。出来るだけわかりやすく講義することを心がけるが、未知の領域を好奇心を持って受講することを希望します。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	◎			20			
授業外のレポート	◎			20			
ポートフォリオ							
出席	◎			60			
その他							
関連科目							
教科書	特に指定しない。基本を中心にプリントなどを利用して行			参考書			
連絡先	研究室: 藤井久雄(25記念館1階)						

## 平成28年度 仙台大学大学院授業概要

<b>授業科目名</b>	食行動科学特講 Food and behaviour	<b>担当教員</b>	長橋 雅人				
<b>領域水準コード</b>	F2	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>							
<p>本授業で扱う「食行動」については広義の意で捉えて授業を進める。食や栄養に関する意識、興味、関心、知識、認識、態度、行動等と、これらに影響を与える事柄等について理解を深める。食領域における資料や研究論文等を参考に、近年の知見を理解する。受講生自ら資料や研究論文等を探し、その内容について紹介する。</p>							
<b>授業の一般目標</b>							
食行動に纏わる近年の実態、問題、知見等について理解できる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<input checked="" type="checkbox"/> <b>認知的領域</b>	食行動に纏わる近年の実態、問題、知見等について理解できる。						
<input type="checkbox"/> <b>情意的領域</b>							
<input type="checkbox"/> <b>技能表現的領域</b>							
<b>授業計画(全体)</b>							
前半は、教員免許状更新講習への出席を必須とする(日程の予定は年度初めにお伝え可能です)。後半は、受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
<b>回</b>	<b>授業テーマとその内容</b>						
1	[テーマ] オリエンテーション、食行動(基礎) [内容] 教員紹介、授業日程、授業の目的、シラバス、成績評価方法	9	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅲ [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。				
2	[テーマ] 食情報Ⅰ [内容] 食情報と行動(フードファディズム等)について理解する	10	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅳ [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。				
3	[テーマ] 食情報Ⅱ [内容] 食情報と消費者行動や健康被害等との関連や現状を理解する	11	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅴ [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。				
4	[テーマ] 食情報Ⅲ [内容] 食情報との付き合い方を考える。また有用なHPを知る。	12	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅵ [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。				
5	[テーマ] 食情報Ⅳ [内容] 最新の食情報に関連する資料や研究論文等を精読し、食情報の問題点について、さらに理解を深める。	13	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅶ [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。				
6	[テーマ] 食情報Ⅴ [内容] 前半を総括するとともに、これまでの内容に関する確認テストを行う	14	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅷ [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。				
7	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅰ [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。	15	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅸ、総括 [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。				
8	[テーマ] 資料や研究論文等の精読Ⅱ [内容] 受講生が食領域における資料や研究論文等の内容を紹介します。そして互いに近年の知見を理解し合う。また質疑応答やディスカッション等によって理解を深める。	16	[試験または課題] 各課題の提出 [方法] 適宜、プレゼン資料、学術論文のコピー、ポートフォリオ、学習成果報告書等の提出を求める				
<b>授業外学習の指示等</b>							
授業を復習し、また提示された課題を必ず行うこと。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
小テスト30%、授業外のレポート(精読実施)40%、その他(受講意欲・態度)30%とする。2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
<b>到達目標</b>	<b>認知的領域</b>	<b>情意的領域</b>	<b>技能表現的領域</b>	<b>評価割合 (%)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半は、教員免許状更新講習への出席を必須とする(日程の予定は年度初めにお伝え可能です)。</li> <li>・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。</li> <li>・授業態度が悪い受講生に対しては成績評価から減点する。</li> <li>・全員の名前を読み終えた時点で不在の学生は遅刻とする。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・遅刻2回を欠席1回と換算する。</li> <li>・欠席届は事前に研究室前の欠席届用の箱内へ提出すること。</li> <li>・授業内容や日程等は何らかの事情により変更することがある。</li> </ul>		
<b>成績評価方法</b>							
定期試験(期末試験)				30			
小テスト・授業内レポート	○			30			
授業外のレポート	○			40			
ポートフォリオ				欠格条件			
出席				欠格条件			
その他	○			30			
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>							
適宜資料等を配布する。				<b>参考書</b>	適宜資料等を配布する。		
<b>連絡先</b>							
D棟2階研究室							

## 平成28年度 仙台大学大学院授業概要

<b>授業科目名</b>	栄養教育論特講 Advanced Nutrition Education	<b>担当教員</b>	開講せず			
<b>領域水準コード</b>	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択	<b>授業の方法</b>	講義・演習
<b>授業の概要</b>						
<p>人々の疾病の予防・治療や、健康の維持・増進にとって欠かすことのできない栄養・食教育を行う上での必要な基礎知識と、健康、栄養状態などに関する情報や、それらを総合的に評価・判定する方法について学ぶ。また、児童生徒への個別的な相談指導、教科・特別活動等における教育指導および学校給食時の指導など、学校教育活動全体の中で栄養教育活動を行うための知識や方法についても解説する。</p>						
<b>授業の一般目標</b>						
<p>近年の日本における食を取り巻く環境やその問題点を理解し、特に児童・生徒に対し、学校教育活動の中で健康の維持・増進を目的とした食・栄養教育活動を行うための知識や方法を習得することができる。</p>						
<b>授業の到達目標</b>						
<input checked="" type="checkbox"/> <b>認知的領域</b>	児童・生徒に対する栄養教育活動を行うための知識や方法を習得することができる。					
<input type="checkbox"/> <b>情意的領域</b>						
<input checked="" type="checkbox"/> <b>技能表現的領域</b>	対象にあった栄養教育活動に取り組むことができるようになる。					
<b>授業計画(全体)</b>						
<p>食や栄養の基礎知識をもとに、教育現場を想定し、対象にあった栄養教育を行うために必要な知識や技術に関する講義および演習を行う。</p>						
<b>授業計画(詳細)</b>						
回	授業テーマとその内容					
1	[テーマ] 児童生徒の食生活を取り巻く環境 [内容] 児童生徒の食生活の実態を把握し、その問題点について考える	9	[テーマ] 栄養教育計画 [内容] 栄養マネジメントサイクルに沿った栄養教育計画の作成方法について学ぶ			
2	[テーマ] 学校給食の教育的意義と役割 [内容] 学校給食法をもとに、学校給食の歴史とその教育的意義について理解する	10	[テーマ] 食に関する指導の実際 [内容] 教育現場における食に関する指導の実例から、その指導方法について討議する			
3	[テーマ] 栄養教諭制度と役割 [内容] 栄養教諭制度創設の経緯を把握し、栄養教諭の役割を理解する	11	[テーマ] スポーツをする子どもの栄養教育 [内容] スポーツを行なう児童・生徒に必要な栄養教育の内容と方法について考える			
4	[テーマ] 子どもの発育発達と食生活 [内容] 児童・生徒の体位の変化や栄養摂取状況について、学校保健統計調査等を基に現状を把握する	12	[テーマ] 食環境づくりと栄養教育 [内容] 食環境の概念について理解し、食物へのアクセスと情報へのアクセスのあり方について考える			
5	[テーマ] 食行動変容と栄養教育 [内容] 行動変容段階モデルを用いて、食行動の変容を促す栄養教育のあり方について理解する	13	[テーマ] ライフスタイルとしての食習慣 [内容] ライフスタイル特に食習慣と健康の関連について理解する			
6	[テーマ] 食事調査の実際 [内容] 食行動を捉えるための食習慣調査や食事記録について学ぶ	14	[テーマ] 栄養カウンセリング [内容] 個別栄養教育の効果的な方法としての、栄養カウンセリングの理論について学ぶ			
7	[テーマ] 栄養教育に必要な栄養アセスメント [内容] 栄養教育に必要な身体面・行動面・心理社会面からアセスメントを行い、対象者を理解する必要性について学ぶ	15	[テーマ] 栄養教育の国際的動向 [内容] わが国と諸外国の食生活を比較しながら、栄養教育の国際的動向について把握する			
8	[テーマ] 効果的な栄養教育の教材 [内容] 教育目標を効果的に達成するための教材について、その種類と特徴を理解する	16	[試験または課題] 栄養教育プログラムの作成 [方法] これまで学んだことを基に、対象者に合った継続的な栄養教育プログラムを作成する			
<b>授業外学習の指示等</b>						
<p>授業を行うにあたり、実際の食事内容や生活時間の記録をとったり、指導案や教材を作成したりすることがある。</p>						
<b>成績評価方法(方針)</b>						
<p>出席を含む、受講態度および課題・レポート内容による総合評価</p>						
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	・2/3以上の出席がない場合、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・毎回発言を求めため、授業への積極的な取り組みが必要である ・レポートは提出指定日を厳守のこと。課題未提出者は単位放棄とみなす ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。	
<b>成績評価方法</b>						
定期試験(期末試験)						
小テスト・授業内レポート	◎		◎	40%		
授業外のレポート	◎		◎	40%		
ポートフォリオ						
出席			◎			
その他			◎	20%		
<b>関連科目</b>						
<b>教科書</b>	授業中に必要な資料を配布する			<b>参考書</b>	「食に関する指導の手引き」「食生活学習教材」「小学校学習指導要領」(文部科学省)	
<b>連絡先</b>	開講せず					

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	ヘルスプロモーション論特講 Health Promotion	<b>担当教員</b>	小松正子/小澤輝高/林典夫		
<b>領域水準コード</b>	G1	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>					
ヘルスプロモーションの理論と実際を学び、理解を深める。健康増進、健康支援に必要な医科学の知識も学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
講義受講・文献検索・論文抄読やレポートを通じて、ヘルスプロモーションに関して日頃疑問に思っていたことなどを解決したり、理解を深めたりする。また、新たな課題を知る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> 認知的領域	ヘルスプロモーションや健康の維持・増進の基礎となる理論や医科学知識を説明できる。				
<input checked="" type="checkbox"/> 情意的領域					
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域					
<b>授業計画(全体)</b>					
配布資料(論文を含む)を中心に講義を進める。					
siryou					
回	授業テーマとその内容				
1 小松	[テーマ]ヘルスプロモーションとは [内容]ヘルスプロモーションの定義	9 小松	[テーマ]運動能力に関わる体の仕組み2 低酸素とエリスロポエチン [内容]高地トレーニング、低酸素による運動能力の亢進に関わるエリスロポエチンについて、その血液に対する効果、低酸素に対する応答、医薬品としての利用などについて解説する。		
2 小松	[テーマ]ヘルスプロモーションの実際① [内容]喫煙・骨密度を中心にヘルスプロモーションに関わることがらを学ぶ	10 林	[テーマ]運動能力に関わる体の仕組み3 ホルモンとドーピングの関係 [内容]運動能力を高めるホルモンなどについて、その働きとドーピングとの関係を示し、運動指導者が知っておくべきドーピングの知識を整理する。		
3 小松	[テーマ]ヘルスプロモーションの実際② [内容]肥満・減量を中心にヘルスプロモーションに関わることがらを学ぶ	11 小澤	[テーマ]解剖・生理学① [内容]からだのしくみについて基礎となることごとを、解剖・生理学的視点から詳しく学ぶ。呼吸器・循環器一構造とメカニズム		
4 小松	[テーマ]ヘルスプロモーションの評価① [内容]健康教育・健康教室等の評価方法、研究デザイン等について学ぶ	12 小澤	[テーマ]解剖・生理学② [内容]消化器一構造と消化吸収		
5 小松	[テーマ]ヘルスプロモーションの評価② [内容]さまざまな健康情報をどのように評価し、健康の維持増進に活用すればよいかについて学ぶ	13 小澤	[テーマ]解剖・生理学③ [内容]腎臓・内分泌一構造と調節機能		
6 小松	[テーマ]疾病の予防1 循環器とメタボリックシンドローム [内容]心筋梗塞や脳血管障害などの原因となる、糖尿病(高血糖)、高血圧、高脂血症の現状と、体重管理や運動による予防や治療について、厚生労働省の統計データ等を交えて検討する。	14 林	[テーマ]ヘルスプロモーションの理解・発展① [内容]文献検索・文献抄読を通し、ヘルスプロモーションの研究のすすめ方を学ぶ		
7 小松	[テーマ]疾病の予防2 悪性腫瘍(癌) [内容]環境に含まれる物質や食品の一部には発がん性が認められる。一方で、「癌に効く」とされる食べ物や民間療法の類も多い。癌になるメカニズムなど、科学的に立証されたことと疑わしいことを見分けるための情報の読み方について	15 林	[テーマ]ヘルスプロモーションの理解・発展② [内容]文献検索・文献抄読を通し、ヘルスプロモーションの研究のすすめ方を学ぶ		
8 小松	[テーマ]運動能力に関わる体の仕組み1 酸素の消費と血液 [内容]有酸素運動、無酸素運動に関わるエネルギー産生と供給の仕組み、ブドウ糖と酸素の運搬に関わる血液の生理を解説する	16	[試験または課題] [方法]抄読、レポートなどの発表		
<b>授業外学習の指示等</b>					
各自の関心あるヘルスプロモーションに関することごとについて資料を呈示したり、新たに資料を収集したりして、内容をまとめ発表すること。					
<b>成績評価方法(方針)</b>					
出席状況、各回の授業での理解度・問題意識、抄読・レポートなども含めて評価する					
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業で積極的に、質問し討論に参加すること。それにより、理解を深めること。
成績評価方法					
定期試験(期末試験)					
小テスト・授業内レポート	◎	○			
授業外のレポート	○			40	
ポートフォリオ	○			20	
出席		○		40	
その他					
<b>関連科目</b>	健康支援論				
<b>教科書</b>	特に指定しない		<b>参考書</b>	健康教育・ヘルスプロモーションの評価(篠原出版)、他	
<b>連絡先</b>	小松研究室:F棟2階				

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	健康支援演習		担当教員	笠原岳人／大淵修一		
領域水準コード	単位数	2	履修方法	選択必修	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>						
現在のわが国における生活習慣病予防や介護予防の現状を踏まえ、具体的な事例を取り上げプログラム論、マネジメント論、組織論など総合的に解説し、課題や支援方法等を演習をとおして論議する。						
<b>授業の一般目標</b>						
現在のわが国における、健康支援や介護予防の基本的な考え方、方向性及び具体的な取り組み方法等を理解することができる。						
<b>授業の到達目標</b>						
■ 認知的領域	健康支援や介護予防の取り組みに関する基本的な知識や技術について説明できる。					
■ 情意的領域	各種のプログラムの取り組みを理解し、地方自治体においてどのように反映されているかを理解できる。					
□ 技能表現的領域						
<b>授業計画(全体)</b>						
各授業、テーマに沿った資料を参考にしながら進めていく。講義の一部ではグループ討議を交えた学習も取り入れる。						
<b>授業計画(詳細)</b>						
回	授業テーマとその内容					
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義内容に関する概要の説明	9	[テーマ] 各種プログラム(尿失禁プログラム) [内容] 尿失禁プログラムの取り組みについて解説する。			
2	[テーマ] 我が国における健康支援・介護予防の取り組みの背景 [内容] 我が国において、健康支援・介護予防の取り組みがどのような背景でスタートし、今日に至るかを解説する。	10	[テーマ] 各種プログラム(口腔領域のケアプログラム) [内容] 口腔領域のケアプログラムの取り組みについて解説する。			
3	[テーマ] 健康支援・介護予防とまちづくり(1) [内容] 健康支援・介護予防とまちづくりに向けた町づくりについて、各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。	11	[テーマ] 各種プログラム(低栄養予防プログラム) [内容] 低栄養予防プログラムの取り組みについて解説する。			
4	[テーマ] 健康支援・介護予防とまちづくり(2) [内容] 健康支援・介護予防とまちづくりに向けた町づくりについて、各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。	12	[テーマ] 健康支援・介護予防の自治体の取組(1) [内容] 健康支援・介護予防に関する各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。			
5	[テーマ] 健康行動に向けた取り組み(1) [内容] 健康行動に向けた取り組みについて、行動変容の視点から解説する。	13	[テーマ] 健康支援・介護予防の自治体の取組(2) [内容] 健康支援・介護予防に関する各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。			
6	[テーマ] 健康行動に向けた取り組み(2) [内容] 健康行動に向けた取り組みについて、行動変容の視点から解説する。	14	[テーマ] 健康支援・介護予防の自治体の取組(3) [内容] 健康支援・介護予防に関する各自治体の取り組みを例に挙げ解説する。			
7	[テーマ] 健康行動に向けた取り組み(3) [内容] 健康行動に向けた取り組みについて、行動変容の視点から解説する。	15	[テーマ] まとめ [内容] 講義のまとめ			
8	[テーマ] 各種プログラム(自己管理型筋力増強プログラム) [内容] 自己管理型筋力増強プログラムの取り組みについて解説する。	16	[試験または課題] [方法] レポート改題の提出			
<b>授業外学習の指示等</b>						
各授業、テーマに沿った資料を配布し進めていく。各講義の後半に小テストを行い、理解度・到達度を確認する。(配布された資料等をまとめるファイルを各自で用意すること)						
<b>成績評価方法(方針)</b>						
試験は定期試験を1回実施する(総合評価60%)。また、授業外レポート(20%)と、出席状況(20%)を課す。これらを総合的に判断して成績評価を行う。						
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない。</li> <li>・授業態度の悪い学生は退出させ、それ以降の講義への出席は認めない。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業中は携帯電話を鞆のなかにしまっておくこと。</li> <li>・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。</li> <li>・毎週の授業参加だけでは、単位を取得できないことを理解しておくこと。</li> <li>・授業計画は、授業の進み具合によって、多少変更が生じる場合がある。</li> </ul>	
定期試験(期末試験)	◎			60%		
小テスト・授業内レポート						
授業外のレポート		◎		20%		
ポートフォリオ	◎					
出席			◎	20%		
その他						
関連科目						
教科書	配布資料にて解説		参考書	講義の中で随時紹介する		
連絡先	笠原研究室:F棟2階					

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	健康福祉支援方法論特講		担当教員	小池和幸／関矢貴秋／大山さく子			
	Methods of Health and Social Welfare (L.)						
領域水準コード	G-2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
健康づくり、障害者スポーツ、福祉、介護の各分野の教員が(1)健康福祉分野で活用できる先行研究や基礎概念等について解説する。(2)保健、福祉等の分野における状況や課題について最新事例や調査を基に講義する。							
<b>授業の一般目標</b>							
現在の健康支援や社会福祉、介護福祉の現状と支援の実態及び支援の基礎になる考え方を理解することができる							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	健康支援や社会福祉、介護福祉等における具体的な支援方法について理解する。						
■ 情意的領域	保健、福祉、介護、医療等の分野における健康支援についての関心が高まる。						
■ 技能表現的領域	保健、福祉、介護、医療等の分野における健康支援について根拠を持ってディスカッションできる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
授業の前半はテーマについて講義を行い。後半は講義をもとに課題についてディスカッションする。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
<b>授業テーマとその内容</b>							
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容		
1	[テーマ]オリエンテーション [内容]各々健康福祉支援に関する概要の説明。授業のキーワードの説明。			9	[テーマ]障害者スポーツ支援3 [内容]障害者スポーツの開発と実践方法の考察。障害種別ごとのスポーツの現状と新たな取り組みについて。		
2	[テーマ]福祉レクリエーション支援1 [内容]福祉レクリエーション援助の現状と課題。			10	[テーマ]障害者スポーツ支援4 [内容]障害者スポーツ活動の運営と実践。自らの体験とスポーツ活動に必要な知識と技術について。		
3	[テーマ]福祉レクリエーション支援2 [内容]福祉レクリエーション援助の考え方。福祉レクリエーション援助の特性について考察する。			11	[テーマ]障害者スポーツ支援5 [内容]まとめ		
4	[テーマ]福祉レクリエーション支援3 [内容]セラピューティック・レクリエーションという考え方。セラピューティック・レクリエーションサービスモデルについて事例をもとに考察する。			12	[テーマ]介護福祉援助1 [内容]介護福祉の歴史、及び、その特徴、介護を取り巻く制度の変遷について説明する		
5	[テーマ]福祉レクリエーション支援4 [内容]福祉レクリエーション援助の効果。楽しみや笑いの効果と評価について考察する。			13	[テーマ]介護福祉援助2 [内容]介護福祉サービスのしくみと現状と課題について考察する		
6	[テーマ]福祉レクリエーション支援5 [内容]まとめ			14	[テーマ]介護福祉援助3 [内容]介護を必要とする人の自立と健康、及び、介護者の健康と安全について考察する		
7	[テーマ]障害者スポーツ支援1 [内容]障害者スポーツの現状と課題。主に国内外の障害者スポーツを時系列に文献を通して考察する。			15	[テーマ]介護福祉援助4 [内容]まとめ		
8	[テーマ]障害者スポーツ支援2 [内容]障害者スポーツ。障害者とスポーツの関わりの在り方を障害種別と身体運動を基軸として考察する。			16	[試験または課題] [方法]レポート課題		
<b>授業外学習の指示等</b>							
各担当教員の授業に関するキーワードを示すので、事前にリサーチしておく。医療、福祉、介護とスポーツ、レクリエーション、健康支援などの今日的課題について、新聞、雑誌、学術誌などから自分の関心のある事柄についてリサーチする。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
各担当教員毎の課題及びレポートと総合レポート、ポートフォリオの内容等を総合的に評価する。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業を欠席する場合は事前に各担当教員へ連絡すること。		
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○		40%			
授業外のレポート	○	○		40%			
ポートフォリオ	○	○		20%			
出席				欠格条件			
その他							
関連科目							
教科書	なし。適宜プリントを配布する。			参考書			
連絡先	小池研究室:F棟2階／関矢研究室:F棟2階／大山研究室:F棟2階						

## 平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

<b>授業科目名</b>	健康支援・介護予防演習		<b>担当教員</b>	小池和幸／関矢貴秋／笠原岳人			
	Seminar on Health promotion and Long-term Care(S.)						
<b>領域水準コード</b>	G-3	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	選択	<b>授業の方法</b>	演習
<b>授業の概要</b>							
(1) 健康支援関係の国内外における最新の研究論文等を提示しレポートにまとめさせプレゼンテーションさせる。							
<b>授業の一般目標</b>							
研究論文などを分析しまとめ、プレゼンテーションすることができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
<b>■ 認知的領域</b>	地域における健康支援や介護予防、医療やリハビリテーションでの健康支援や介護予防の実際及び課題について理解する。						
<b>■ 情意的領域</b>	国民の健康づくりや介護予防の現場に関心が高まる。健康づくりの職業としての関心が高まる。						
<b>■ 技能表現的領域</b>	課題に対して根拠を示してディスカッションができる。小論文を作成し、資料やスライドを用いてプレゼンテーションができる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
授業の前半は担当講師の基礎講義、問題提起としての講義及び学生の課題に対するプレゼンテーションを状況に合わせて適宜、織り交ぜながら授業を展開する。後半部分で各テーマについてディスカッションを実施、考察する。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
<b>授業テーマとその内容</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 地域支援と健康支援・介護予防1(小池):地域の健康づくり・介護予防の変遷</li> <li>3. 地域支援と健康支援・介護予防2(小池):地域の健康づくり・介護予防の実際と課題</li> <li>4. 地域支援と健康支援・介護予防3(小池):地域密着型の健康づくり支援システムの構築1(地域の健康づくりと大学教育の連携事例)</li> <li>5. 地域支援と健康支援・介護予防4(小池):地域密着型の健康づくり支援システムの構築2(健康支援を支える理論)</li> <li>6. 医療と健康支援・介護予防1(関矢):医療現場における介護予防の考え方と未来。</li> <li>7. 医療と健康支援・介護予防2(関矢):地域医療における介護予防への取り組みと課題の考察。</li> <li>8. 医療と健康支援・介護予防3(関矢):高齢者の筋力トレーニングと実際。医療・福祉現場における介護予防への取り組みと課題について考察する。</li> <li>9. 医療と健康支援・介護予防4(関矢):障害科学の実践。脳卒中片麻痺における訓練と身体機能変化の考察。</li> <li>10. 医療と健康支援・介護予防5(関矢):足漕ぎ車いす訓練と生活自立。利用者の介護予防と介護者のQOLへの効果について。</li> <li>11. リハビリテーションと健康支援・介護予防1(笠原):加齢にともなう心身の変化について</li> <li>12. リハビリテーションと健康支援・介護予防2(笠原):介護予防の評価方法について</li> <li>13. リハビリテーションと健康支援・介護予防3(笠原):健康行動につながる行動科学について</li> <li>14. リハビリテーションと健康支援・介護予防4(笠原):健康支援・転倒予防の実践的な介入例(1)</li> <li>15. リハビリテーションと健康支援・介護予防5(笠原):健康支援・転倒予防の実践的な介入例(2)</li> <li>16. 総合レポート課題</li> </ol>							
<b>授業外学習の指示等</b>							
各授業テーマの課題のまとめとプレゼンテーションの準備(資料作成も含む)。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
各担当教員毎の課題及びレポートと総合レポート、ポートフォリオ、プレゼンテーションの内容等を総合的に評価する。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
	<b>到達目標</b>	<b>認知的領域</b>	<b>情意的領域</b>	<b>技能表現的領域</b>	<b>評価割合 (%)</b>	授業を欠席する場合は事前に各担当教員へ連絡すること。	
<b>成績評価方法</b>							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
授業外のレポート	○	○	○	50%			
ポートフォリオ	○	○		20%			
出席				欠格条件			
その他			○(プレゼンテーション)	30%			
<b>関連科目</b>							
<b>教科書</b>	なし。適宜プリントを配布する。			<b>参考書</b>			
<b>連絡先</b>	小池研究室:F棟2階／関矢研究室:F棟2階／笠原研究室:F棟2階						



平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	健康医療政策論特講		担当教員	小室史恵			
領域水準コード	G-2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	講義
<b>授業の概要</b>							
わが国の過去から現在に至るまでの医療、福祉に関わる制度及び行財政について具体的な事例をあげて解説する。行財政から健康支援事業の実施までの過程や構造、展開方法を解説し、課題や理想を追求する。							
<b>授業の一般目標</b>							
健康支援に関する国の制度や地方行政等に関連付けて理解することができ、今後の政策等を客観的に論議することができる。							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	健康医療の取り組みに関する基本的な知識や技術について説明できる。						
■ 情意的領域	各種のプログラムの取り組みを理解し、地方自治体においてどのように反映されているかを理解できる。						
□ 技能表現的領域							
<b>授業計画(全体)</b>							
各授業、テーマに沿った資料を参考にしながら進めていく。講義の一部ではグループ討議を交えた学習も取り入れる。							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義内容に関する概要の説明	9	[テーマ] 介護保険と健康づくり政策(2) [内容] 我が国における、介護保険と健康づくり政策に関する内容を解説する。				
2	[テーマ] これまでのわが国における医療・保健・福祉行財政(1) [内容] 我が国における、医療・保健・福祉行財政に関する内容を解説する。	10	[テーマ] 地方自治と健康づくり政策(1) [内容] 地方自治体における健康づくりの政策を例に挙げ解説する。				
3	[テーマ] これまでのわが国における医療・保健・福祉行財政(2) [内容] 我が国における、医療・保健・福祉行財政に関する内容を解説する。	11	[テーマ] 地方自治と健康づくり政策(2) [内容] 地方自治体における健康づくりの政策を例に挙げ解説する。				
4	[テーマ] 健康政策論(国民健康づくり政策)1 [内容] 国民健康づくり政策について、健康政策の視点から解説する。	12	[テーマ] 地方自治と健康づくり政策(3) [内容] 地方自治体における健康づくりの政策を例に挙げ解説する。				
5	[テーマ] 健康政策論(国民健康づくり政策)2 [内容] 国民健康づくり政策について、健康政策の視点から解説する。	13	[テーマ] 民間サービスと健康づくり政策(1) [内容] 民間サービスにおける健康づくりの政策を例に挙げ解説する。				
6	[テーマ] 医療保険と健康づくり政策(1) [内容] 我が国における、医療保険と健康づくり政策に関する内容を解説する。	14	[テーマ] 民間サービスと健康づくり政策(2) [内容] 民間サービスにおける健康づくりの政策を例に挙げ解説する。				
7	[テーマ] 医療保険と健康づくり政策(2) [内容] 我が国における、医療保険と健康づくり政策に関する内容を解説する。	15	[テーマ] 民間サービスと健康づくり政策(3) [内容] 民間サービスにおける健康づくりの政策を例に挙げ解説する。				
8	[テーマ] 介護保険と健康づくり政策(1) [内容] 我が国における、介護保険と健康づくり政策に関する内容を解説する。	16	[試験または課題] [方法] レポート課題				
<b>授業外学習の指示等</b>							
各授業、テーマに沿った資料を配布し進めていく。各講義の後半に小テストを行い、理解度・到達度を確認する。(配布された資料等をまとめるファイルを各自で用意すること)							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
試験は定期試験を1回実施する(総合評価60%)。また、授業外レポート(20%)と、出席状況(20%)を課す。これらを総合的に判断して成績評価を行う。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない。</li> <li>・授業態度の悪い学生は退出させ、それ以降の講義への出席は認めない。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業中は携帯電話を鞆のなかにしまっておくこと。</li> <li>・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。</li> <li>・毎週の授業参加だけでは、単位を取得できないことを理解しておくこと。</li> <li>・授業計画は、授業の進み具合によって、多少変更が生じる場合がある。</li> </ul>		
定期試験(期末試験)	◎			60%			
小テスト・授業内レポート							
授業外のレポート		◎		20%			
ポートフォリオ	◎						
出席			◎	20%			
その他							
関連科目							
教科書	配布資料にて解説			参考書	講義の中で随時紹介する		
連絡先	笠原研究室:F棟207						

## 平成28年度 仙台大学大学院授業概要

<b>授業科目名</b>	スポーツ情報戦略特講 Sport Intelligence	<b>担当教員</b>	栗木一博/勝田 隆			
<b>領域水準コード</b>	<b>単位数</b>	<b>2単位</b>	<b>履修方法</b>	選択	<b>授業の方法</b>	講義
<b>授業の概要</b>						
トップスポーツのコーチングや競技力向上を目的とする組織の意思決定において、情報を戦略的かつ効果的に活用することは、成果の創出において不可欠な営みである。本構では、情報戦略活動が必要とされる背景やニーズを歴史から紐解くとともに、実際の情報戦略活動において求められる人材の役割や資質、能力について学ぶ。またスポーツ以外の諸領域における情報戦略活動についても、その理論や実例を扱いながら、情報戦略活動を行なう上での原理原則や高度なスキルについて深く検討する。						
<b>授業の一般目標</b>						
情報戦略活動を行なう上での原理原則を理解する。また、状況に応じた情報の戦略的かつ効果的な活用について、求められる情報活用スキルを適用しつつ、適切にその運用ができるようになる。						
<b>授業の到達目標</b>						
<b>■ 認知的領域</b>	情報戦略に関わる歴史の変遷、社会的ニーズ、現状の課題、国際的動向などを、史実や事例を通じて深く知る。					
<b>■ 情意的領域</b>	情報戦略の意義や価値、あるべき姿について本質的に考え、創造的に検討を加える視点や態度を身に付ける。					
<b>■ 技能表現的領域</b>	情報戦略に必要な基本的及び応用的なスキルについて知り、状況に応じたスキルの適用について理解する。					
<b>授業計画(全体)</b>						
各授業テーマに沿った資料を用いた講義とワークショップを中心とする。より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで理解度・到達度を確認する。また、授業の進み具合によっては、協同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行う。						
<b>授業計画(詳細)</b>						
回	授業テーマとその内容					
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	9	[テーマ] スポーツ情報戦略「組織」② [内容] 情報戦略に関わる組織・機構について			
2	[テーマ] スポーツ情報戦略とは何か [内容] 情報戦略の定義・機能・特徴	10	[テーマ] スポーツ情報戦略活動の実際① [内容] 競技フィールドにおける情報戦略について			
3	[テーマ] なぜスポーツ情報戦略なのか [内容] 情報戦略の歴史の変遷・活動誕生の背景とニーズ	11	[テーマ] スポーツ情報戦略活動の実際② [内容] スポーツ統括機関における情報戦略について			
4	[テーマ] スポーツ情報戦略「プロダクト」① [内容] 情報戦略で用いられる情報成果物・アウトプットについて	12	[テーマ] スポーツ情報戦略活動の実際③ [内容] スポーツ政策における情報戦略について			
5	[テーマ] スポーツ情報戦略「プロダクト」② [内容] 情報戦略で用いられる情報成果物・アウトプットについて	13	[テーマ] 情報を扱う「人」 [内容] スポーツ情報戦略人材に求められる資質・能力			
6	[テーマ] スポーツ情報戦略「プロセス」① [内容] 情報戦略活動の段階と方法について	14	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 受講者によるプレゼンテーション(課題は授業内で事前に連絡)			
7	[テーマ] スポーツ情報戦略「プロセス」② [内容] 情報戦略活動の段階と方法について	15	[テーマ] 総括 [内容] 総括と自由討議			
8	[テーマ] スポーツ情報戦略「組織」① [内容] 情報戦略に関わる組織・機構について	16	[試験または課題] 情報戦略に関するレポート課題 [方法] 情報戦略に関するレポートを執筆する。テーマは事前に通知する。			
<b>授業外学習の指示等</b>						
各回で配布される情報戦略に関わる論文や資料について、授業外時間を用いて各々に検討を加える。そのことについて授業時間内で論議することもある。その他、授業毎に指示があった場合はそれに従う。						
<b>成績評価方法(方針)</b>						
本構に対する貢献度(30%)、授業内外のレポート(30+20%)、及び最終課題(20%)を評価する。						
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	成績評価方法の「その他」では、本講に対する貢献度を評価します。本講では、本質に向きあう真摯な態度や積極的な行動が重要であり、そのためには履修者自身の持つ視点や考え方、情報が相互に十分に共有されることが求められることがその理由です。一部集中講義では、ナショナルトレーニングセンターでの会議や日本スポーツ振興センターの活動の参観を予定しています。東京までの一泊二日分の旅費交通費は自己負担となります。	
定期試験(期末試験)	◎	○	○	20		
小テスト・授業内レポート	○	◎	○	30		
授業外のレポート	○	◎	○	20		
ポートフォリオ						
出席						
その他		◎	○	30		
<b>関連科目</b>	スポーツ情報戦略演習					
<b>教科書</b>	特に指定しない		<b>参考書</b>	必要に応じて提示または資料を配布する		
<b>連絡先</b>	栗木研究室:E棟2階 TEL 0224-55-5079					

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツ情報戦略演習		担当教員	粟木一博／森本美行			
	Sport Intelligence (S.)						
領域水準コード	D3	単位数	2単位	履修方法	選択	授業の方法	演習
授業の概要							
<p>スポーツにおいて競技力を向上させるためには、関連する多様な情報を収集・取捨選択し、それを有用なものに加工・編集する能力が極めて重要である。特に情報を戦略的に利用することは志向性の高い目標(Target)を持ち、明確な意図(Message)のもとに情報を構成し(Operation)、構築された内容(Contents)を効果的(Effect)に伝達することを指す。本講義ではこのスポーツにおける情報戦略活動の本質を討議するとともに、具体的な体験をする。</p>							
授業の一般目標							
<p>トップコーチやトップアスリートが身につけるべき「information」を「intelligence」に変換する過程を体験し、そこに必要とされる高度な能力を身につけることを目標とする。</p>							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	目的及び状況に応じた戦略的かつ効果的な情報活動の在り方について理解する。						
■ 情意的領域	人や組織に対して高い意識付けをもって情報戦略活動を展開することができる。						
■ 技能表現的領域	目的及び状況に応じて適切な方法を用いて情報戦略活動が展開できる。						
授業計画(全体)							
<p>実際のスポーツ場面において取り扱われている情報を題材として取り上げ、情報の収集、加工、編集、配信に至る一連の過程を体験する。さらに、これらの情報を戦略的に活用するために必要となる要素について議論し、受講者自身が関わるスポーツ場面での情報戦略活動を計画し、展開する。</p>							
授業計画(詳細)							
授業テーマとその内容							
<p>本演習では、1) 競技フィールド系、2) 地域スポーツ系、3) スポーツ政策系の三つの活動領域における演習活動を行なう。履修者はそのうち一つの活動領域を選択し、以下のPDCAプロセスにより展開する。</p>							
	領域名	A. 競技フィールド系	B. 地域スポーツ系	C. スポーツ政策系			
	活動領域	トップスポーツを含む競技現場	タレント発掘・育成事業など、地方自治体等で実施されている各種スポーツ振興プログラム	スポーツ振興計画やスポーツ行政システムに関わる意思決定			
	演習プロセス						
	1. Plan(計画の策定)	各活動の目的及びその成果を定義し、その実現に向けた情報活動対象(Target)、伝達内容(Message)、情報コンテンツ(Contents)、及び情報運用方策(Operation)を計画する。また評価指標及び方法を事前に規定する。					
	2. Do(活動の実施)	履修者がかかわりのある競技フィールド(現場)において情報戦略活動を実施する。	タレント発掘・育成事業における育成プログラムや保護者プログラム、指導者プログラムなどで情報戦略活動を実施する。	スポーツ政策の企画・立案・決定に関わる意思決定の場(会議等)において情報戦略活動を実施する。			
	3. Check(アウトプット及び評価)	事前に規定した評価指標及び方法で情報戦略活動を評価し、活動報告書を作成する。また活動を通じて作成されたアウトプット(プロダクト)も併せて提出する。なお活動報告書には、活動記録も添付する。					
	4. Act(共有と振り返り)	プレゼンテーションを実施し、演習の成果や課題を共有する。					
授業外学習の指示等							
特になし。							
成績評価方法(方針)							
活動報告書(30%)、それに添付する活動記録/ポートフォリオ(20%)、及びプレゼンテーション(50%)で評価を行なう。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	ベガルタ、楽天、いわきFCなどのスポーツチームの情報戦略の現場を参観します。現地への旅費は自己負担となります。	
	成績評価方法						
	定期試験(期末試験)						
	小テスト・授業内レポート						
	授業外のレポート	◎		○	30		
	ポートフォリオ	◎			20		
	出席						
	その他	◎	◎	◎	50		
関連科目							
教科書	特に指定しない			参考書	授業毎に必要なに応じて参考書の提示/資料の配布を行なう		
連絡先	粟木一博 kz-awaki@sendai-u.ac.jp E棟2階 TEL 0224-55-5079						

## 平成28年度 仙台大学大学院授業概要

<b>授業科目名</b>	スポーツ・マスメディア論特講 Studies on Sport and Mass Media	<b>担当教員</b>	山内 亨／高橋義夫
<b>領域水準コード</b>	<b>単位数</b> 2	<b>履修方法</b>	選択 <b>授業の方法</b> 講義
<b>授業の概要</b>			
マスメディアとジャーナリズム研究の基本概念を修得し、重要な論文文献の購読を通して理論概念の把握を行う。学生の文献発表と教員とのディスカッションを中心に授業をすすめる。また、レポート(論文)の執筆を通して、メディアを含めた現代社会の仕組みを理解し、メディア研究の問題意識をかためる。			
<b>授業の一般目標</b>			
この授業を通してマスメディアとジャーナリズムに関する基礎知識とはなにかを知ることが出来る。そのほかに重要な文献と理論概念の内容が把握でき、今日のメディア現象を分析する初歩的な能力を身につける。さらにスポーツの視点を中心に、スポーツとマスメディアとの関係について批判的な捉え方と思考能力を身につける。			
<b>授業の到達目標</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 認知的領域	マス・メディアとジャーナリズム研究の基本文献の購読を通して、理論と概念の把握ができる		
<input type="checkbox"/> 情意的領域			
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域			
<b>授業計画(全体)</b>			
各テーマに沿った文献と視聴覚教材を用いて、基本的には学生による発表と教員による補足講義の方式で行う。			
<b>授業計画(詳細)</b>			
<b>回</b>	<b>授業テーマとその内容</b>		
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業内容と評価基準説明、学生の報告テーマ決定、メディア研究の基本概念&メディア研究の方法論 研究アプローチの説明、文献の書き方、引用の仕方、仮説の検証等について説明する。	9	[テーマ] 公共圏 [内容] 文献購読を通して公共圏の理論概念を把握する。
2	[テーマ] マスメディアの社会的役割について考える [内容] 新聞記事、雑誌、論文などの活字資料を収集し、今日におけるマスメディアの問題を議論する。	10	[テーマ] メディアの表象 [内容] メディアの報道によって世界がどのように映し出されるのか。表象の意味、社会的記憶の生産などを中心に講義し、ディスカッションする。
3	[テーマ] ジャーナリズムの社会的役割について考える [内容] ジャーナリズムとマスメディアの区別について講義し、ジャーナリズムの社会的意味と役割について文献の内容を中心に議論する。	11	[テーマ] 世論 [内容] 世論形成におけるメディアの役割について考える。
4	[テーマ] ジャーナリストの職能 [内容] ジャーナリストの職能を中心に文献を読み、規範と実態との乖離問題について議論する。	12	[テーマ] スポーツの取材と報道 [内容] スポーツの報道関連資料を収集し、学生とと一緒に一連の報道内容分析を試みる。
5	新聞①	13	[テーマ] スポーツの取材と報道の内容分析 [内容] スポーツ報道の内容分析の結果を中心に、スポーツ報道の傾向を把握し、問題点と課題についてディスカッションする。
6	新聞②	14	[テーマ] メディアリテラシー [内容] メディアリテラシーの文献を購読し、内容についての議論を通して今日の情報化社会に要請されるリテラシーの素養について考える。
7	[テーマ] 放送制度について調べる [内容] 日本および他国の放送制度を調べ、放送法制と構造、そして理念・価値を中心に国際比較を行う。	15	[テーマ] 各理論概念からスポーツ放送を考える [内容] これまで各授業で取り上げた理論概念や分析枠組みをおさらいし、学生とともにスポーツ報道の分析を試みる。
8	[テーマ] 放送制度についてディスカッションする [内容] 放送制度のあり方、各国の現状、放送と通信の融合およびデジタル化、グローバル化等を中心にさらに調べ、ディスカッションする。	16	[課題] [方法] 担当テーマの文献を中心に5000字の論文を書き、提出する。
<b>授業外学習の指示等</b>			
活字と映像メディアに積極的に接触し、問題意識を培うこと			
<b>成績評価方法(方針)</b>			
レポート(論文)の提出は、一回実施する(評価割合50%)また、授業内発表(評価割合50%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。また、積極的な授業参加については、加点もある。			
<b>成績評価方法(詳細)</b>			
<b>到達目標</b>	<b>認知的領域</b>	<b>情意的領域</b>	<b>技能表現的領域</b>
<b>成績評価方法</b>			<b>評価割合 (%)</b>
定期試験(期末試験)			50
小テスト・授業内レポート	○		50
授業外のレポート			
ポートフォリオ			
出席			
その他	○		50
<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/3以上欠席の学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。</li> <li>・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業中は携帯電話をかばんの中に入しめること。</li> <li>・授業中の私語は禁止すること。</li> <li>・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。</li> </ul>			
<b>関連科目</b>			
<b>教科書</b>	授業の際に各テーマに関連する論文文献を指定する。	<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉見俊哉(2004)『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣</li> <li>・湯浅正敏ら著(2006)『メディア産業論』有斐閣</li> <li>・花田達朗(1996)『公共圏という名の社会空間』木鐸社</li> </ul>
<b>連絡先</b>	山内研究室:E棟2階、OH水曜日10:40-12:10(他在室中可)／高橋(義)研究室:5体3階		

## 平成28年度 仙台大学大学院授業概要

<b>授業科目名</b>	スポーツ・マスメディア論演習	<b>担当教員</b>	山内亨・齋藤博			
<b>領域水準コード</b>	<b>単位数</b>	2	<b>履修方法</b>	半期	<b>授業の方法</b>	講義・演習
<b>授業の概要</b>						
<p>スポーツメディアに限らずメディア表現の出発点は、対象との出会いとその対象が持つ情報の獲得である。情報の獲得には「観察、データ収集・調査分析」など様々あるが、当事者に直接話を聞き、問題の所在や情報を持つ人の考え方をすることも重要な方法である。これがインタビューである。インタビューとは単に話を聞くことではない。対話を通いかに問題点と周辺情報を浮き彫りにするかということである。この科目ではインタビューを通し情報を得て、情報を表現することを学ぶ。</p>						
<b>授業の一般目標</b>						
人と出会い、その人が持つ情報を聞き出し、その情報・課題を的確かつ説得力を持って如何に表現できるかを学ぶ。						
<b>授業の到達目標</b>						
<input type="checkbox"/> 認知的領域	様々な情報収集法の一つ「インタビュー」を理解する					
<input type="checkbox"/> 情意的領域	インタビューの奥深さ、面白さを理解する					
<input type="checkbox"/> 技能表現的領域	実際のインタビュー演習の中から、その難しさや技法の狙いを理解し利用できるようにする					
<b>授業計画(全体)</b>						
前半ではインタビューとは何かを考え、インタビューを通して得た材料を新聞・雑誌などの文章として表現する。また後半では、実際のインタビュー術を体験するとともに、インタビューした音声・映像を通して様々に構成し表現することを学ぶ。						
<b>授業計画(詳細)</b>						
回	授業テーマとその内容					
1	[テーマ] オリエンテーション 講義内容・成績評価説明 [内容]	9	[テーマ] インタビュー技術の実際①「準備」 [内容] 人が持つ情報を引き出すことは簡単ではない。そのための準備が必要である。インタビューする際には何をどのように準備して臨んだらよいのかを考える。			
2	[テーマ] インタビューとは ① [内容] 「インタビュー術！」「目と耳と足を鍛える技術」をテキストにして取材の基本となる「人から話を聞く」ということを学ぶ。授業外で新聞、雑誌のインタビュー記事を探してその特長を整理してくる	10	[テーマ] インタビュー技術の実際②「聞く」「話す」「考える」 [内容] インタビューは人の「話」を通して情報を得ることである。上手に話を聞き情報を得るにはインタビュアーの技量もある。インタビューの良し悪しは相手との距離感、向き合い方、話し方、考え方が決めることもある。インタビュアーの「聞く」「話す」「考える」を検証する			
3	[テーマ] インタビューとは ② [内容] インタビューをベースにして出版された本を読んでインタビューがどう用いられていたか、どう表現されたかなどを考える。授業外で新聞、雑誌のインタビュー記事を探してその特長を整理する	11	[テーマ] 映像表現(テレビ)に於けるインタビュー [内容] インタビューを基にしたテレビ番組を参考に、インタビューの重要性を改めて整理する。各自テレビ番組を見てインタビューの特徴を整理してくる			
4	[テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く① [内容] 日頃から関心を持っていることを思い起こし何が記事になるかを考えてみる。その後、記事を書くためにはどういった人たちから話を聞かなければならないかを整理する。記事を書くためのネタを予め整理しておく。	12	[テーマ] インタビューの映像表現① [内容] 身近な住人をテーマにインタビューを試みる。そのためにどんな話題を持っているか周辺をリサーチ。インタビュー案を作り検討。			
5	[テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く② [内容] インタビューを録音したものを聞き、インタビューの問題点などを整理する。その後、それを実際に字に起こしていく。取材相手とアポイントをとってインタビューしてくる	13	[テーマ] インタビューの映像表現② [内容] 取材相手にアポを取り、インタビューに臨む。取材したテープを見てインタビューの様子、内容など問題点を検証する。			
6	[テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く③ [内容] インタビューを録音したものを聞き、インタビューの問題点などを整理する。その後、それを実際に字に起こしていく。取材相手とアポイントをとってインタビューしてくる。	14	[テーマ] インタビューの映像表現③ [内容] 当初のインタビューの内容を検討し、その内容を補充するインタビューの実施(最初にインタビューした人以外)を検討する。インタビューで得た内容を立体的に補強し、初めて見る人の理解を得る工夫をする。			
7	[テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く④ [内容] インタビューを録音したものを聞き、インタビューの問題点などを整理する。その後、それを実際に字に起こしていく。取材相手とアポイントをとってインタビューしてくる	15	[テーマ] インタビューの映像表現④ [内容] 完成したインタビュー作品をチェックし、インタビューを通して知りえる内容に奥行や深みがあるか検討する。また反省点を整理し、今後の課題としてまとめる。			
8	[テーマ] 新聞・雑誌の記事を書く⑤ [内容] これまでに書いた記事に見出しやリードなどをつけて一本の記事を完成させる。また、反省点を整理し、今後の課題とする。どういふ記事立てにするか構想を練ってくる。	16	[試験または課題] 課題発表会もしくは試験 [方法] 授業の深化、理解度によって判断し事前に知らせます			
<b>授業外学習の指示等</b>						
インタビューに基づく新聞・雑誌記事、さらにはテレビ特集番組に注意を払い、記事の基となったインタビューを想像する。						
<b>成績評価方法(方針)</b>						
講義の理解と演習での表現を総合して判断。出席は評価を受ける前提条件						
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の授業出席がないと期末試験・課題発表の資格はない</li> <li>・インタビューは人と人のふれあい、理解の深さで結果が変わるもの。</li> <li>・普段の人間理解力、状況理解力を高める努力が大事である。</li> <li>・そのために書物や新聞、テレビをよく見て必要な情報を身に着ける。</li> </ul>	
定期試験(期末試験)	○	○	○	50%		
小テスト・授業内レポート	○	○	○	50%		
授業外のレポート						
ポートフォリオ						
出席 その他						
<b>関連科目</b>	スポーツ・マスメディア論特講					
<b>教科書</b>	必要に応じて指定		<b>参考書</b>	「インタビュー術！」講談社現代新書 「目と耳と足を鍛える技術」ちくまプリマー新書		
<b>連絡先</b>	山内研究室:E棟2階、OH水曜日10:40-12:10(他在室中可)・齋藤博:E棟2階、OH木曜日17:30-19:00					

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	武道指導法演習		担当教員	齋藤浩二/南條充寿			
	Budo(Judo&Kendo) coaching Method						
領域水準コード	A 1	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	演習・実技
<b>授業の概要</b>							
武道(柔道・剣道)の初心者指導方法を取り上げて、技術の指導構成を基にした内容を実践的に展開していく。							
<b>授業の一般目標</b>							
武道(柔道・剣道)の指導内容を整理して、技術の習得と指導方法を展開していく。							
<b>授業の到達目標</b>							
■ 認知的領域	武道(柔道・剣道)の指導の手順が説明できる。						
■ 情意的領域	武道(柔道・剣道)の技術に理論的な思考をもつことができる。						
■ 技能表現的領域	武道(柔道・剣道)の模範的な基本動作を身に付けることができる。						
<b>授業計画(全体)</b>							
武道の中の柔道と剣道を取り上げ、特に初心者指導の手順を考えて、理想のおよび効率的な技術の習得と指導方法についてを展開していく。(授業は実技形式で実施する)							
<b>授業計画(詳細)</b>							
回	授業テーマとその内容						
1	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要	9	[テーマ] 柔道の道具 [内容] 基礎知識として武道(柔道)の道具について取り上げ、その使用における留意事項について解説する。				
2	[テーマ] 武道(剣道)について、刀剣・竹刀の説明 [内容] 基礎知識として武道(剣道)と刀剣や竹刀について取り上げる。	10	[テーマ] 柔道の基本動作① [内容] 基本動作である礼法、基本姿勢、進退動作、組み方の内容を説明し、その伝達における留意点について解説する。				
3	[テーマ] 剣道の技術構成 [内容] 技の構成から指導内容を考える。	11	[テーマ] 柔道の基本動作② [内容] 基本動作である受身(後ろ、横、前方回転)の内容を説明し、その伝達における留意点について解説する。				
4	[テーマ] 剣道の基本動作 [内容] 礼法、構え、振り方、足さばき、素振りの内容を説明し、指導の手順と留意点について解説する。	12	[テーマ] 柔道の固技 [内容] 固技(抑込技、絞技、関節技)における技術的構造を解説し、実際の進行例などを挙げ、その留意点について解説する。				
5	[テーマ] 剣道の基本打突 [内容] 面、胴、小手の基本的な打ち方と指導の手順と留意点を解説する。	13	[テーマ] 柔道の投技① [内容] 足技の技術的構造を説明し、指導における実際の進行例などを挙げ、その留意点について解説する。				
6	[テーマ] 剣道具着装と打ち方 [内容] 剣道具の着装の指導の仕方と用具着装後の打たせ方の手順について解説する。	14	[テーマ] 柔道の投技② [内容] 手技、腰技の技術的構造を説明し、指導における実際の進行例などを挙げ、その留意点について解説する。				
7	[テーマ] しかけ技と稽古法① [内容] 一本打ちの技、連続技の代表的な技を取り上げて指導の留意点を解説する。さらに、打ち込み稽古と互格稽古を行う。	15	[テーマ] 柔道の投技③/ふりかえり [内容] 捨身技(真捨身、横捨身)の技術的構造を説明し、指導における実際の進行例などを挙げ、その留意点について解説する。これまでの内容についてふりかえる。				
8	[テーマ] しかけ技と稽古法② [内容] 払い技、引き技の代表的な技を取り上げて指導の留意点を解説する。その後、打ち込み稽古と互格稽古を行う。	16	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度を試験を行う。				
<b>授業外学習の指示等</b>							
武道(柔道・剣道)における専門用語や技の種類等について調べてくること。							
<b>成績評価方法(方針)</b>							
試験(50%)、授業時の実技(50%)、授業態度を総合的に評価する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。							
<b>成績評価方法(詳細)</b>					<b>履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)</b>		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	節度ある態度で受講してください。ふさわしくない場合は、厳しく指導します。柔道衣が必要となります。		
定期試験(期末試験)	○		◎	50%			
小テスト・授業内レポート				評価対象外			
授業外のレポート				評価対象外			
ポートフォリオ	○			加点			
出席				欠格条件			
その他(授業時の実技など)			◎	50%			
関連科目							
教科書	『剣道指導要領』、『柔道指導要領』			参考書			
連絡先	齋藤研究室: 第三体育館3階剣道場      オフィスアワー: 木曜日 11:00~12:30						

平成28年度 仙台大学大学院 授業概要

授業科目名	スポーツセキュリティ論演習		担当教員	田中智仁			
	Security for Sports						
領域水準コード	C-2	単位数	2	履修方法	選択	授業の方法	演習
授業の概要							
<p>大型のスポーツイベントにおいて実施される警備に着目し、その歴史、法制度、事例等を体系的に学ぶ。その上で、スポーツイベントのセキュリティのあり方を考える。授業は演習形式であり、受講生の発表および発言を尊重する。ただし、警備に関する予備知識がない受講生も含まれることを想定し、教員が必要に応じて解説しながら授業を進行する。</p>							
授業の一般目標							
<p>警備に関する歴史的かつ法的な側面を理解し、現代社会における警備の意義と課題を学術的な観点から捉えた上で、スポーツイベントのセキュリティについて具体的な警備計画を立案することができる。</p>							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	現代社会における警備の意義と課題を、学術的な観点から考えることができる。						
■ 情意的領域	スポーツイベント以外の興行や祭事等にも目を向け、応用的に警備体制の妥当性を考えることができる。						
■ 技能表現的領域	スポーツイベントの安全管理を警備の観点から考え、警備計画を立案することができる。						
授業計画(全体)							
日本の警備業を基軸として、警察制度も視野に入れながら、スポーツイベントのセキュリティについて考える。現行の警備業の概況と警備業務の種類、警備業および警察の歴史、警備業法と警察法、各種のスポーツイベントと雑踏警備の事例を概観した上で、警備に起因する監視社会の負の側面にも着目し、スポーツセキュリティのあり方を考える。							
授業計画(詳細)							
回	授業テーマとその内容						
1	<イントロダクション> 授業計画および授業の到達目標について説明するとともに、受講生の希望を確認したうえで第2回以降の授業計画を調整する、また、日本の警察制度および警備業界について確認する。	9	<東京オリンピック(1964年)のスポーツセキュリティ> 1964年に開催された東京オリンピックにおいて、日本の警備業がどのように関与し、どのような社会的意義が見出されたのかを確認する。				
2	<警備業務の種類とスポーツセキュリティ> 日本の警備業が展開する各種業務の内容を概観し、スポーツイベントのセキュリティを担う分野について概説する。	10	<大阪万博の雑踏警備> 1970年の日本万国博覧会(大阪万博)において、日本の警備業がどのように関与し、どのような社会敵意が見出されたのかを確認するとともに、雑踏警備の観点からスポーツセキュリティを考える。				
3	<警察制度とスポーツセキュリティ> 警察がどのようにスポーツイベントに関与するのかを確認するとともに、公的権限に基づくスポーツセキュリティのあり方を考える。	11	<マラソンのスポーツセキュリティ> 主にボストンマラソン爆弾テロ事件と東京マラソンの事例に着目し、マラソンの警備体制について考える。				
4	<警備の歴史とスポーツセキュリティ①> 日本の警備業の歴史を概観し、スポーツイベントと警備業の関与について確認する。また、公的権限のない民間企業によるスポーツセキュリティについて考える。	12	<サッカーのスポーツセキュリティ> サッカー欧州リーグの「フーリガン」とリーグにおけるサポーター同士の衝突に着目し、サッカーの警備体制について考える。				
5	<警備の歴史とスポーツセキュリティ②> 世界の警備業の歴史を概観し、スポーツイベントと警備業の関与について国際的な視野で考える。	13	<プロ野球のスポーツセキュリティ> 日本のプロ野球にみられるトラブルや球場周辺の混雑等に着目し、プロ野球の警備体制について考える。				
6	<警備の歴史とスポーツセキュリティ③> 日本の警察の歴史を概観し、警察と市民の関係性がどのように変遷したのか、その上でスポーツセキュリティがどのように扱われてきたのかを考える。	14	<スポーツセキュリティの功罪①> 警備体制の強化に由来する各種のトラブルに着目し、監視社会論の観点から「統制」のあり方について考える。				
7	<警備業法とスポーツセキュリティ> 警備業法の条文および制定・改正の社会的背景を確認するとともに、スポーツセキュリティの法的側面について考える。	15	<スポーツセキュリティの功罪②> 第14回までの授業内容を総括するとともに、警備の正負の両側面を踏まえながら、スポーツセキュリティのあり方を考える。				
8	<警察法とスポーツセキュリティ> 警察法の条文および制定・改正の社会的背景を確認するとともに、スポーツセキュリティの法的側面について考える。	16	<授業外レポート> 全15回の演習を通じて調べ、考察した内容をレポートにする。				
授業外学習の指示等							
<p>1. 日本の警備業の概況について調べておくこと 2. 日本の警備業務の種類と警備業法について調べておくこと 3. 各種のスポーツイベントにおける警備体制に着目し、「なぜ、そのような警備体制が敷かれているのか」、「より有効な警備体制を敷くにはどうすればよいか」を考えること 4. 各種のスポーツイベントにおける警備の失敗例について調べておくこと</p>							
成績評価方法(方針)							
<p>毎回の授業における発言および発表資料、授業外レポートに基づいて成績を評価する。レポートでは、①各種警備業務に関する知識の妥当性、②警備計画の実現可能性を重視する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。</p>							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講に当たって学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>1. 警備業の実務経験の有無は問わない。 2. 主に社会学の観点から授業を実施するので、社会学の基本的な考え方や理論を理解する姿勢を求める。他の学問領域の観点からの議論を希求するのであれば、受講生も相応の下調べをして授業に臨むこと。 3. 教員が一方向的に講義するのではなく、受講生一同が意見や疑問を表明しながら、闊達に議論できる雰囲気を目指す。 4. 受講生の希望に応じて、内容を変更することがある。</p>		
成績評価方法							
定期試験(期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
授業外のレポート			○	50			
ポートフォリオ	○			50			
出席		○		欠格事由			
その他							
関連科目							
教科書	特に指定しない		参考書	田中智仁2015『気ままに警備保障論』現代図書 田中智仁2012『警備業の分析視角』明石書店 田中智仁2009『警備業の社会学』明石書店			
連絡先	第五体育館3階33号研究室(田中研究室) tm-tanaka@sendai-u.ac.jp						